

金沢21世紀美術館学芸課 事業報告2010-2012年度

Curatorial Section, 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa

Annual Report for the Year 2010-2013

目次

contents

---

展覧会

Exhibitions

- 4 Alternative Humanities ～新たなる精神のかたち：ヤン・ファーブル×舟越桂
  - 6 八谷和彦《OpenSky》プロジェクト
  - 8 ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス
  - 10 ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー
  - 12 桑山忠明展／Untitled: Tadaaki Kuwayama
  - 14 コレクション展 目には見えない確かなこと
  - 16 イエッペ・ハイン 360°
  - 18 Inner Voices —内なる声
  - 20 押忍!手芸部と豊嶋秀樹『自画大絶賛(仮)』
  - 22 モニーク・フリードマン展
  - 24 サイレント・エコー コレクション展I・II
  - 26 工芸未来派
  - 28 ソンエリュミエール—物質・移動・時間、そして叡智 第1章：物質・移動・時間
  - 30 ソンエリュミエール—物質・移動・時間、そして叡智 第2章：そして叡智
  - 32 ス・ドホ | パーフェクト・ホーム
  - 34 高嶺 格：Good House, Nice Body ～いい家・よい体
  - 36 ビーター・マクドナルド：訪問者
  - 38 Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ×関口和之
  - 40 デザインギャラリー
- 

教育普及

Education Activities

- 45 2010-2012年度の教育普及事業
  - 47 キッズスタジオ・プログラム
  - 55 アートライブラリー・プログラム
- 

収集保存・アーカイブ

Conservation, Registration, Archives

- 66 修復
  - 68 貸出
  - 70 アーカイブ
- 

資料

Appendix

- 75 展覧会データ
- 87 新規収蔵作品・資料

展覧会  
Exhibitions



1



2

## Alternative Humanities ～新たなる精神のかたち： ヤン・ファールブル×舟越桂

2010.4.29-8.31

ルーヴル美術館と当館の2館のキュレーター  
の共同キュレーションによるこの展覧会は2つ  
の位相から成る。ひとつは「現代美術家の2人  
展」として、ベルギーのヤン・ファールブル（1958  
年生まれ）と日本の舟越桂（1951年生まれ）とい  
う2人の現役作家をルーヴル美術館と金沢21  
世紀美術館という2館のキュレーターがそれぞ  
れキュレーションする位相。もうひとつはヨー  
ロッパとアジア、ベルギーと日本という地理的、  
歴史的、文化的な差異を見据えながら、過去か  
ら連続する現在を生きる人間に共通する問題を  
「テーマ展」として問いかける位相である。総  
点数196点に及ぶこの大規模な2人展の企画  
の主体は当館である。

ヨーロッパとアジアの2つの小さな国にそれ  
ぞれ深く根を張る2人の世界を並存させ多次  
元の対話を誘発させる趣向を凝らし、我々は彼

らの表現の奥深くに踏み入り、その尖鋭性と根  
源性を露わにすることを試みた。ファールブルの  
作品世界はゲスト・キュレーターのマリー＝ロー  
ル・ペルナダック氏（ルーヴル美術館現代美術担  
当キュレーター）が、そして舟越の作品世界は当  
館の村田大輔学芸員が担当。さらに高階秀爾  
氏（美術史学者、大原美術館長）と古田亮氏（東  
京芸術大学 大学美術館准教授）を企画アドバイ  
ザーとして招き、壮大な美術史の流れのなかで  
2人の現代美術家の営為を総合的に検証し、一  
つのテーマ展として編集した。

結果として、ファールブルの作品48点と合わせ  
て、ファールブル自身のルーツであるベルギーで  
生まれた15-17世紀のフランドル絵画よりキリ  
ストの受難や聖母子を描いた宗教画など9点  
が展示され、内1点のルーヴル美術館所蔵の  
肖像画はファールブルの自刻像との過激なコラ

ポレーションに供された。一方、舟越の彫刻、  
デッサンなど121点とともに、日本が西洋近代  
主義を受容する幕末明治に登場する2人の鬼  
才、河鍋暁斎と狩野芳崖による観音図など12  
点、また実父、舟越保武による聖人像のデッサ  
ン6点も出品された。暁斎の名作《釈迦如来図》  
がフランス国立ギメ東洋美術館から里帰りし、  
また芳崖の《悲母観音像》を元に1895年の第4  
回内国勧業博覧会に出品された《悲母観音図  
織額》とその織下絵が、初めて並べて展示され  
る場となったことは特筆すべき出来事である。

「革命家としてのキリストを私は信じる」と明  
言するファールブルの態度は一貫している。芸  
術は革命であり、ファールブルは芸術家として革  
命家のキリストに自身を重ね合わせる。無数  
のスカラペで築かれた《昇りゆく天使たちの  
壁》、無数の鳥の羽根で象られたフクロウが並



3



4

ぶ《死の使者の首》、人間や動物の夥しい骨片で象った《男と女の来るべき慈悲の心臓》、キリストの腕や脚を象徴する《ウンブラクルム》など、そこには肉、血、体液、骨、昆虫、鳥、動物といった生体にまつわる有機物に現代の神性が再発見され、飛翔のイメージが発現する。

一方、幼児洗礼を受け、今もキリスト教徒である舟越は「世界中の誰も見たことのないものに対して、誰もが似たような感覚を持っていて、皆それぞれ名前を付けたような気がする」と言う。気になるものをアトリエのそこそこに散りばめながら、クスノキに向き合って長い対話を重ねるうちに彼のなかでイメージや言葉が醸成する。《水に映る月蝕》をはじめ裸婦像の肩から生えたような手は、「自分の手であるかのようで、そうではない。上方からの手でもあるような、そのいずれでもあり得る存在」として発生した。さらに近年のスフィンクスのイメージはより一層明瞭に「人間のなかに存在する神性を感じながら」生み出された。舟越の手に成るあらゆる人間像に飛翔のイメージを見出すことができる所以である。

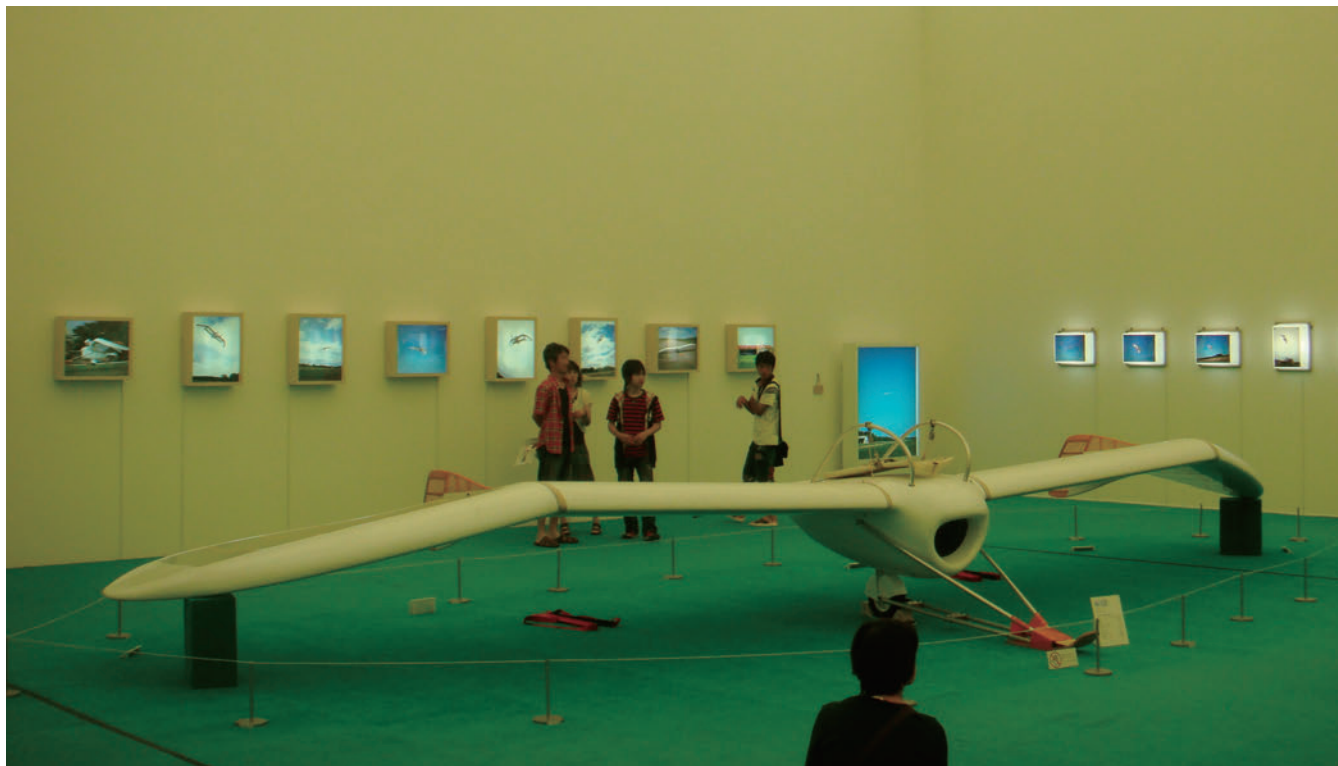
とりわけ当館中央に位置する円形ギャラリー14の展示は、本企画のコンセプトを象徴する。空間の中心部分ではファーブルの《ブリュージュ3004(骨の天使)》と舟越の《水に映

る月蝕》が対峙し、15-17世紀ベルギーに生まれたフランドル絵画よりキリストの受難と聖母、聖家族の図像、そして西洋近代の受容に揺れる幕末明治の日本に登場する釈迦如来図や観音図がその周囲を取り巻く。自身の血や体液によるドーイング、骨片を繋いで象った腕と脚、ブロンズ製のオウム等によって、ファーブルはアーティストとしての自身と革命家としてのイエスの密接な関係を独自のイコノロジーで綴った。他方、舟越自身の身体を型どりした石膏のボディ、マリア像の足の試作、未完の裸婦デッサン、極めて小品の女性の頭部とトルソー等、舟越が長年アトリエに潜ませてきた秘蔵の作品が、近代日本の心象を表す釈迦や観音のイメージと並んで姿を現し、累々たる舟越の思索を物語った。

ファーブルと舟越の飛翔する人間像とともにフランドルと日本の歴史的図像が一堂に集う時空と化した本展は、地理的、歴史的、文化的な差異を超えて、過去から連続する時間を共に生きる生き物としての人間性を問うものであった。

(不動美里)

1. 展示室11 舟越桂 彫刻作品  
手前の作品：《私の中の緑の湖》2008年
2. 展示室4 ヤン・ファーブル《聖母ノ戦士》2004年
3. 当館中央に位置する円形ギャラリーでは、古今東西のイコンに囲まれてファーブルの《ブリュージュ 3004(骨の天使)》と舟越の《水に映る月蝕》が対峙する。  
展示室14  
左 舟越桂《水に映る月蝕》2003年  
右 ヤン・ファーブル《ブリュージュ 3004(骨の天使)》2002年
4. ヤン・ファーブル  
《私自身<sup>から</sup>が空になる(ドワーフ)》2007年  
H165 x W56 x D50 cm  
AD Gallery  
絵画：ロヒール・ファン・デル・ウェイデン  
(c.1399-1464年)の原画に基づく  
《ブルゴーニュ公、フィリップ善良公(1396-1467年)の肖像》  
16世紀 [c.1530-1540年]  
H34 x W25 cm  
ルーヴル美術館絵画部門、M1818  
1856年 シャルル・ソヴァージュ氏寄贈



1

## 八谷和彦《OpenSky》プロジェクト

2010.4.29-8.31

「OpenSky」は個人的に飛行装置を作り、人が乗って実際に空を飛ぶことを目的にしている。スポーツとしても文化としても、個人的に空を飛ぶことが定着していない日本では、「飛行」は特別なことだから、そもそも「個人的に」という言葉を「飛行装置を作る」に結びつけるのはむずかしい。そのうえ、八谷にとって、その飛行装置とは、宮崎駿・作『風の谷のナウシカ』に登場する「メーヴェ」の機体コンセプトを取り入れたものであることが絶対条件であった。メーヴェは独語で「カモメ」を意味し、ナウシカのメーヴェも、カモメが飛行中に広げた翼と同じフォルムを持つ、小型の一翼機である。エンジンを搭載し飛行するが、風をつかまえて滑空することもできる。現在の技術から考えて「工学的には合理的」なフォルム<sup>1)</sup>とされながらも、折

りたみ可能な翼や、収納式のペダルでエンジンを着火し、垂直離陸や高速飛行をすることや、操縦把を握って立ち乗りしたり、頭上に持ち上げて走ることができるほどのコンパクトな飛行装置は、あくまでも架空の話の中のことである。八谷の過去の作品「エアボード」シリーズ<sup>2)</sup>や《サイコ・コミュニケーター・システム(フラナガン研究機関)》<sup>3)</sup>に見られるように、フィクションを現実 realistically 実体化する可能性を追求するのは、八谷和彦というアーティストの特性のひとつといていい。反重力の飛行装置の姿をメーヴェに借りたのも、その延長上にある。それと同時に、八谷がメーヴェに関心を寄せたのはプロジェクトが開始された時代にある。

『風の谷のナウシカ』は土鬼(ドルク)とトルメキアという二つの国の対立から起きる闘い

に、ナウシカのいる風の谷が巻き込まれていくというストーリーだ。「OpenSky」は2003年に開始されたプロジェクトだが、時はイラク戦争に日本が参戦した年でもあった。武装解除や特定の民族弾圧など、参戦しなければならない事由に日本が直接関与していたとは考えにくい。にもかかわらず、アメリカを支持し派兵を決めて戦争に参加していった状況を、八谷は『風の谷のナウシカ』に写してみたとったのだ。対立や抵抗による破壊ではなく、理解や尊重による共生の道を探ること。「OpenSky」は、少なくとも闘うことの必然を議論することなしに進んだ国家国民の状況に抵抗し、メーヴェで自由に空を飛ぶナウシカに希望の託したプロジェクトでもあるのだ。

「OpenSky」プロジェクトには、八谷のもうひ



2



3



4

1. 《OpenSky》プロジェクト：展示風景
  2. 八谷和彦《M-02》2004-2006年  
スプルース、アラスカ棒、GFRP、CFRP、ジェラルミン、他  
H131.5 × W963.6 × D313 cm  
金沢21世紀美術館蔵
  - 3.4. 八谷和彦《OpenSkyテストフライト》2008年  
金沢21世紀美術館蔵
2. Photo: KIOKU Keizo  
3.4. Photo: YONEKURA Hirotaka

とつこの想いが込められている。それは日本に民間用航空機の市場がないことである。八谷は、しかしこの現状に対して市場がないと飛行機の開発できないというのであれば、マスプロダクトであることを問われないアートの実現だったら可能かもしれないと考えた。これが「個人的に飛行装置を作る」につながっている。技術的実現性を達成しても、有用かつ経済的実現性を問われる経済市場で飛行機開発を個人で実現することは事実上不可能である。しかし、現代社会は行き詰まっていると仮定するならば、失敗されても許される文化を自ずと持つアートの世界は、適応力とイノベーションを包容する夢のようなフィールドである。そして初めの1機が成功すれば、次は未来の人の行動を変えてしまうかもしれない。つまり近い将

来、八谷に倣えば自由に空を飛べるとなれば、技術革新が進められ、社会システムも変わる可能性があるのだ。21世紀を形づくる山ほどの課題を、今後我々はどのように解決していくのだろうか。「OpenSky」プロジェクトは、実機の作り方を提案するものではなく、未来に対する人間の態度と姿勢を問うものだ。個人の創造性をいかに発揮させ、あらゆるジャンルを横断しながらコラボレーションによって実現していくこと。「OpenSky」プロジェクトは、めまぐるしく変化する時代の要請に、最適解を以て応えるイノベーションとなる可能性を持っている。

(黒澤浩美)

- \*1. 「四戸哲：八谷和彦対談」  
八谷和彦 公式ホームページより  
<http://www.potworks.co.jp>
- \*2. 映画「バック・トゥー・ザ・フューチャー」に出てくるホバーボードを、ジェットエンジンを搭載して制作した。
- \*3. アニメーション作品「ガンダム」に登場するニュータイプという概念に着目し、「サイコ・コミュニケーター・システム（フラナガン研究機関）」の名で行われた「視線のみで相手を無意識のうちに誘導する」実験を行う、体験型作品。



1



2

## ペーター・フィッシュリ      ダヴィッド・ヴァイス

2010.9.18-12.25

スイスを代表する美術家ペーター・フィッシュリとダヴィッド・ヴァイスのアジア初の個展は、美術館連絡協議会より3か月の海外研修助成を受け、作家への取材、制作及び展示同行、作品及び関係者調査と取材を経て実現に至った。チューリヒに生まれ育った作家を取り巻く環境及び歴史的背景に直に接することができない、また、両者は筆者の質問と希望に惜しみなく応えてくれた。主流を生み出すことを拒むアナーキズムとパンク・スピリットの姿勢を備え、世界を見つめ、問い、生きることを考える彼ら独自の美学と寓話が織りなす多重多層な神話の世界を展覧会体験に丁寧に映し出すことに主眼を置いた。

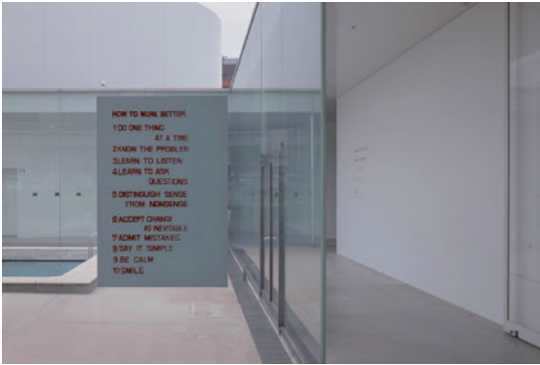
展示空間では、「LEARN TO LISTEN (人の話を聞くこと)」「SMILE (笑顔で)」など10箇条から成る《よりよく働くために》が社会を生きる問いとして鑑賞者を迎え、観る者を「問い」の深淵

へと誘う。次の作品群は、迷路、生き物、チューブ、内耳の平衡器官のような形を象った立体4点。ほぼ灰色一色で着色され、堅さや重さ等見た目から捉えることができない実体の曖昧さが観る者を惑わし、内部への興味をそそる。いよいよ展示室に入る。光と色が移ろいゆくトンネルを延々と進む大画面の映像を前に、自分自身が内部へと入り込んでいくような感覚を抱く。内部への誘いを過ぎると、約12メートルの高さの展示室にネズミとクマをモチーフとした映像作品5点が天地一帯に広がる。第一作《ゆずれない事》で、ネズミとクマは都市=商業主義社会に出て一儲けを企み失敗、美と真実の追求に突き進むも、散々な目に遭い絶望の果てに、「すべてには理由がある」と悟り、世界の秩序を独自の視点で図式化、《秩序と清潔さ》にまとめ、この本を携え旅立っていく。ネズミとク

マはさらに広大な自然の中を生き、本空間の中央の暗いケースの中で半ば標本化したかのごとく佇む。あるいは、バロック様式の宮殿、日本庭園を見つめ、眠り、空中を浮遊しながら、霧の中に消えゆく<sup>1)</sup>。

支配的な動向を見つめ疑問を呈するということは、活動当初より彼らの表現の大きな特徴であり強さである。物事を異なった観点で捉える「誤用」という手法は、卑近な素材を用いた最初の作品「ソーセージ・シリーズ」や「均衡」シリーズに顕著だ。また、これらの作品に見受けられるスケッチ的試作的行為は、即行性というフィッシュリとヴァイスの思考と制作姿勢と密に関係する<sup>2)</sup>。安価な粘土を用いた約100点の彫刻にて百科全書的世界提示する《不意に目の前が開けて》には、権力構造や支配体制に抗うフィッシュリとヴァイス流のアナーキズムが明快だ。





3



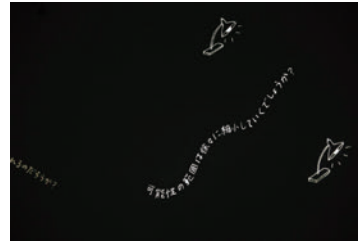
4



5



6



7

秩序や規律から逸脱し、流動的かつ混沌とした彼らの美学を提示する時、ガラス張りで透明、複数のグリッドが交差しては消滅するという複雑なSANAAの建築的特徴は有効であった。そして、作家にとって新たな展示の在り方、そして表現も誕生した。《不意に目の前が開けて》を10点程度毎にまとめ展示台に置く方法は、初の試みであった。さらに、このユニット11台が地に点在、上空を6点の《エアポート》が浮遊するという組み合わせと展開も初である。

屋外の光庭には長方形のコンクリートの塊の作品《無題（コンクリート・ランドスケープ）》が配された。雨や光、風を受け、空中の土や埃など塵が積もり、表面の色に変化を来し、作品自体が周辺の現象そのものをも映し出すこの風景作品に、柔らかな金属音が木霊する音の作品《クリン クロン》が組み合わせられた。本作品は作家が数年前から構想していたが、光庭との出会いがきっかけで完成した。この2作品は本サイト・スペシフィックな空間を記録すべく、当館に収蔵された。

そして、「クマ」と「ネズミ」がモチーフの映像作品を一堂に介した空間。個々に特有の物語があるものの、併置されることにより、「今ここ」という世界は無意識あるいは夢の世界も含めた総体として、フィッシュリとヴァイスそして私た

ちの中で新たな寓話として、あたかもネズミとクマが世界のあちこちに移動し生き続けるという思考が強く浮き彫りにされた。小さなネズミとクマが日本の庭園を巡る映像作品《庭園にて》は、数年前から構想中だったが、本展覧会のために作家が来日し、数日日本で過ごした故に完成されたものだ。

フィッシュリとヴァイスは、二人で一つの大きな自我（Big Ego）となるのではなく、小さな個の集まる共同体として、主流を生み出すことを拒むアナーキズムの姿勢を貫き、日常の大小様々な出来事を真摯な眼差しで見つめ、各々の持ち得る範囲の技術と手法で試す。結果的に、2012年4月に残念ながら逝去したダヴィッド・ヴァイス存命時に開催された最後の公立美術館個展となった。だが、彼の精神は現在も作品とともに生き、「問い」は、円形空間に鈍いシャッター音とともに次々と現れては消える《質問》のように、依然として歪曲し宙を漂い、今を生きる。

（北出智恵子）

\*1. 《正しい方向》（1982-83年）《ネズミとクマのコスチューム》（1980/2004年）《あるネズミとあるクマの映画の一部》（2008年）《無題（モバイル・ビデオ）》（2009年）《庭園にて》（2008-2010年）

\*2. ヴァイスは、マーティン・キッペンベルガーの言葉「Heute denken, morgen fertig.（今日考えて、明日には完成。）」に喩え、フィッシュリはアルテ・ポーヴェラ運動、さらに1970年代の支配構造への反発から起こったパンクの精神に喩える。（2010年9月11日、作家と筆者の会話より）

1. 手前《不意に目の前が開けて》1981/2006年  
奥《エアポート》1987年-

2. 手前《ネズミとクマのコスチューム》1980/2004年  
奥《ゆずれない事》1980-1981年

3. 《よりよく働くために》1992年

4. 《無題（コンクリート・ランドスケープ）》2010年  
《クリン クロン》2010年

5. 《無題》2000/10年

6. 「ソーセージ・シリーズ」より《ファッション・ショー》  
1997年 カラー写真  
Courtesy of the artists; Galerie Eva  
Presenhuber, Zürich; Sprüth Magers Berlin /  
London; Matthew Marks Gallery, New York

7. 《質問》2000-2010年

1-5.7. Photo: WATANABE Osamu



1

## ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー

2011.1.8-3.21

ホンマタカシは写真集『TOKYO SUBURBIA』（東京郊外）（1998）<sup>1）</sup>の発表を契機に評価が高まった現代写真家である。80年代後半から雑誌や広告を舞台に活躍する一方、写真表現の可能性を追求し、写真に何ができるか、写真とは何かを真摯に捉えてきた。ホンマの写真は90年代に多くの写真家の登場を促し、アートの領域での写真批評を可能にした。「TOKYO SUBURBIA」では「東京」の「郊外」という特殊な地域をドライな目で見つめ、物言わぬ写真に社会事象ともなったひとつの時代の空気を見事に語らせている。しかし、現実をありのままに伝えているというよりは、ホンマ自身の目を通して、すべてが主観的でコンセプチュアルなアプローチによるイメージとなり、結果として被写体にニュートラルで無関係さを持つホンマ自身の「東京郊外」についての見方を示している。

ゆえに「TOKYO SUBURBIA」は純粋なドキュメンタリーというよりは、より表現に力点を置いたドキュメンタリーであり、記録と表現のどちらかではなく、記録することで表現する、ホンマタカシが言うところの「ニュー・ドキュメンタリー」そのものである。

展覧会「ニュー・ドキュメンタリー」は、同時に写真というメディアの特性によって引き起こされるさまざまな問題—複製にまつわるaura、イメージとテキストとの関係性、時間、経験の代用、多重生や多義性など、現代美術における重要なテーマを取り上げ、プリントの写真だけでなく、そこから派生したシルクスクリーンや印刷物、映像、インスタレーションなど、多様なメディアや形態を用いた作品が発表された。

展覧会の冒頭を飾った《Trails》は、雪上に延々と続く血痕と思しきものを記録した写真と

絵画から成るシリーズである。写され描かれた赤い痕跡が何を物語るかは全く明らかにされないが、観る者を刺激しながら想像力をかき立てるうちに、見てとったものについての疑念や戸惑いが生じる。写真が決して「真を写す」ものではないことを繰り返して述べてきたホンマにとって、虚構と現実の間のゆらぎを、写真と絵画という異なるメディアの間のゆらぎに置換して、観る者に強く自覚させているのである。

同様に、写真が意味を帯びるのは映し出された動かし難い記録性のためではないことを「Tokyo and My Daughter」のシリーズで、作品タイトルとの間で暴いてみせた。幼い少女が成長していく過程を東京の街の風景を織り込みながら連続して見せるという、さながら家族アルバムからの抜粋のような作品である。タイトルにある「My Daughter」と、ホンマ自身が少



2



3



4



5

女と共に映る写真を一瞥すればなおのこと、ホンマが家族を撮り続けている「ドキュメンタリー」なのではないかと誰もが考える。しかし事実は全く異なり、結局のところ、写真の意味や内容はどのように形成されるかという、ホンマの問いに他ならない。シルクスクリーンの手法を使った「M」は、「同じものだけれど少しずつ違うもの」を作り出すシルクスクリーンの手法と同じロゴの元に拡散する世界的ハンバーガーチェーン店のイメージに重ねた作品群である。同時にシルクスクリーンはアメリカン・ポップを代表する技法でもあり、アメリカ大衆文化を参照点ともしている。網点を荒目にしてトリミングをした作品は元々の写真が持つイメージを大胆に逸脱して、いくらかでも増殖する現実の店舗展開をそのまま想起させる。

《re-construction》は物質としての写真のテ

クスチャーにこだわることを放棄し、元の意味や目的が剥ぎ取られた均質化されたイメージの焼き直しの集積である。芸術の領域における確立された写真と対極を為す広告や雑誌の特集写真は写真家の名前は小さくクレジットされるだけで、ほとんど匿名に近い。しかし、目的や発表の仕方は異なってもどちらもホンマタカシという写真家の仕事(work)のボディを成すものと、ホンマ自身も立ち位置を明確にしている点で意義深い作品であった。

(黒澤浩美)

\*1. 「TOKYO SUBURBIA」は第24回1998年度木村伊兵衛賞を受賞。

1. 《Trails》より(2点組) 2009年  
タイプCプリント 金沢21世紀美術館蔵
2. 《Tokyo and My Daughter》2006年  
Cプリント、フォトアクリル 金沢21世紀美術館蔵
3. 《Tokyo and My Daughter》2006年  
Cプリント、フォトアクリル 金沢21世紀美術館蔵
4. 《M/ロサンゼルス》2002/2010年  
シルクスクリーン 金沢21世紀美術館蔵
5. 《re-construction》2011年  
インスタレーション:各256頁、1色刷オフセット印刷  
作家蔵

© Takashi Homma



1



2



3

## 桑山忠明展 / Untitled: Tadaaki Kuwayama

2011.1.8-3.21

1960年代よりニューヨークを拠点に活動し、一貫した態度で芸術に向き合う現代美術家、桑山忠明の最新の表現を紹介する個展。

東京藝術大学で日本画を学んだ桑山は、卒業後渡米し、日本画の手法を生かしながらも絵画的な要素を極限まで排除した、独自の絵画を確立した。以後、桑山の探求は素材へと向かい、絵画は物質性を帯びていく。さらに物質としての「絵画」は、複数の絵画の反復が生み出す「空間」の構成へと展開し、1990年代からは、人工的で無機質なパネルを用いて建築空間を変容させ、新たな芸術空間を創出するプロジェクト型の作品を相次いで発表している。

本展では、サイズやプロポーションが異なる当館の4つの展示室を使い、その特徴を最大限に生かしたインスタレーション作品《金沢21世紀美術館のためのプロジェクト》で、桑山の空間表現の新展開を展観した。

### 《展示室10のためのプラン》

2枚ずつ連結させたゴールドのパネル16点が壁2面に一列に並べられた。大量生産の工業製品を思わせるシンプルな形状のパネルはベークライト加工された合板にメタリックスプレーを均一に塗装したものである。材質、形、サイズ、色…あらゆる要素が作家の綿密な計算によって割り出されているが、そこに作家の手の痕跡はない。同一の精度をもって複数点制作するこの作業には、膨大な時間と労力を要することが推察される。

メタリックな表面をもつ無機質なパネルが照明や鑑賞者の視点によって表情を変え、光の変化が空間を意識させる展示であった。

### 《展示室12のためのプラン》

1996年のプロジェクトにおいて発表された素材を、当館展示室に合わせて再構成し、新作として見せたこの展示は、桑山にとっての作品が物質ではなく、空間であることを印象づけるものであった。

展示室入口から見て正面の壁一面にメタリック塗装を施された2色のベークライト合板が交互に並べられた。それらはわずかにブルーとイエローの発色をもつが、光の状況によって変化する表面の固有色を認識することは難しい。

展示の現場において、桑山自身が素材の展示位置や点数、照明を調整し、作品は初めて完成する。5年の時を経た素材が、「いま」の空間として立ち上がる様子に、桑山が追求する芸術の本質を垣間みることができた。



1. 展示室11のためのプラン (イエロー、オレンジ)  
2011年  
アノダイズド・アルミニウム 金沢21世紀美術館蔵
2. 展示室10のためのプラン (ゴールド)  
2011年  
メタリック塗装、ベークライト加工合板、アルミアングル
3. 展示室12のためのプラン (ブルー、イエロー)  
1996-2011年  
メタリック塗装、ベークライト加工合板、アルミアングル
4. 光庭のためのプラン (ゴールド、シルバー)  
2011年  
アノダイズド・アルミニウム

1. Photo: SAIKI Taku

2-4. Photo: WATANABE Osamu

4

#### 《展示室11のためのプラン》

オレンジとイエローのアルミニウムのオブジェ各8点が交互に床一列に配置され、天井高9メートル、全長約66メートルの白い壁は、そのまま残されている。この展示室の大きく美しい空間、とりわけ壁の美しさを生かしたかったと桑山は明かし、モノの存在により「建築空間をアートの空間に作り変える」ことが、芸術家である自身の仕事なのだと語った。

後に本作品は当館のコレクションとなったが、単に空間を構成する素材を収蔵するのではなく、異なる展示室における展示プランもあわせて収蔵されている。今後、展示のたびに作品が検証され、プランが蓄積されていくことになるだろう。

なお、2012年に神奈川県立近代美術館 葉山で開催された個展では、このコレクションを出品、当該美術館空間における新作として発表された。

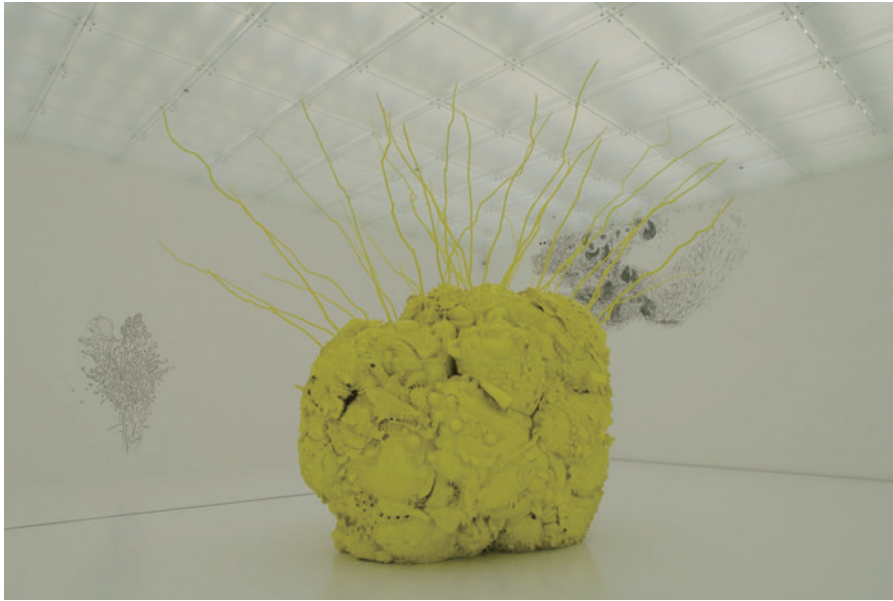
#### 《光庭のためのプラン》

ガラスの壁に囲まれた中庭にゴールドとシルバーのアルミニウムのパネル各12点が放射線状に立ち並ぶ作品である。桑山はあくまでも人工的な建築空間と捉えるが、天候や時間帯によって様々な表情を見せるこの空間は、これまで自然を介入させることがなかった桑山の作品の中では異色であり、「今までにない空間を作り出していくのが芸術家の仕事である」という桑山の言葉を想起させる。

会期中には、天候や時間帯によって変化し続ける空を背景に、時には風でパネルが揺らぎ、時には床に雪が積もり、作品は様々な表情を見せた。

4展示室を使った4点のインスタレーション作品という極めてシンプルな構成のなかに、桑山の芸術観が浮かび上がる展覧会であった。また、与えられた場を読み解き、プランを起こし、現実の空間で完成させるという展覧会制作における一連の流れは、作家・作品調査のまたとない機会となった。その研究の場は、今後のコレクション展示を通して、未来へと引き継がれていこう。

(平林恵)



1



2



3

## コレクション展 目には見えない確かなこと

2010.9.11-2011.4.10

見えないものは見えるものと相矛盾するのではなく、呼び名がないといって存在しないというものでもない。かえって世界の中に見せることができないだけであって、自分たちをとりまく世界においては、まさに見えないものとして現されているだけである。美術の作品は、身の回りにある具体的なイメージを指し示すだけのものではなく、人間が経験を通じて直接的あるいは間接的に、在ることをどのように認識しているのか、ということである。それは作家が指し示す通りのこともあるが、あるいは全く別の経験によって、別の認識として体験されることもある。「コレクション展 目には見えない確かなこと」は、美術作品に現れる世界の認識の在り方を、見ることによって共有することを目指したものであった。

展覧会の冒頭を飾った八田豊の《流れ 02-35 / 02-36》は、視覚作用だけでなく身体全体の経験の共有を観る者に迫る作品である。八田は大学では油彩を学び、その後は塗料を厚塗りにした表面を同心円上に削り取る作品を制作していた。しかし、50歳代に入って視力を失い、それまでの「描く」という行為を捨てた。現在制作しているシリーズ「流れ」は、紙の原料となる楮の樹皮を素材に板やキャンバスに貼付ける手法による作品である。「目が見えないと手が目のようになって」という八田の言葉をそのまま解すれば、美術作品に現実性を与えるのは、決して視覚というただひとつの感覚によってのみ呈示されるわけではないことを示すものだ。かつて見た記憶を辿るというよりは、聴覚、触覚、嗅覚といった他の複数の感覚作用

を呼び起こし、想像の翼に力を与えて存在を確かなものにしたといえよう。

ヴィック・ムニーズの《ピクチャー・オブ・エア》は7枚の星座の写真から成る。タイトルに続く緯度、経度、方角、日付は、或る日／或る時／或る場所で起きた歴史的事実を示唆していて、例えば1789年7月14日にパリから眺めた星空、といった具合だ。1961年生まれの作家が、もちろん18世紀の星空を自力で撮影したわけではなく、NASAが開発したソフトによる配置の特定なのだが、注目すべきは、選択された場所や日付と写真によって何かが実在化してしまうところにある。

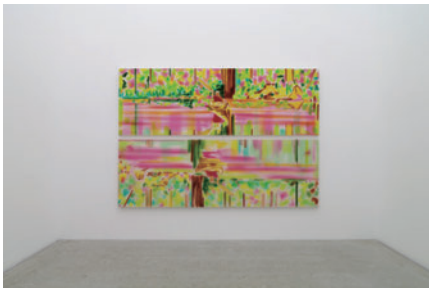
《color of river》は丸山直文による絵画で、2枚のキャンバスが上下に組まれ、全体が明るい色調で覆われた作品である。発色の良いアク



4



5



6



7

リアル絵具を直に綿布に滲ませながら描くステイニングの技法によって、ストロークの痕跡よりも、自然に染み込んだ輪郭がぼんやりとした色の面が特徴的だ。地と図の境界が無化されていることで、例えば描かれているボートに乗る人のような図像であっても、経験から在るらしい物や形としてしか認識できない記号のようにも見えてくる。形や質として表されたものに対峙するとわきあがってくるさまざまなこと—エネルギーや速度といった理論では一応説明できることであっても、感情や記憶といった曖昧で抽象的なことなど—も、すべて一様に統合されている。絵画は特別な技術によって、二次元にありながら、描かれたものよりもっと奥深くに空間を見取ることができる。平面に描かれた風景に奥行きを見だし、抽象化された点の集積に

時間と空間の流れを見るときは、見えるものの向こうにある世界に内在する別の側面を考えることである。しかし、それらはしばしば目に見ることはできないのだ。

「在るらしい」という気配までも含めると、美術作品を見ることで、私たちはずいぶんと拡張した世界を獲得できる。その世界のほとんどは無名に等しいが、人間の感覚が不完全であることがかかって認識に隙間を作って、異なるまなざしの交差が世界を豊かに彩るのだ。

(黒澤浩美)

1. 展示室13：展示風景

椿昇《エステティック・ポリューション》1990年  
発泡ウレタン、粘土、木（ヤナギ）、塗料、他  
H290×W360×D270 cm

2. 展示室6：展示風景

モナ・ハトゥム《地図》1998年  
展示空間に合わせる

3. 展示室4：展示風景

ジェームズ・タレル《ガスワークス》1993年  
ミクスト・メディア  
H351×W351×D751 cm

4. 展示室4前：展示風景

菱山裕子《秘密の話》(部分)1999年  
アルミニウム、プラスチック、ステンレススチール  
各H130×W50×D55 cm (6点組)

5. 展示室5：展示風景

曾根裕《ホンコン・アイランド／チャイニーズ》1998年  
大理石  
H65×W108.5×D67 cm

6. 展示室3：展示風景

丸山直文《color of river》2003年  
アクリル／綿布  
各H113.5×W340.0 cm (2点1組)

7. 展示室1：展示風景

八田豊《流れ 02-35/02-36》2002年  
椿(樹皮)  
H193×W262 cm

1-7. 金沢21世紀美術館蔵



1



2



3

## イエッペ・ハイン 360°

2011.4.29-2011.8.31

デンマーク出身でベルリン在住のアーティスト、イエッペ・ハインの個展。美術館では日本で初めての個展となった。7つの展示室と廊下を使い、鏡を使った体感的で大掛かりなインスタレーションなど10点の作品を展示した。展覧会名の「360°」は、回転する作品を多く展示することから、作家自身が考えたものである。

展示したハインの作品は、彼の他の作品と同様、一見、極めてミニマルである。まず、色がなく、白、黒、鏡とほとんどがモノクロームだ。そして形は幾何学的で、直線、円、直角などで構成される。《見えない迷宮》という作品のように、赤外線だけで構成され、部屋は全くの空っぽという作品もある。《見えない動く壁》は、仮設壁が気づかないほどのゆっくりとした速さで

動き、位置を変えるだけという作品である。作品がミニマルであるがゆえに、ディテールを切り詰めて極めてシンプルに設計された金沢21世紀美術館の建物によく映えた。

だが、ミニマリズムや、ライト&スペースの作品も参照しつつ作られたハインの作品は、モーターによって回転し、形が変化する。例えば、《回転する正方形II》は、何も描かれていない正方形の白い紙が額の中で回転する作品である。こうした動きにより、ハインの作品は、静謐な緊張感を持った美術史上のミニマルな作品をユーモラスに茶化し、鑑賞者の気構えを解きほぐす効果を持つ。鏡が回転することによって反射する像も変化するが、見ている人もそれを追いかけてながら作品の周りを動きまわり、身体的に作品を体験することになる。観客を含む全

体の状況を一步離れて見ると、作品を体験している人の動きが主役であるようにも見える。これは、金沢21世紀美術館の建物にも共通する特徴で、建物自体に、訪れる人を圧倒するような吹き抜けなどのドラマチックな演出はなく、むしろ建物自体は透明で背後に引いており、建物の中を歩き回る人の動きが浮かびあがる。ハインは金沢21世紀美術館の設計者妹島和世、西沢立衛の建築に強い関心を持っており、カタログでは二人とハインとの対談を収録した。

展覧会に合わせ、金沢21世紀美術館をモチーフにした2つの写真作品が制作された。一つは、金沢21世紀美術館の空っぽの展示室を被写体に、正方形のフォーマットのカメラを15°ずつ回転させ、24枚で一週りさせる作品である。広報にもこのイメージを使用し、正方





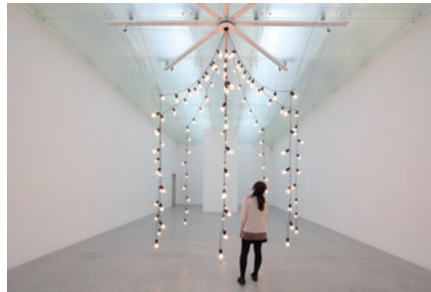
4



5



6



7



8

形のポスターやチラシを制作した。もう一つは、美術館のスタッフが黒い服を着て、人文字でアルファベットをつくる作品である。事前に撮影を行い、写真パネルにした。その文字を組み合わせ、「PLEASE INTERACT」「JOIN」「PARTICIPATE」など、イェッペの作品のキーワードとなるようなメッセージをつくり、展示会場の廊下に展示した。

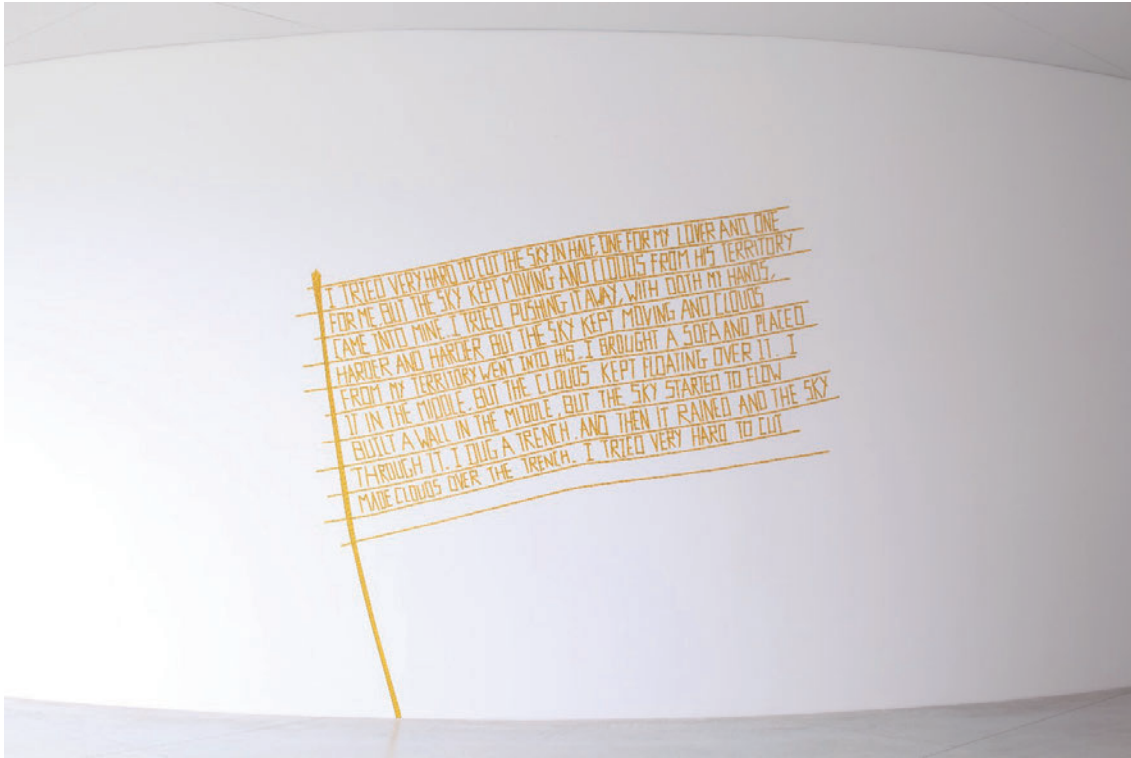
展示会開始1ヶ月半前に東日本大震災が起きた。幸い金沢は被災を免れたものの、福島第一原子力発電所の事故は、ハインの住むドイツでも大きなニュースとなり、ドイツ政府は日本への渡航を自粛するよう勧告した。ハインのスタジオも、設営スタッフを日本へ派遣することを見合わせ、すでに船便で日本に向かっていた作品は急遽、日本側スタッフのみで組み立てら

れることになった。館内に展示した作品については、スカイプで打ち合わせながら組み立てることができたが、屋外に展示する予定だった噴水の作品《見えない部屋》は、技術が特殊であったため、展示を断念せざるを得なかった。噴水の形が変化し、人を閉じ込めたりもするこの作品は、建物の内外を繋ぐ役割も果たし、美術館の外側に、展示室と同じような矩形を出現させるはずだったが、残念ながら実現できなかった。

(鷺田めるろ)

1. 展示室4：《見えない迷宮》2005年
2. 展示室3：《回転する正方形II》2011年
3. 展示室1：《回転するピラミッドII》2007年
4. 展示室14：《回転する迷宮》2007年
5. 廊下：《映してください／考えてください、金沢21世紀美術館》2011年
6. 展示室6：《鏡と籠》2011年(中央)、《360°ギャラリー、金沢21世紀美術館》2011年(壁)
7. 展示室2：《光のパビリオン》2009年
8. 展示室5：《変化するネオン彫刻》2006年

Photo: KIOKU Keizo



1

## Inner Voices—内なる声

2011.7.30—11.6

世界の中に自分の居場所を見つけていく過程で作り上げられるアイデンティティを、人々はどうのように引き受けていくのだろうか。まずこの問いを立てるには、アイデンティティの問題自体に遭遇しているかどうかを問わねばならない。「Inner Voices—内なる声」展では、特にアジア諸国に出自と活動拠点を置く女性作家たちを取り上げ、この問いに真摯に向き合う作品を紹介した。異なる国家や文化との遭遇は、以前にも増して頻繁に起きて、我々に不安定で不確かな感情を引き起こす。出生によって自動的に帰属することが明白で、他のどのアイデンティティよりも優先されたナショナル・アイデンティティさえ、現代では断片化され、放棄され、代わって一人一人が、自らのアイデンティティを探し求めている。そのうえ、時代が進むにつ

れ、アイデンティティを規定する実体が複雑化し、もはや或るひとつの準拠や枠組みは永続するものではないのだ。とすれば、同時代に生きる人々の多くは、ますますアイデンティティの問題に直面するのではないかと予想できる。出品作家のひとりシルパ・グプタ(インド・ムンバイ生まれ)による《無題(ここに境界はない)》(2005-2006/2011)は、作品タイトル文が黒字で印刷された黄色いビニールテープで、壁に旗を描いた作品である。環境問題、戦争難民、政治における権力闘争、宗教、ジェンダー、人種と、さまざまなテーマを行き来しながら、特にひとつの態度を示すわけではない。前世代が示す賛成か反対かの二項対立からしか導きだせない結論とはずいぶん違う態度表明である。しかし、グローバリゼーションの波に乗りなが

ら、常に立場を更新し続けなければならないグプタの世代にとっては、必然であろう。アイデンティティをめぐる問題との遭遇は、社会学者のみならず時代に向き合う現代美術の作家によっても異なる形で取り上げられてきているが、短期間に激しく変化するグローバル化した世界では、伝統や権威、または堅固に構築されたアイデンティティを持つ事はもはや前時代的であり、自由の制約であると考えた世代の登場を促し、シルパ・グプタはこの作品によってそのことを軽やかに印象づけた。

女性作家の視点は、固定化した価値観やあらかじめ定められた複数の原則の中で検討してきた歴史があり、それは今も忍耐強く考察が重ねられてきている。ジェマイマ・ワイマンによるサパティスタ国民解放軍の構成員が被るマ



2



5

スクをテーマにした絵画と映像作品《Combat Drag》のシリーズはアイデンティティを隠し混乱させることで、より大きな力の集結を堂々と実行できる表象と無名性の関係を扱っている。現代のネットワーク内で起きていることを可視化させ、「こっそりと忍び寄る抵抗の方法」として有用であることを示すものだ。呉夏枝は在日3世韓国人として、自身を同一化できるルーツを探しながら、その間に遭遇する民族国家間に揺れる女性の声を丁寧に取り扱った《あるものがたり》(2011)を発表。戦後世代の感じる世代間の断絶を、記憶を語ることで母や祖母への経路に至る感情を照射するものであった。塩田千春は歴史が置き去りにする人間の記憶や感情を、「不在」を見せることによって浮き彫りにする作品で知られている。早くに日本を出てド



3



4



6

イツ・ベルリンに移住した彼女にとって、自分を何者と定義付けるかという境界の壁は、人の身体に流れる血の中にあるとするビデオ作品《Wall》(2010)と、《不在との対話 / Dialogue with Absence》(2010)を発表した。差異によって起きることへの誤解や無理解を、対立や抵抗でないかたちで乗り越えようとするのは、塩田だけでなく、本展覧会で紹介したどの作家にも通じるものがある。芸術表現において自由であることが、世界において同程度に普遍的で重要であると、特にアジアに生きる女性アーティストはさまざまな表現によって心の声を届けようとしている。

(黒澤浩美)

1. 展示室14前：展示風景  
シルバ・グプタ  
《無題(ここに境界はない)》2005-2006/2011年、プラスチックテープ、サイズ可変  
金沢21世紀美術館蔵
2. 展示室8：展示風景  
塩田千春  
《不在との対話》2010年、ミクスト・メディア、サイズ可変  
作家蔵  
courtesy of the artist and KENJI TAKI GALLERY
3. 展示室11前：展示風景  
呉夏枝  
《あるものがたり》2011年、黄麻、女性の声  
H40×W127×D9 cm  
テキスト：Joy Kogawa“Obasan”  
作家蔵
4. 展示室14：展示風景  
シルバ・グプタ  
(手前)《私はあなたへと落ちていく》2010年、数千本のマイクロフォン、マルチ・チャンネル・オーディオ  
Collection of Tiroche DeLeon  
(奥)《無題》2011年、マイルド・スチール、サイズ可変  
作家蔵
5. 展示室7：展示風景  
イー・イラン  
(左)《オラン・ブサル・シリーズ カイン・バンジャンと不機嫌なケバラ》2010年、H106.7×W234 cm  
酸性染料によるダイレクト・デジタル・ミマキ・インク  
ジェット捺染、含金属型反応染料レザゾールを用いた  
チャンチンによるバティック、100%絹綾織布  
金沢21世紀美術館蔵  
(右)《オラン・ブサル・シリーズ カイン・バンジャンと肉食性のケバラ》2010年、H106.7×W234 cm  
酸性染料によるダイレクト・デジタル・ミマキ・インク  
ジェット捺染、含金属型反応染料レザゾールを用いた  
チャンチンによるバティック、100%絹綾織布  
金沢21世紀美術館蔵  
© Yee I-Lann
6. 展示室10：展示風景  
ジェマイマ・ワイマン  
《戦闘 #2》2008年、カンヴァスにアクリル、  
H200×W320 cm (overall)  
個人蔵  
  
Photo: KIOKU Keizo



## 押忍!手芸部 と 豊嶋秀樹 『自画大絶賛(仮)』

2011.11.23-2012.3.20

効率や分かりやすさを優先する現代社会のなかで、自由であるはずの創作活動にまで、私たちはマニュアルを求めているだろうか。つくること、つくるものに対して、理由や評価の基準を求めているだろうか。本展は、表現と鑑賞が交差し、多様な価値観を受容する現代美術館という場の特性を鑑み、つくる者、観る者の両者に、表現と鑑賞の意味を問いかける展覧会として企画した。

高度な手芸の技術をもつ「部長」石澤彰一(以下、部長)が、手芸の経験や技術をもたない「男前部員」と結成した「押忍!手芸部」は、「不器用上等!」を宣言し、技術やルールより、個人のつくりたい気持ちやつくる楽しさを尊重する活動を続けてきた。7人の部員を中心としたユーモアあふれる伸びやかな部活動は、ものづくりに当たり前のように横たわる既存概念を、鮮やかに覆してみせる。

一方、デザイン、アート、音楽、イベントプロ

デュース等ジャンル横断的な活動で注目されるアーティスト、豊嶋秀樹は、人や場との出会いを表現の出発点とし、モノや人、場との関係から、次々と新たな出来事を作り出す。従来の枠組に収まらない多様な活動は、媒介者でもあり表現者でもある豊嶋独自の視点で組み立てられている。

豊嶋は本展において「押忍!手芸部」と初めて出会い、その活動精神を読み解いて展示空間を構成した。その空間で「押忍!手芸部」部長は会期の約半分を過ごし、「部活」(ワークショップ)のみならず、日常的なものづくりの現場をも公開した。

展示プランは、展覧会場を劇場と見立てる豊嶋のアイデアに基づいている。演目は「押忍!手芸部」、役者は部長と作品、観客は美術館来場者、そして演出は豊嶋である。

4つの展示室と通路には下記のとおり機能が割り当てられた。

### 「自画大絶賛」展覧会 [通路]

「押忍!手芸部」の精神を伝える作品を選びケース展示。当館の過去の展覧会で使用されたアクリルカバー付展示台を再利用し、不要品等で作られたアクセサリや縫いぐるみ等を博物館的な手法で展示した。

### 「自画大絶賛」ステージ [展示室7]

展覧会入口に敷かれたレッドカーペットが誘導する先には舞台があり、「部活」から生まれた10種類のアイテムを体験できるスペースが用意されている。「部活」では、作られた作品を自ら楽しみ楽しむことも重要な要素なのである。鑑賞者が楽しむ姿そのものがシナリオのない演目となり、舞台下の休憩スペースから鑑賞されるというシステムが作られた。

一つ、余計なことは考えない。  
一つ、成田やデザイン画を描かない。  
一つ、型紙を作らない。  
一つ、計りは使わない。  
一つ、待ち針を使わない。  
一つ、待ち針を使わない。  
一つ、待ち針を使わない。

押忍！手芸部  
教訓



3



4

5



6



7



8

## 自画大絶賛(最新・…………) ※「最新テント」と読む [展示室8]

天井高約12メートルの本展示室のために制作された最新作。「型紙を作らない」という教訓に基づき、部長自身が展示設営の現場で巨大なティペアを縫い上げ、豊嶋と協働でテントに仕立てた。テントの中では、扇風機の送風を受けたティペアがふわふわと揺れている。

## ちょっと暗い倉庫 [展示室9]

「部活」から生まれた部長・部員の作品約600点が展示された「整理されたカオス」<sup>1)</sup>。創造の自由さと多様な個性を伝える場となっている。一見無造作に押し込まれているかに見える作品は、豊嶋の指示によりボランティアチーム「ザ自画大絶賛ズ」が愛情を込めて配置し、担当キュレーターが分類、キャプションをつけた。作品が詰まった棚は、過去の展示で使用後、廃棄処分が決まっていたものを分解、再利用したもの。

## お部屋(仮) [展示室10]

「倉庫」の奥に作られたドアを開けると、展示されているのは「部室」と部長の活動そのものである。備品庫から持ち出されたスチール製ロッカーやホワイトボード等の味気ない仕器や卓球台が「部室」のインテリアとなり、展示室は非日常から日常の場へと転換された。

ここで会期中12回もの「部活」を開催したほか、部長滞在時には、ミシンの音が響き、来場者との対話が生まれた。また、晴天時には隣接する光庭まで活動範囲を広げ、パフォーマンス《風船のフーテンのふうさん》が行われた。

本展においては、企画者も展覧会をつくる行為そのものを「部活」的に進めることを意識し、部長による部活や茶会、パフォーマンスのみならず、豊嶋発案のカレーを作るワークショップ<sup>2)</sup>など、自然発生的に湧き出る作家のアイデアをプログラム化することを試みた。

「押忍！手芸部」の活動精神を展示するというコンセプトを追求した結果、展覧会は静と動のエネルギーが混在し、交流する場となった。

(平林恵)

\*1. 展示のためのイメージスケッチに書かれた豊嶋のことは、  
(『押忍！手芸大図鑑』株式会社青幻舎、2012年、p.86)

\*2. 「豊嶋秀樹の集中講義(カリ)」を実施。豊嶋のものづくり、場づくりを貫く考え方を、カレーをつくるという協働作業を交えて体験する機会とした。

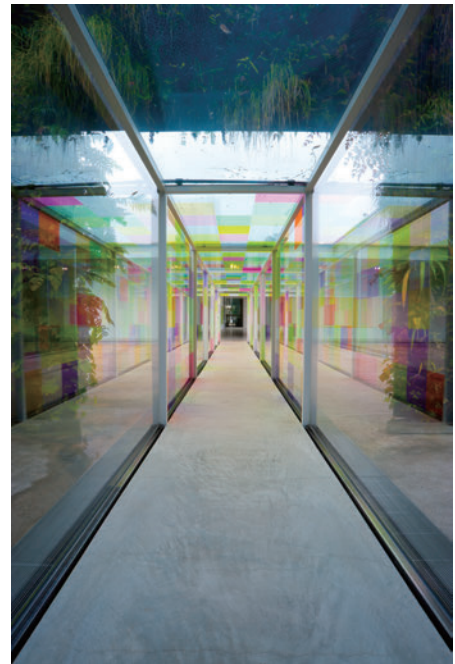
1. 展示室9:「ちょっと暗い倉庫」展示風景
2. 展示室8:《自画大絶賛(最新・…………)》展示風景
3. 押忍！手芸部\_教訓
4. 展示室10:「お部屋(仮)」展示風景
5. 光庭:《風船のフーテンのふうさん》展示パフォーマンス
6. 展示室7:「自画大絶賛」ステージ 展示風景
7. 「ザ自画大絶賛ズ」による設営風景
8. 「豊嶋秀樹の集中講義(カリ)」活動風景

1.2.4.6. Photo: OMOTE Nobutada

7.8. Photo: KITA Naoto



1



2

## モニック・フリードマン展

2011.11.23–2012.3.20

1970年代終わりから作家活動を続けるフリードマンは、フランスを代表する女性作家のひとりとして注目を集めてきた。2009年にレジオン・ドヌール勲章を受章し、名実共にフランス現代絵画の中核を担う作家といえるが、日本を含むアジアではこれまで本格的に紹介されたことはなかった。彼女の作品は、置かれる環境や鑑賞者など多様に変化する要素へ開かれ、繋がることで意味が深まるという点で、近代の抽象絵画の系譜を受け継ぎつつも、その枠を軽やかに解き放つものとして評価できる。近年では、紙や布など多岐にわたる素材を用いたインスタレーション作品も手がける彼女の作品世界を、当館の特徴的な建築の中で空間と時間の両軸を含めたスケールで展開すべく、作家との密なコミュニケーションを通じて展覧会の実現に至った。

本展において作家と共有した重要な考えは、環境の諸要素や鑑賞者の知覚体験が加わってこそ作品および展覧会の意義がより深まるということである。そのため、必ずしも順路を固定せず、来場者が自由に回遊しながら展示室や通路スペースに展示された作品を鑑賞できるようにした。また、あえて自然光が天井ガラスから差し込む設定にしたり、ガラスに囲まれた通路を作品の舞台とするなど、作品と鑑賞者との間で一期一会の生きた対話が生まれることを願った。

展示室11では、作家が制作の核とする絵画の代表作を一堂に展示した。カンヴァスの下にランダムに置いたロープや小枝の痕跡をパステルの塊と顔料で写し取る技法により、内部から発光するかような色を放つ大作シリーズ「ナージュの婦人たち」や「輝き」が並んだ。

フリードマンの絵画と色彩の世界は、ターラタンという糊付けした目の粗い薄地の布を用いたインスタレーション《赤の部屋》で、さらに新しい展開を見せた。顔料で微妙に異なる色調の赤に着色されたターラタンが数層に重なりながら展示室12の壁面全体を覆い、観る者を濃密な色彩の渦に包み込んだ。昼間の柔らかい光のもとでは、優しく親密で、胎内にいるかのようにどこか懐かしさをも感じさせる「赤」が、日が暮れ、展示室の照明が支配的になる頃には、より強く超越的な「赤」の空間へと変貌する。刻々と変わりゆく作品の印象を多くの鑑賞者が体感した。

光庭(中庭)を横切るガラス張りの通路も、フリードマンは作品へと転換した。通路のガラス壁3面に約20色の正方形パターンからなるフィルムシートを貼ることで、そこを通る来場者の



3



4



5

体に色と光のシャワーが柔らかく降り注ぐという作品である。このサイトスペシフィックな新作を作家は《カレイドスコープ》（「万華鏡」の意）と名付けた。色を帯びた光は光庭や屋内の床や壁へ映り込み、来場者に新たな空間体験を促した。

さらに、円形の展示室14では、壁面全面に約800枚の薄い日本紙を張り巡らした新作インスタレーション《ざわめき》を発表。来場者の動きや空気の流れによって半紙のように薄い紙はふわりと浮き上がり、無限の動きを見せる。紙の奥の壁面には薄い紫色が塗られ、紙がめくれ上がった瞬間に、もしくは薄い紙を透して、かすかな色が見る者の知覚を刺激する。見え隠れする色、紙の予想外の動き、紙の音や来場者の声や足音は渾然と混ざり合い、ざわめく「気配」を生んだ。

作家の過去の代表作から新作インスタレーションまで本展に出品された計13点の作品は、明るく白に満ちた空間に独自の色と光を放ち、観る者の心身に深い余韻を残した。これまで作家が追求してきた表現の新しい可能性を体感させる機会となったことに加え、上述の新作《カレイドスコープ》が2012年、第17回CSデザイン賞「中川ケミカル賞」を受賞したことも本展の大きな成果である

(吉岡恵美子)

1. ガラス通路：  
《カレイドスコープ》2010-2011年  
カラーフィルムシート
2. ガラス通路：  
《カレイドスコープ》2010-2011年  
カラーフィルムシート
3. 展示室11：モニーク・フリードマンによる絵画群展示風景
4. 展示室12：  
《赤の部屋》2010-2011年  
顔料、バインダーで着色したターラタン
5. 展示室14：《ざわめき》2010-2011年  
着色した壁に紙（BIB TENGUJO）

1-5. Photo: TOYONAGA Seiji



1

## サイレント・エコー コレクション展I・II

コレクション展I：2011.4.29-7.18 コレクション展II：2011.9.17-2012.4.8

アメリカ南部出身の小説家カーソン・マッカーラーズの小説『心は孤独な狩人』で語られる音楽観<sup>1)</sup>、人と音楽の世界と深く共鳴し合うルクセンブルグ出身のツェ・スーメイの《エコー》を招きいれ、本展では金沢21世紀美術館のコレクションに潜在する未だ語られたことのない造形芸術の展覧を試みた。《エコー》で提示される、身体、音、技術、自己をとりまくあらゆる事象との関わりや融合から生み出される世界を根底に据え、自己、技術、対象の十全な融合によってこそ作り出される造形芸術の世界を紹介した。この試みは、「工芸的造形」という概念をめぐって近年展開されてきた視座を起点としている。「素材／自然／環境／他者に寄り添い、自らを物事の生成のプロセスに投げ入れ、親密な交流を図ることによって、固有の技術を見いだしつつ新しいかたちを生み出す造形及び造形行為」<sup>2)</sup>という美術表現を評価する新しい

眼差しに依り、アニッシュ・カプーア、田中信行、杉本博司、藤井一範、ヴィック・ムニーズ、ツェ・スーメイ、アン・ウィルソン、マーティン・スミス、ジュゼッペ・ペノーネ、中川幸夫、マシュー・バーニー、栗津潔、山崎つる子、久世建二、角永和夫による、自己、他者、素材といったあらゆるものとの対話の営みを検証した。

特に「コレクション展II」では「サイレント・エコー」の概念を実験的に検証する試みがなされた。展示室2では栗津潔による映像作品《ピアノノ炎上》、《風流》、《コンポジション》とともに、1台のピアノが置かれている。映し出されるイメージを観た人が、それぞれ自分のなかに沸き起こる感興をこのピアノによって音にして映像に重ね、固有の時空を紡ぎ出した。栗津によるイメージと、ひとりひとりが奏でる音によって、この展示空間は常に変化し続けた。「創る側と、見る側の境界は始めからない。あるのは個々人の差異

だけである」という栗津潔の芸術思想を提示する空間となった。

展示室3の《ブリキのたくらみ》は、山崎つる子のライブペインティングによって実現された。山崎は半世紀以上にわたり独自の表現を切り開いてきたが、ブリキという独特の反射性を持つ素材によって展開される作品群は、「見る」ことの意味を探究してきた作家にとって極めて重要である。展覧会オープン時には真新しいブリキ板10枚が展示壁に並んでいたが、会期中作家がこのブリキと対峙し、新しい絵画世界を生み出した。鑑賞者は、会期はじめには、本作品を前に自らのぼんやりと映る姿を目にしていたが、作家のライブ・ペインティング後は、色と光と影によって生み出された像、そしてその合間に自らの姿を見ることになる。こうした変貌するという、独特の時空が《ブリキのたくらみ》によって創出された。





2



3



4



5



6

展示室6では角永和夫による《SILK》プロジェクトが実現された。展示室には角永が考案したシステムによって天地の逆転が可能な9メートル×15メートルの巨大な網が設置され、このネットに新潟の蚕農家の手で育てられた蚕二万頭が放たれた。蚕の上方へ昇る習性を生かして、作家は1日に数回ネットの天地を回転させた。作家の介入はこの行為のみであり、無数の蚕が三日三晩かけて広大な平面繭によって作品《SILK》が生み出された。

蚕の約半数は途中で力つきて息絶えてしまう。生き残った半数の蚕のなかには蛹になり、成虫になるものもいるが、仮にその成虫が交尾して雌が卵を産み、その卵が孵ることがあったとしても次の世代に生きる力はないという。人間が5千年の時をかけて人工的に改造したこの生き物は極めてか弱く、一代限りという宿命を負っている。そんな命を桑の木のもとに還して見送るまでもが《SILK》プロジェクトであったが、本プロジェクトは造形行為の意味のみならず、人間の営み、自然の営みのあり様をも、21世紀を生きる我々に問いかけるものであり、「サイレント・エコー」というテーマを特に照射するものとなった。

(村田大輔)

\*1. 本展ではカーソン・マッカーレス『心は孤独な狩人』による次の下りを引用した。「どうしたというのだろうか?音楽はためらうように、うねりながらはじまった。散策か行進のように。夜の世界を歩む神のように。ミックの外の世界はにわかに凍りつき、音楽のあのすべり出しの部分だけが、胸の中で赤く燃えていた。そのあとの音楽は耳にもはいらず、彼女はただ拳を固く握りしめ、凍りついたようにすわったまま待ち受けていた。しばらくすると、音楽はふたたびはげしく、声高にうたいだした。もはや神とは何の関係もなかった。これこそミックであり、昼日中を歩むミック、夜をただひとり歩くミック・ケリーだった。・・・この音楽は彼女であり、ほんとうの、ありのままのミック自身であった。」(カーソン・マッカーレス、河野一郎訳『心は孤独な狩人』新潮社、1972年、pp.147-148)

\*2. 不動美里「生成のプロセスの只中にあるもの」『Alternative Paradise ～もうひとつの楽園』金沢21世紀美術館、2005年、pp.8-11。近年の工芸的造形論の展開については、村田大輔「ロン・ミュエック—対話—とかたち」(『ロン・ミュエック』フォイル、2008年)、「反重力構造—『歴史の歴史』—とかたち」(『杉本博司—歴史の歴史』新素材研究所、2008年)、「『ニットカフェ・イン・マイルーム』—とかたち」(『広瀬光治と西山美奈の“ニットカフェ・イン・マイルーム”』金沢21世紀美術館、2009年)、「What would Hiroshi Sugimoto Do? What would Museums do? Deified Artist and Museum Hiroshi Sugimoto's "History of History"」(AAS-ISS Joint Conference, 2011年、<https://www.asian-studies.org/Conference/index.htm>)を参照されたい。

1. ツェ・スーメイ《エコー》2003年  
4分54秒ループ ヴィデオ・プロジェクション、音
2. ツェ・スーメイ《ヤドリギ楽譜》2006年  
6分49秒ループ ヴィデオ・プロジェクション、音
3. 展示室7: 展示風景  
(左) 田中信行《Inner side - Outer side》2005年 漆、麻布(乾漆)  
(右) 杉本博司《日本海 礼文島》1996年  
ゼラチン・シルバー・プリント
4. 展示室8: 展示風景  
(手前) 藤井一範《爆—転生》1999年 陶土  
(奥) ヴィック・ムニーズ《ピクチャー・オブ・チョコレート: ダイバー (シスキンドにならって)》1997年  
チバクローム・プリント
5. 展示室11: 展示風景  
(手前) 中川幸夫《聖なる書》1994年(2004年プリント)  
Cプリント(カーネーション、自作ガラス)  
(中央) ジュゼッペ・ベノーネ《伝播》1995-1997年  
バラフィン、ガラス、紙、インク、アクリル、水  
(奥) 中川幸夫《無題(花染)》1984年  
花液、種子/画仙紙
6. 展示室11前: 展示風景  
マーティン・スミス《構造の漂流》2002年 陶器

1-6. 金沢21世紀美術館蔵

1.2. © TSE Su-Mei

3-6. Photo: SUEMASA Mareo



1



4



2



3

## 工芸未来派

2012.4.28-8.31

現代美術化する工芸—「工芸未来派」展—  
北陸地方は工芸の盛んな土地柄である。多くの産地を有し、職人、作家数も多い。陶芸、漆芸、染織、木工、金属などジャンルも多岐にわたり、主な伝統工芸を挙げても、加賀友禅、九谷焼、輪島、山中、金沢の漆器、加賀象嵌など数十を数え、全国ブランドもある。またそれらは今でも生活の中に根ざしており、暮らしの中に生きている。

こういう工芸環境を背景にして金沢から現代的な工芸文化を発信していくことが美術館設立時に策定した4つの運営方針のひとつに掲げられている。「工芸未来派」展は、この考えに沿って行われた展覧会である。足下にある文化資源を見直し、今の時代に伝え発信していくというものである。

工芸は、幅広い解釈が可能な分野であり、実際に多様な姿を見せる。工芸という言葉には、生活工芸品から芸術作品まで含まれ、職人技

術から芸術行為まではある。「工芸未来派」展では、工芸を今日の芸術作品として捉えて12名の作家の作品を紹介した。

「工芸未来派」展に至るまでにすでに私は3本の工芸に関する展覧会を開催してきた。主なものに、2010年、2011年の「金沢・世界工芸トリエンナーレ」のプレ展と第1回展がある。こうやって工芸を継続的にテーマにし、工芸を考える場をつくってきた。今日の工芸をどのように解釈していくか、また、どのような文脈によって読み解いていくか、簡単に答えが出るものではないが、継続することで共有できる場が形成されていけばいいと思っている。

「工芸未来派」展で使用した考え方は次のとおりである。基本的には90年代以降の現代美術の基本路線である「グローバルズム」と文化多様性の流れの中で工芸的な表現を位置づけた。ローカルなモノの見直しや周辺の価値への配慮、また、日常性との関連などである。ま

た、今の工芸表現は大衆消費文化との関係を感じさせるものが多い。漫画、アニメーションなど、幅広い現代文化との影響関係の中から工芸を見ていった。結果、「工芸未来派」で紹介した工芸は、技術力とそれによって生まれた強い視覚イメージをもったものである。

展覧会の構成は大雑把に5つのセクションから成る次のようなものである。

「二次元世界の展開 絵付の世界」として葉山有樹、見附正康の絵付けを紹介した。絵付けは筆と工芸的な面による絵画空間の展開であり、独自のイメージ生成の場である。

「細部世界の展開 漆技法の神髄」として「雲龍庵」北村辰夫、山村慎哉の漆の作品を紹介した。圧倒的な細部から成る装飾的な世界は漆工芸の最大の魅力である。

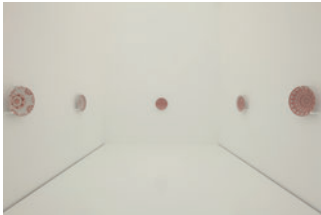
「人と動物のイメージ生成の場」として中村信喬、野口春美の人形を紹介した。近代彫刻の概念には収まりきれない人型や動物のイメー



5



6



7



8



9



10

ジの在り方を2人の仕事を通じて紹介した。

「体感世界の再評価 茶碗」では大樋年雄、桑田卓郎、竹村友里の3人がそれぞれの茶碗を出展した。茶碗は芸術的価値観を伝える器物である。異なった解釈や背景を持つ茶碗を紹介した。

「装飾の魂」として中村康平、猪倉高志、青木克世のそれぞれ三者三様の装飾的作品を紹介した。純粋なオブジェである。

これらの作品を通じて見えてくるものは、工芸独自の技術の魅力とそこから生まれるイメージの力である。他の視覚メディアとイメージの共通性を持ちながら、工芸のオリジナルの豊かさとしさを持っている。工芸には様々な可能性があるが、そのひとつに現代芸術化する工芸というものがある。その試みとして「工芸未来派」展があった。

(秋元雄史)

1. 山村慎哉《縞文蒔絵小箱》2011年  
 桧、金粉、金線、夜光貝 H8.1×W5×D13.1cm
2. 見附正康《無題》(部分) 2012年  
 磁土、赤絵、九谷焼 H11.6×φ46.2cm
3. 猪倉高志《かげを纏うかたち 2008-01》2008年  
 半磁器 H18.5×W17.9×D26.2cm
4. 展示室4：展示風景  
 葉山有樹による陶磁作品群 全9点展示
5. 展示室6：展示風景  
 (手前) 青木克世《予知夢 XII》2010年  
 磁土 H23.5×W12.3×D23cm
6. 展示室5：展示風景  
 桑田卓郎による梅華皮志野焼群 全14点展示
7. 展示室1：展示風景  
 見附正康による赤絵大皿作品 全5点展示
8. 展示室6：展示風景  
 (奥) 中村康平《支配の様式》2012年  
 磁土、木製額 H206×W298×D9.5cm  
 (手前) 中村康平《アイデアの玉座》2004年  
 磁土、水、ビニール H45×W100×D100cm
9. 展示室3：展示風景  
 山村慎哉による漆芸作品群 全14点展示
10. 展示室6：展示風景  
 大樋年雄、中村康平、猪倉高志、青木克世ら4作家が展示



1



2



3

## ソンエリュミエール—物質・移動・時間、そして叡智

### 第1章：物質・移動・時間 2012.4.28-11.4

2011年3月11日の東日本大震災と福島での原子力発電所事故は、安全と幸福と自由という社会の基盤を根底から覆した。自然を克服し、その栄華を謳歌してきた文明の、歴史上の危機に私たちは直面した。さらには、利益を追求するために人間生活はますます管理され、自分が属する社会の制度と権力に支配されているということがいよいよ露となったといえよう。

3.11からほぼ1年後に本展覧会はスタートした。企画の根底に据えたのは、この未曾有の大惨事の当事者である日本の、北陸という地にある、公立の、そして収蔵作品のある美術館において、この危機的状況に向き合い、生きるということを考える場として展覧会がいかに機能できるかということであった。そして、「ソンエリュミエール—物質・移動・時間」を第1章としコレクション展枠で実施、「ソンエリュミエール、そして叡智」を第2章とし企画展枠で実施しながら、コレクション展、企画展といった制度、収蔵作品、

企画展出品といった作品の隔たりなく、音(ソン)と光(リュミエール)という言葉から想起される外的環境や現代人の内面を思索するテーマ展「ソンエリュミエール—物質・移動・時間、そして叡智」を、1年間を通じて企画した。

鍵となったのは、収蔵作品のひとつ、ペーター・フィッシュリとダヴィッド・ヴァイスの《音と光—緑の光線》である。彼らは「ソンエリュミエール」という野外の壮大なスペクタクルショーを薄暗い室内の片隅で、卑近な日用品で再現した。小さな台の上にあるのは、ディスプレイ用のターンテーブル、プラスチック製の使い捨てコップ、野外携帯用ランプ。コップは、斜めに傾いたターンテーブルの上を不規則に転がる。ランプの緑の光がターンテーブル上のコップに照射されることにより背後の壁に光と影の幻想的なムービング・イメージが映し出される。「緑の光線」(Le rayon vert / ル・レヨン・ヴェール)は、夕日が水平線上で緑色に輝く現

象を意味する。自然界に垣間みる美の瞬間を想起させつつ、ごちない動作音は、現前の事象にリアルな説得力を添える。フィッシュリとヴァイスの「ソンエリュミエール」には、音と光という物質の織りなす美しさとともに、支配構造、既成概念を検証し、人間社会の本質を浮き彫りにするアーティストの批評性と哲学的思考が端的に映し出されている。

第1章では、一方向に進む歴史に束縛された私たちの心身を解き放ち、人間を含めた、ありとあらゆる物事の中に悠々と流れるエネルギーのかたち、物質世界の有り様を見つめた。

展示室7と8の連続する空間では、サイトウ・マコト+岸本清子+アンディ・ウォーホル、ヤン・ファープル+ゲルハルト・リヒター+田嶋悦子の作品が空間を共にした。自画像として自身の記憶を色濃く示すモチーフを象ったこれらの造形表現は、物質の性質と力を習得することによって、自己、イメージ、行為といった非物質的な存



4



5



6



7



8



9

1-9. 金沢21世紀美術館蔵

1.4.5. Photo: SAIKI Taku

2.3.6-9. Photo: WATANABE Osamu

2. © IIDA Yoshiko

5. © Angelos bvba / Jan Fabre

6. © Estate of Gordon Matta-Clark, courtesy: David Zwirner, New York / London

8. © carsten nicolai, courtesy Galerie EIGEN-ARTLeipzig/ Berlin and The Pace Gallery

9. ©AWAZU Yaeko

1. 展示室11：(奥)ゲルハルト・リヒター  
《8枚のグレイ》2001年、  
(手前)秋山陽  
《ZONEII》1991年

2. 展示室7：(右から)サイトウ・マコト  
《マイセルフ・ポートレイト 01》2006年  
《マイセルフ・ポートレイト 02》2006年、  
岸本清子  
《昼(日本の花シリーズ・山桜)》1984年  
《夕(日本の花シリーズ・山桜)》1984年

3. 展示室12：ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス  
《音と光一線の光線》1990年

4. 展示室8：(奥)ゲルハルト・リヒター  
《ムスタング》2005年、  
(手前左より)田嶋悦子  
《Cornucopia 00-II》2000年、  
《Cornucopia 02-XII》2002年

5. 展示室8：ヤン・ファール  
《小さい闘士》1978 / 2006年

6. 展示室10：ゴードン・マッタ=クラーク  
《一日の終わり》1975年

7. 展示室7前の空間：木村太陽  
《ビデオ・アズ・ドローイング》1997-2000年

8. 展示室12：カールステン・ニコライ  
《テレファンケン》2000年

9. 長期インスタレーションの窓：栗津潔  
《銀色の小さな風景A・B・C》より部分 1975年

在に物理的なかたちを与えていた。

屋外の光庭2では、フィッシュリとヴァイスによる立体作品《無題(コンクリート・ランドスケープ)》と音の作品《クリン クロン》による、内部と外部が渾然一体となる風景が生まれていた。

発光するドットで埋めつくされた草間彌生の《I'm Here, but Nothing》と、廃墟化した広大な建造物を個人が大胆に切り込む姿と光が無音の効果で記されたゴードン・マッタ=クラークの映像《一日の終わり》は、外部環境の只中に自己の存在を確認する場と化していた。

リヒターの《8枚のグレイ》と秋山陽の《ZONE II》は同空間に座した。ガラス、土といった物質を境界に、見えるものと見えないもの、内と外、動と静などの関係性や知覚の揺らぎ、存在性という根源的な問いをグレイという「無」あるいは漆黒の世界が空間一体に響かせていた。

フィッシュリとヴァイスの作品から読み取る、既製品の本来の機能の「誤用」による固定観念

からの解放、価値の創出という姿勢は、カールステン・ニコライの《テレファンケン》にも存在する。音源をテレビモニター3台の映像入力につなげることで映し出される異なる周波数のパターンは、光のそそぐ円形空間の特徴と相俟って、音の深層を多彩に見せた。

長期インスタレーションルームにある窓には、栗津潔による《銀色の風景 A・B・C》。活字という複製媒体の自立性とその変容が織りなすコスモスは小さな窓枠を超え雄大な拡がりを見せた。室内には、マグナス・ヴァリンによるアニメーション映像《EXIT》と《Limbo》。人間が人間を阻害する価値基準や権力構造への懐疑を高さ6メートルの壁面を覆い尽くす大画面と大歓声や猛火、操縦音、激しい息遣いなどの音の効果で、観る者に迫ると同時に、他者への眼差しの有り様を考えさせた。

(北出智恵子)



1



2



3



4



5

## ソンエリュミエール—物質・移動・時間、そして叡智

### 第2章：そして叡智 2012.9.15-2013.3.17

自然の力、科学の限界を象徴する、3.11という惨事を通して露呈されたのは、様々な次元で蔓延する権力欲、支配欲やエゴイズムという現代社会の膿みではないだろうか。第1章に続き、本展では、危機と混沌に敏感に反応し、そして向き合う14組のアーティストと1プロジェクトとともに、「今」を生きる人間の叡智を探った。

画家として最高位に着きながら、制度や人間社会の虚栄と欺瞞、欲、悪を独自のスタイルで暴いたフランチェスコ・デ・ゴヤの貫いた姿勢は、本展において重要な鍵となった。時間、地域文化の隔たりを越えて変わらぬ強さと鋭さで迫るゴヤの作品から、「[ロス・カブリョス] 4番 乳母つ子」と《[ロス・カブリョス]62番 一体、誰が信じるだろうか》の借用がなかった。これらは、Chim ↑ Pom、ジェイク&ディノス・チャップマンの作品と同室に展示され、欲が支配する

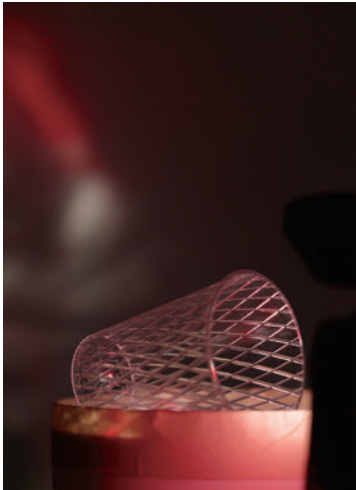
社会の間、人間の本質を見抜く創造行為の共鳴が時を越えて実現された。

奈良美智の《Fountain of Life》では、カップという器に山積みとなった頭部の腫から涙の流れる様が、枠内に閉じ込められた者の悲しみ、不安、怒りを強調させた。ラファエル・ロサノ＝ヘルメルの《パルス・ルーム》は、常に約300名の心拍を白熱球の明滅に変換させ、「メント・モリ」と作家が喩えるように、死すべき生命のはかなさと美しさを空間一帯に灯した。

2012年7月より、植物学者パトリック・ブランによる恒久展示作品《緑の橋》を含む光庭3にて、当館蔵の日比野克彦の《明後日朝顔21》の種を活用した「サンセット～サンライズ・アーク」光庭プロジェクトを始動させた。《緑の橋》を企画展出品作と位置づける事自体開館以来初、さらに所蔵品活用による所蔵作家同士の出会

い、コラボレーションも初の試みであった。朝顔の研究者たるブランが種を選択、レイアウトを考案。成長し、実を結んだ朝顔の種は時間・地域・記憶の込められた生命活動として多数の人々の手にわたり、広がっていった。蔓が枯れた後、日比野はに9×10メートルの和紙を現場で制作。仕上げに、蔓を全身に巻きつけ纏い、紙面上を歩き、蔓に流れてきた記憶を紙に移す行為を実行した。この《サンセット～サンライズ・アーク：NEWS PAPER TIMES》はこの場に宿った時と記憶を、会期終了まで日々表面に蓄積、更新していった。こうして、朝顔による風景は展覧会という時の流れを越えて展開した。

村上隆は本展のために《シーブリーズ アナザーディメンション 2012版》を新たに考案。全長約37メートルの壁面が蛍光のピンクと黄色、黒の壁画と化し、核爆発、殺戮、死を象徴する



6



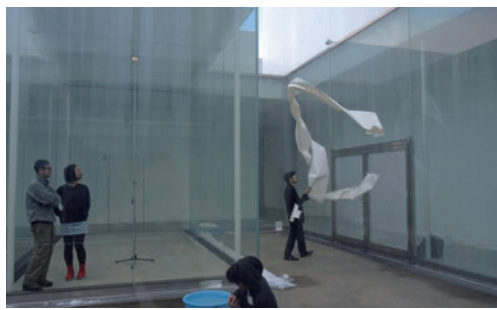
7



8



9



10

図柄が過剰な軽さと華麗さを以て多方向に展開し、原子力爆弾の投下という史実とその記憶の在り方を観る者に問いた。

气流、温度、湿度の影響で起こるエラー、予測不能な他者の行動も取り込み、枠組に収まることを徹底的に拒む梅田哲也の姿勢は、作品の完成、作者の存在、さらにはエゴの在り方をも問うものであった。

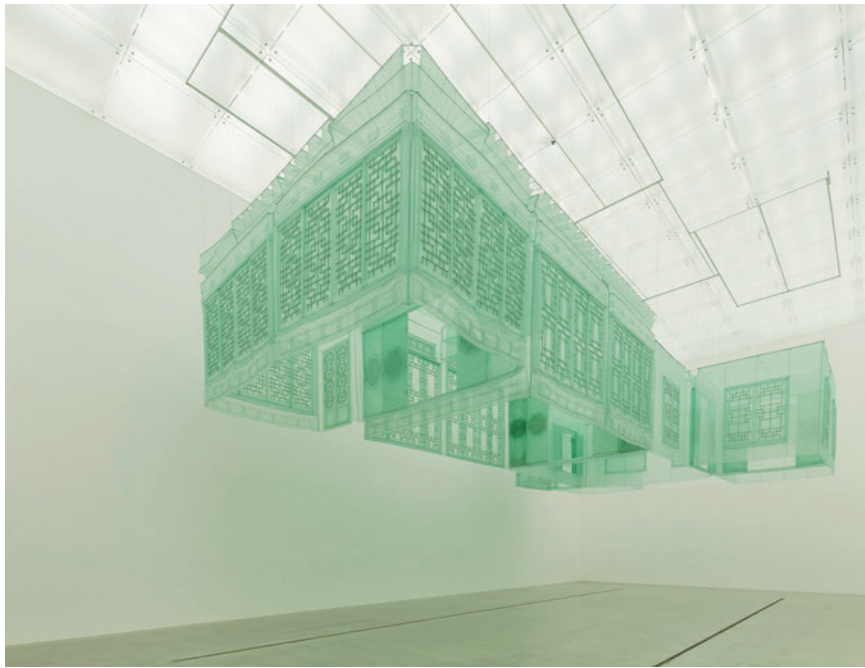
《bacteria sign (circle)》86点の展示に加え、鈴木ヒラクは、ミュージシャンの植野隆司を迎え、会場全域にて10時間のライブ・ドローイングを展開し、植野は新たな音楽を創出した。「描くことによってはじめて生まれてくる場や時間というものがある。同じ場所に戻ってきた時には違う時間が流れ、同じ時間には別の場所で何かが起こっている。」とは、本プログラムによせた鈴木ヒラクの言葉である。それは、本展の鑑賞体

験として観る者の内に起こっていたことであろう。このことは、本展企画中に他界したダヴィッド・ヴァイスがペーター・フィッシュリとともに制作した映像にて、ネズミとパンダが草花や構造物を触れて確かめる動作に象徴されるように観る者の心に培われていった。

2つの展覧会が、個々に自立しながら、会期が交差した時にひとつの壮大なテーマが露呈されるという仕組みは、開放的で導線がフレキシブルな当館の建築特徴に依拠する部分が大い。オープニングのアーティスト・トークでは、木村太陽、サイトウ・マコト、卯城竜太、田嶋悦子、秋山陽という、普段異なるフィールドで活動する作家達が一同に会したように、25組のアーティストの表現が多様に出会い、時空間の交差、コンセプトの変容とともに、鑑賞者それぞれの体験にもたらされた。

(北出智恵子)

1. 展示室3：ジェイク&ディノス・チャップマン  
《ディノスとアドルフVII》2008年
  2. 展示室3：フランチェスコ・デ・ゴヤ  
《「ロス・カプリチオス」62番 いったい誰が信じるだろうか!》  
1797-1798年 大湊神社蔵
  3. 展示室3と4の間の空間：奈良美智  
《Fountain of Life》(部分) 2001年
  4. 展示室1：Chim ↑ Pom  
《SUPER RAT》2011年 ヴィデオ・スチル
  5. 光庭3横の空間：村上隆  
《シープリーズ アナザーディメンション 2012版》  
1992年(デジタルプリント:2012年)
  6. 展示室12：ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス  
《音と光—緑の光線》1990年
  7. 展示室12：草間彌生《朝のさざなみ》1975年
  8. 関連プログラム：ピピロティ・リスト  
《ペバーミント》2009年
  9. 光庭3：「センセット〜サンライズ・アーク」  
光庭プロジェクト 2012年  
バトリック・ブラン「サンセット〜サンライズ・アーク」プラン  
日比野克彦《「明後日朝顔プロジェクト21」の種》
  10. 梅田哲也  
《みているをみられているはみられているをみている》  
(2012年/ミクスト・メディア)の空間でライブ・ドロー  
イング/パフォーマンスを行う鈴木ヒラクと植野隆司  
(2013年1月26日)
- 4-7. 金沢21世紀美術館蔵
1. © the artist Courtesy White Cube
  3. © Yoshitomo Nara
  - 3.6.7.9. Photo: WATANABE Osamu
  4. © 2011 Chim ↑ Pom Courtesy of MUJIN-TO  
Production, Tokyo
  5. © 1992/2012 Takashi Murakami / Kaikai Kiki Co.,  
Ltd. All Rights Reserved. Photo: SUEMASA Mareo
  8. Film still Film by Pipilotti Rist; 80',  
Starring Ewelina Guzik  
© Pipilotti RIST Courtesy the artist and Hauser & Wirth
  10. Photo: IKEDA Hiraku



1



2



3

## ス・ドホ | パーフェクト・ホーム

2012.11.23–2013.3.17

ス・ドホは薄い布を用いて建物を表現する「ファブリック・アーキテクチャー」シリーズにおいて、或る地点へと至る移動の際に持ち得る空間を表現してきた。1962年韓国に生まれ、ソウル国立大学卒業後にアメリカに移って絵画と彫刻を学び、自国の文化とマイノリティとして暮らす他国の文化間のせめぎ合いを作品に反映し、繊細で端正な質感と、時代の空気が持つ曖昧さや浮遊感を合わせ持つ作品は、特に評価が高い。

現在、ニューヨークとロンドンを拠点にして、世界各地を作品発表やプロジェクトのために移動し続けているス・ドホにとって、「家」について言及することは、自らのアイデンティティに関わる疑問の延長上にある。「空間をスーツケースに納めて運ぶ」という発想から始まった軽やかな作品は、光を通す半透明な薄い布で作られ

ている。ドホ自らの体験にまつわる建物とそのパーツであるドアノブ、洗面台、水道管などはすべて正確に採寸され、布地で作り変えられている。どれもス・ドホの個人的な記録と記憶の集積であるが、多くはピンク、緑、青、赤といった、シンプルな単色で作られているがために、一体誰の家なのか、個人を特定する何の痕跡も示さない無名性も獲得しているという、アンビバレントな様子がみてとれるのは興味深いことだ。

ドホにとっての家は定住のための家を指し示すだけでなく、自らの存在や記憶と密接に結び付いた形象である。韓国の両親と共に暮らした家をパラシュートに括りつけ、自身が留学して米国に暮らしたアパートに不時着させるなど、ポリエステル製の布の家は海を越えて漂流し、一時的に漂着する。それらはまぎれもなく世界中を移動し続けるドホと同じく移動する家であり、

仮設（インсталレーション）にして、またふたたびどこかに移動していくのである。この場合の移動とは、ドホの個人の事情に拠るだけでなく、現代におけるアイデンティティの問題や、帰属や再帰といった私たちが置かれている状況を照射する普遍性を獲得している点にも注目すべきである。

ドホの作品に現れる家を構成する数々のパーツ——多くは階段や廊下、門などは、内と外、あるいは公と私を分け隔てる境界を象るものである。内部と外部が相互浸透する壁や門や廊下といった空間的な仕切りは、たとえば《アメリカ合衆国ニューヨーク州10011 ニューヨーク市348西22番通り-アパートA、廊下と階段（金沢版）》という作品を例にとれば、自立して閉じられているかのようにも見える。しかし実際には、個人の家も電線や水道管といった他





4



5



6

者との共有や寄生によって相合浸透を可能にする。精巧に作られた電気スイッチやドアノブなどをさまざまな境界に位置する形象と位置づけて、なおかつ家をドホ自身と読み替えてみれば、家に言及している作品は、個人と集団、公と私の関係そのものを表すものと考えられる。また、これらの構成要素は移動にまつわる起点や終点、結節や分割といった建築空間の経験を示すものでもある。ドホの家は薄い布で空間的に仕切り分割して独立した領域を区画する。しかし外部との関係を結ぶことなく、いずれはふたたび畳まれ、変容しながら新しい空間へと解き放たれていく。

現代において「ホーム」という言葉に込められた幸福な感触や記憶の住処といった信頼性は失われつつある。が逆説的に安定した空間への思慕は、ますます強まり、家を持つこと、家

を取り戻すことに、大きな意味を重ね合わせている。「パーフェクト・ホーム」とはその実体も含めて「家」についての定義が揺らぐなかでの問いとして聞かねばならない。ドホの作品における家は、建築的記号への言及に留まらず、そこに住まう人々や家族や出自といったアイデンティティに関わる問いかけも含む。多様であるが制限された空間の旅の中であっても、「理想の家」とは何かをあらゆる次元で考える契機になるものだろう。

(黒澤浩美)

1. 展示室11：展示風景

《ソウルの家／ソウルの家／金沢の家》2002-2012年  
絹、ステンレススチール 作家蔵  
Seoul Home / Seoul Home / Kanazawa Home

2.3. 展示室6：展示風景

《アメリカ合衆国ニューヨーク州 10011 ニューヨーク市  
348西22番通りーアパートA、廊下と階段（金沢版）》  
2011-2012年  
ポリエステル、ステンレス・スチール 作家蔵  
348 West 22nd Street, New York, NY 10011, USA —  
Apt. A, Corridors and Staircases (Kanazawa version)

4. 展示室14：展示風景

《墜落星 — 1/5スケール》2008-2011年  
ミクスト・メディア リウム・サムスン美術館蔵  
Fallen Star — 1/5th Scale

5. 展示室9：展示風景

《秘密の庭》（模型）2012年  
ミクスト・メディア、トラック  
Secret Garden

6. 展示室10：展示風景

《家のなかの家 — 1/11スケール — 原型》2009年  
ステレオリトグラフィ  
Home within Home — 1/11the Scale — Prototype

1-6. ©Do Ho Suh

1-4.6. Photo: Nils Claus

5. Photo: Jeon, Taegsu



1

## 高嶺 格： Good House, Nice Body ～いい家・よい体

2010.4.29–2011.3.21

「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」第4弾となる本展のアーティスト 高嶺格は、私たちが生きていく上での根本的な拠りどころでありながら、日常の中で愚鈍になりがちな「家」と「体」についての感覚や認識を、展覧会に関わる多くの協働者とともにライブに問い直していく「Good House, Nice Body ～いい家・よい体」を提案した。

展覧会は4月末からのプロジェクト1と8月末からのプロジェクト2より構成された。前者ではボランティア・メンバーが主に役者として参加し、約1ヶ月の制作期間を経て完成した新作映像インスタレーション《Good House, Nice Body ～私を建て、そして通り過ぎていった者たち》を長期インスタレーションルームで展示した。後者では、プロジェクト・パートナーの渡辺菊真とともに「人が住む場所とは何か」とい

うテーマを掲げ、身体を使って建築を実践するワーク・イン・プログレスのプロジェクトを実施した。2つのプロジェクトは独立した内容ではあるが、ともに「家」と「体」の双方が深く絡み合うプロセスを経ている点、人間の記憶や原始的な生理的な感覚や直感と向き合う中でテーマを浮かび上がらせている点が共通項であった。

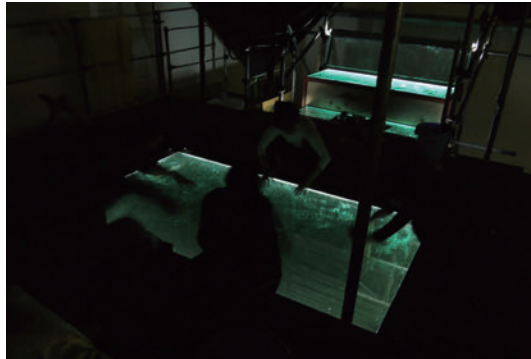
プロジェクト1で制作したインスタレーションの核となる「家」の構造体は、金沢近辺で高嶺とメンバーらが解体予定の古屋から引き取ってきた古材から構成されている。漆が丁寧に塗られた柱や梁、凝った造りの建具など、画一化された最近の住宅にはない存在感と歴史を感じさせるこれらの古材を用いて、展示室内に仮想の「家」を構築した。「家」を舞台に投影される映像と音声は、高嶺がオーディションで選んだメンバーが役者として担った。人の素肌がガラ

スに密着した部分のみが青白く発光し、浮かび上がるという特殊な撮影技法を用いて、高嶺は17分間の映像を制作した。シナリオや絵コンテを用意することなく、メンバーとの対話を重ねながら彼らの個性や身体的な特性を掴む過程で、作品の詳細が決まっていくという刺激的なプロセスがとられた。結果として、長い歴史の中で「家」の細部に刻み込まれた住民たちの無数の記憶が匂いたつような映像が完成し、「家」の床や階段部分に投影された。

プロジェクト2では、日本の現代住宅とそれを取り巻くシステムや日本人の価値観について疑問を感じていた高嶺が、国内外で土囊建築の設計施工に携わってきた建築家・渡辺菊真をパートナーに招き、真に人間的な「住処」の可能性をメンバーや他の協力者とともに追求する提案を行った。2人は当館のプロジェクト



2



3



4



5

ト工房を舞台とし、その中にドーム状の土囊の家と、鋼管足場の上に廃材等を組み合わせた2階建ての家を設計した。渡辺は、土囊ドームの意匠設計を担当し、メンバーを指揮しながら制作を進めた。高嶺は、鋼管足場と廃材の家を職人たちの手をかりながらメンバーとともに設営した。高知工科大学の渡辺の教え子たちもかけつけ、7日間の集中制作を経て、8月末に展示のコアとなる部分は完成し、一般公開が始まった。プロジェクトはその後も続き、ドームを取り囲むアーチと側壁が作られた。工房外壁に設置したドーム表面には芝生緑化が施された。11月には、タイで土囊建築を実行し、レジデンス施設を企画運営するピシットボン・シリピットを招き、高嶺とともに3日間の特別ワークショップを行った。

本展は、2つのプロジェクトのコンセプトや

意義に加え、展覧会としての展開の仕方も画期的であった。1年の会期中、高嶺が金沢にずっと張り付いていることはできない。高嶺自身のコントロールを離れたところで自律的に動き出し、変化していくことをプロジェクトの強みとして積極的に受け入れた。ある時は高嶺自身が学ぶ側として、協働者による提案や展開を受け、フィードバックとして展示に反映していった。「住むこと」「生活すること」「生きること」の根底をなす自身の身体や社会の価値観を皆で問い直しながら、オルタナティブな考え方や方法を試してみるというプロジェクトの過程には、参加者や来場者を戸惑わせながらも常にワクワクさせる空気が満ちていた。

(吉岡恵美子)

1. 高嶺格《Good House, Nice Body : 私を建て、そして通り過ぎていった者たち》2010年  
撮影：中道淳／ナカサウンドパートナーズ
2. 高嶺格・渡辺菊真《Good Houseプロジェクト》2010-2011年
3. 《Good House, Nice Body : 私を建て、そして通り過ぎていった者たち》制作風景、2010年
4. 《Good Houseプロジェクト》制作風景、2010年
5. 「Good House」土囊ドームでサウナに入る、2010年11月22日  
1. Photo: NAKAMICHI Atsushi / Nacása & Partners  
2. Photo: KIOKU Keizo



1



2



3



4

## ピーター・マクドナルド：訪問者

2011.4.16-2012.3.20

作家の美術館での初個展となる本展覧会は、5年目を迎えた「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」の国際化を目指した第1弾であった。作家の描かれたイメージ、そして「描く」行為自体を通じて、絵画という根源的な表現言語の力と可能性を人とまちを舞台に実践したプロジェクトであった。不特定多数の人々がマクドナルドの絵と出会い、彼らの解釈が展覧会のプログラムそのものとして発展し、多種多様な表現が生まれた。まさに絵のリーディングの現場そのものが展覧会のコンテンツであった。

館内2室にて「サロン」、「ディスコ」、そして美術館外にて「タウン」という3つのプロジェクト／舞台を中心に展開した。まず2011年4月、マクドナルドの描く様々な日常風景の絵画38点が一堂に会した展示空間「サロン」からスタートした。ここで生まれる鑑賞者と作品、果ては作家との開かれた対話がプロジェクト後半に展開、美術館外活動「タウン」へと展開した。

試みのひとつとして、プロジェクト「Shipping Salon」を実施。マクドナルドが制作のため金沢に滞在した4月中旬からの約2か月の間、「サロン」にポストを設け、来場者から手紙を募り、1033通が投函され、全て作家に届けられた。絵が自身の言語のひとつたるマクドナルドは個別にドローイングで応えた。手紙の差出人とマクドナルドの経験や思考が折り混ざったドローイングは、唯一無二の生の対話である。総数1044通のドローイングは、住所を記した人宛には切手が貼られ、個人レターとしてさらなる対話を求めて世界各地へと発信された。住所を記さなかった人宛のものについては、不特定多数の来場者へのメッセージというかたちで「サロン」に展示された。

自分の絵が部屋一帯になり、訪れる人があたかも自分の絵の登場人物になって、絵とつながり、人とつながっていく——これは、ピーター・マクドナルドが本展参加にあたり思い描いたイ

メージである。プロジェクト「ディスコ」は、4月下旬からマクドナルドと20代から30代のボランティア・メンバーが、高さ6メートル、4壁面の全長約70メートルというサイズの壁画を描き、この空間を舞台に様々なプログラムを随時併催する場となった。作家とメンバーの濃密な交流及び自己表現の場が様々な表現者たちを惹き付け、新しい出来事が生み出されていった。

Buffalo Daughterやアミット・ロイによるコンサート、50人のDJによる毎週末のショーケースでは、彼らの絵画の解釈が壁画空間に増幅し続けた。この現場に鑑賞者が出会い、体を動かし、くつろぎ、あるいは歓声をあげ、走り回る。そのカオスな響きと余韻が空間に蓄積されていった。「ほかのあたまほかのからだ」は、能楽師の渡邊茂人、高橋憲正、数々徳、舞踊家の中西優子、ヨガ・インストラクターの砂山由希子という異なるジャンルの身体表現の専門家を迎え、「自己」をテーマに、「絵を描くこと／みること＝パフォー



5



6



7



8



9



10

ミングすること」を通じて、自分自身と出会い、対話する研究会として実施された。

ボランティア・メンバーも常にこれらのプログラムに立ち合い、自身も「ディスコ」で制作した。12名のメンバーの想いや意志が、本プロジェクトにおいて様々なかたちの表現になって姿を現し、ワークショップとして企画、運営、実践された。造形言語と身体言語の出会いを一般対象に広げた「ほかのあたまをつくろう!」、絵を描き、自分と、マクドナルドの絵と、他者をつながることを試みた「Studio Disco — ディスコで描いてディスコにつながるパノラマ・ペインティング」、マスキング・テープを用いて線、色、かたちを他者と制作する「マスキング・ペインティング — かくれる線とあらわれるかたち」、この空間を新たな表情で見せる「懐中電灯ディスコ」。彼らは、鑑賞者と「絵を描くこと／みること＝パフォーマンス」を実践していった。

ピーター・マクドナルドは、9度の金沢訪問、総日数約120日間の金沢滞在期間中、実に多くの人々と場所に出会った。鑑賞者、メンバー、コラボレーター、まちの人々が、そして、作家が目にした金沢の風景が彼に新たな創作姿勢をもたらし、何度も通った場所や通りにも彼の絵

が現れていった。このような絵を介したコミュニケーションは、アクチュアルな行為であり、確かなつながりがあった。パラレル・ワールドとしてホワイトキューブの中に展示されていた絵の世界は、自転車店あるいは喫茶店という場所に出現していった。また、マクドナルドは、滞在中に描いたドローイングを手に、デイケアセンターや特別養護老人ホームを訪問、人々と絵について談話し、人々がドローイングに新たな意味と深い解釈を加えていった。こうして、この1年で、ペンによる線画1044点、壁画1点、屋外看板1点、ドローイング103点が誕生した。

絵画という孤独な作業を自問自答し探求し続けていたマクドナルドは、この1年で、実に多くの他者に出会い、絵を通してダイレクトな対話を続ける状況に身を置かれていた。絵に応える他者がマクドナルドの目の前にいて、語りかけた。ひとりごとのように描いてきた作家は、周囲からの反応と自身の体験を重ね合わせ、自身が応答するかのようにドローイングを描き続けた。俯瞰するかのように距離感を保っていた画家が、日常の一部として周囲とともに在り、絵を描く。その場が、金沢であり、美術館であり、「ピーター・マクドナルド：訪問者」展であった。

(北出智恵子)

1. 高さ6m、4壁面の全長約70mの壁画空間《ディスコ》作家(中央)とプロジェクト・メンバー、DJたち
2. 《ディスコ》制作風景(2011年5月13日)
3. 展覧会最終日「フィナーレ」にて開催されたメンバー企画・制作・運営のワークショップ「ほかのあたまほかのからだ」(2012年3月20日)
4. メンバー企画・制作・運営のプログラム「懐中電灯ディスコ」(2012年3月17日)
5. 「サロン」展示風景
6. 「ディスコ」で作品制作中のマクドナルド
7. 「ディスコ」にて開催された「Buffalo Daughter ライブ」(2011年9月18日)
8. 「タウン」プロジェクトのひとつ、「Cigarette Box in Town」。金沢滞在中にマクドナルドが訪れた場所や出会った人々に彼の作品を託すプロジェクト。作家の歩幅で徐々に彼のイメージが日常に浸透していった。
9. 「タウン」プロジェクトのひとつ、「サイクリング」。出会った場所、人から着想を得て新作《到着》(2012年)を描き上げた。
10. 「タウン」プロジェクトのひとつ、「てまり」。金沢滞在中に描いた103点のドローイング・シリーズ「金沢ドローイング」を「ディスコ」空間に展示するだけでなく、デイケアセンターや特別養護老人ホームに訪問・持参し、対話した

5. photo: WATANABE Osamu

6.7. photo: TAKENOUCHI Hiroyuki



1

## Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ×関口和之

2012.5.3-2013.3.17

展示室13に《サイコトロピカル・ランドスケープ》と名付けられた作品空間が登場した。フェデリコ・エレロによって作られたこの作品は、ステージ状の巨大オブジェを中心に淡い水色の色彩が空間全体を包み込む。「サイコトロピカル」という名前のおり、夢と現実の風景が交差する、まるで色彩の森林にいるような空間ができあがった。

本展は、この場を舞台に、2人の作家関口和之とフェデリコ・エレロの表現活動を捉える試みとして、様々な人々を取り込みながら1年間行った展覧会である。展覧会タイトル「Aloha Amigo!」とは、2人の活動の拠点であるハワイとコスタリカの最も象徴的な言葉として「Aloha」と「Amigo」に注目し、本展が独自に作り上げた新たな言葉・価値で、地域・文化の対話のみならず、音楽、美術、人間、自然といったカテゴリーや境界を越える新しい世界像として提示したものである。本コンセプトの下、2人

の作家とともに38名のウクレレのプロジェクト・メンバー、ウクレレ愛好者、展覧会鑑賞者、ウクレレ体験者といった多くの人々がこの展覧会に集結し、色を感じ、音を奏で、表現し、感動し、新たな自己を再発見し、そして他者と出会った。

関口和之は自らを「ウクレリアン」と称し、独自の表現活動をおこなってきたアーティストである。ウクレレが持つ人間をつなぐ力、豊かなコミュニケーションを生み出す力に注目してきた関口は、ハワイでの「ウクレレ・ピクニック・イン・ハワイ」など数々のウクレレプロジェクトを生み出し、ヒューマニティあふれる人間関係のありかたをいくつも提示してきた。一方、フェデリコ・エレロは1990年代より一貫してペインティング制作を行ってきたアーティストである。カンヴァスだけでなく、バス、道路、ビルといった公共物をも支持体に、独自のペインティング世界を広げてきた。こうした活動を行ってきた2人のアーティストに美術館が注目し、引き合

わせ、プロジェクトが始動する。エレロによって生み出された《サイコトロピカル・ランドスケープ》は、エレロが関口のウクレレへの思いやその音楽性に着目して生み出されたものであるが、エレロは一般的な音楽的機構にありがちなヒエラルキーと一線を画するウクレレの世界に注目し、演奏者も聞き手も皆が同じ時空を共有するステージを作り出した。階段状のこの巨大オブジェのステージとしての使い方は無限大である。オブジェの頂上のところで車座になってウクレレを弾いてもよし、聞き手も演奏者のすぐ横にすわってもよし、使い方は自由自在である。

空間が生み出された後、関口和之がプロデュースした鑑賞者向けのプロジェクト「Aloha Amigo!—ウクレレのある生活—」が開始した。このプロジェクトにおいて中心的な役割を担ったのが、38名のウクレレプロジェクト・メンバーである。18歳から39歳までの「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」のメンバー「Aloha



2



4



3



5



6



7

Amigo Aina]19名、そして彼らを応援する18歳以上のウクレレ経験者「Aloha Amigo」19名によって、合計38名のプロジェクト・メンバーが結成された。彼らは特に本プロジェクトの「ウクレレフリーステージ!—誰でもウクレリアン」を担い、毎日展示室で鑑賞者にウクレレ体験の手ほどきを行い、幾重ものコミュニケーションを生み出し続けた。まさにウクレレのメッセージ、コミュニケーションのプロデューサーとなって、エレロの空間とウクレレ世界、作家と鑑賞者、音楽と絵画をつなげ続けた。彼らは自らの演奏活動も行い、展示室内や金沢市内の施設においてウクレレステージを繰り広げ、夏に美術館で開催した「Aloha Amigo! ウクレレサミット」では野外ステージで素晴らしい演奏を繰り広げた。彼らはまさに、関口が提唱したプロジェクト「Aloha Amigo!—ウクレレのある生活—」の体現者であり、展覧会コンセプトを生きた人たちであった。

関口が思い描いたウクレレと人間との結びつきは、エレロの色彩空間と相まってさらにその本質が明らかとなった。音を聴き、音を奏でる行為と、色やかたちを感じ取るという鑑賞世界が同質のものとして提示された展示空間で、鑑賞者やプロジェクト・メンバーは五感全てでものごとを感じ取り、表現する豊かさを体験したのだった。一面的で一義的な芸術的技術や鑑賞方法が提示されるのではなく、そこに佇むそれぞれの個が各々の物語を紡いでいくように、ひとりひとりが自ら感じ、その感情と向き合い、認め、唯一無二の音楽世界と鑑賞世界を築き上げた。こうした個が築いたそれぞれの世界こそが「Aloha Amigo!」という概念の本質であった。

(村田大輔)

1. フェデリコ・エレロと関口和之とメンバーたち
2. フェデリコ・エレロ《サイコトポカル・ランドスケープ》  
2012年 ミクスト・メディア  
H90 x φ760cm  
金沢21世紀美術館蔵
3. 「Aloha Amigo! ウクレレサミット」  
2012年8月26日
4. 展覧会ファイナルイベント「ウクレレがいっぱい」  
2013年3月9日
5. ウクレレ・プロジェクト  
「Aloha Amigo—ウクレレのある生活—」  
「ウクレレフリーステージ!—誰でもウクレリアン—」
6. ウクレレ・プロジェクト  
「Aloha Amigo—ウクレレのある生活—」  
サタデー・ウクレレ・ワークショップ「キッズ・ウクレレ」
7. ウクレレ・プロジェクト  
「Aloha Amigo—ウクレレのある生活—」  
サタデー・ウクレレ・ワークショップ「シニア・ウクレレ」

1. photo: IKEDA Hiraku  
2.5. photo: SUEMASA Mareo  
3.4.7. photo: KITA Naoto

## デザインギャラリー



1



1



2



2



3

### ミナ ペルホネン

The future from the past 未来は過去から

2010.1.16-5.30

時を経て色あせない魅力をもち、身につけるたび気持ちが高揚する洋服づくりを目指すブランド「ミナ ペルホネン」。本展では、ガラス壁を同ブランドのテキスタイルを拡大した柄で覆い、室内に2点のドレスを展示した。ブランドのオリジナル生地のアークイヴで構成されたドレスと、たった1枚の型紙から成るドレスが対面し、豊かなアークイヴが未来をつくり出す「ミナ ペルホネン」のデザイン哲学を示している。会期中にはデザイナーの皆川明による講演会やワークショップを実施し、その世界観を多角的に紹介した。

(平林 恵)

#### 1-2. 展示風景

展覧会ドキュメント：[https://www.kanazawa21.jp/files/exhibition/mina\\_fix2.pdf](https://www.kanazawa21.jp/files/exhibition/mina_fix2.pdf)

### 「みかんぐみのアイデアワークショップ —みんなのがっこう」

2010.6.12-9.26

子ども達の学びの場である小学校について、建築家のみかんぐみと金沢市立新野町小学校6年生が機能や役割を考えながら新しい学びの空間をともに考える連続ワークショップを行った。制度、エネルギー、コミュニティなど、近年に抱える課題をテーマに設定し、各分野の専門家によるレクチャーを通じて、子ども達と共に理想の学校を模型やアクソメを使って可視化し、小学校をもっと身近な公共施設として捉え、まちづくりの核や生涯学習の場としての可能性を追求する場となった。

(黒澤浩美)

- みかんぐみ「みかんぐみのアイデアワークショップ —みんなのがっこう」  
みかんぐみと授業「学校を変えよう」
- みかんぐみ「みかんぐみのアイデアワークショップ —みんなのがっこう」  
金沢工業大学学生による金沢市立新野町小学校模型製作
- みかんぐみ「みかんぐみのアイデアワークショップ —みんなのがっこう」  
金沢市立新野町小学校裏の風向きを調査





1



1



2



3



2



3

本当のデザインだけがリサイクルできる  
Only honest design can be recyclable.  
D&DEPARTMENT PROJECT  
2010.10.9-2011.1.30

時代の移り変わりに伴い、次々と生み出される新しいデザイン。現代の消費サイクルにおいては、物だけでなくデザインそれ自体も消費され続けていることを再考する展覧会。D&DEPARTMENT 金沢として、既に生み出されたデザインや商品の中からロングライフデザインとして保持し続けていくべきものをD&DEPARTMENT PROJECTが選んで買い取り、もう一度販売し直すという一連の活動を3期に分けて展示した。

(黒澤浩美)

MADE IN JAPANの置時計  
1960年代を中心に  
2011.2.5-5.29

今なお新鮮な印象を与える昭和の置時計。鮮やかなプラスチックの色彩や流線型のフォルム、遊び心がある文字盤など斬新なデザインに驚かされる。本展では、金沢在住の山田訓が集めた1000点を超えるのコレクションから約400点を紹介した。これだけの国産置時計を一堂に揃えて展示するのは全国でも初めての試みであり、日本の戦後デザイン史の一端を示すものでもある。日本デザイン史についてのレクチャー、山田氏をゲストにコレクションする楽しみについてのトークも開催した。

(高橋律子)

1-3. Only honest design can be recyclable. D&DEPARTMENT PROJECT 展示風景  
1. Only honest design can be recyclable. D&DEPARTMENT PROJECT 第1期  
2. Only honest design can be recyclable. D&DEPARTMENT PROJECT 第2期準備  
3. Only honest design can be recyclable. D&DEPARTMENT PROJECT 第3期開店

1-2. 展示風景 photo: IKEDA Hiraku  
3. トーク「コレクションの楽しみ」(2011年3月18日)



1



1. グエン・ファン・チャン  
《牛に乗って川を渡る女》  
(修復後)

©Nguyen Nguyet Tu  
photo:  
IZUMI Nobutoshi  
courtesy:  
CREATIVE POSITION  
CORE

2-3. 展示風景

photo: IKEDA Hiraku



2



3



2



3

art-ZINE：  
冊子型アート・コミュニケーション  
2011.6.11-9.25

「ZINE(ジン)」とは、表現したい人がコピーやプリンター等で少数作り、販売／交換する冊子のことを指す。本展では、アート表現として制作されたZINEを「art-ZINE(アートジン)」と呼び、アートにおける新たな表現の場として着目、新たなコミュニケーションをもたらすツールとしての可能性を追求した。会期中、art-ZINEを広く公募し会場内の書棚に配置、最終的には約300冊ものart-ZINEが展示され、来場者は自由に手にとって個性あふれるひとつひとつの冊子を楽しんだ。最終日にはシンポジウムを開催、ZINEやart-ZINEに対する議論を深めることができた。

(高橋律子)

1-3. 展示風景

1-2. Photo: IKEDA Hiraku

3. Photo: HUDGE co.ltd.

ベトナム絹絵画家グエン・ファン・チャン  
絵画修復プロジェクト展  
2011.10.22-2012.2.12

ベトナムが誇る近代の絹絵のパイオニアとして知られる画家グエン・ファン・チャン。グエン・ファン・チャンの絹絵は、絹地に水彩で描かれ、何度も画面を洗浄しながら描くというその独特の手法ゆえ、温湿度や光の影響を受けやすく、高温多湿の本国では傷みの進行が懸念されていた。本展では、日本の多くの有志の人々の熱い思いによって修復が試みられた3点を初公開するとともに、3年に渡る修復への困難な道程を綴るドキュメンタリー映像を上映し、修復のプロセスを伝える展覧会となった。

(高橋律子)



1



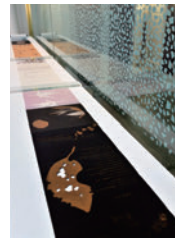
1



2



3



2



3

### Olive 1982-2003

雑誌『オーリーブ』のクリエイティビティ

2012.2.25-7.1

80年代から90年代にかけて少女時代を過ごした女性たちにとって雑誌『オーリーブ』は、人気が高かっただけでなく特別な雑誌であった。かつて「オーリーブ少女」と呼ばれた読者たちは、いま30代、40代となり、オーリーブの感性がいまなお生活のなかに息づいている。本展では、『オーリーブ』の本質に迫るためバックナンバーをほぼ全冊収集、来場者が自由に閲覧できるようにした。『オーリーブ』とは何だったのかを検証するとともに、「雑誌の時代」や少女文化における新たな視点を獲得する展覧会となった。

(高橋律子)

#### 1-3. 展示風景

Photo: IKEDA Hiraku

### matohu

日本の眼 日常にひそむ美を見つける

2012.7.21-11.25

服飾ブランドmatohuは、2005年のデビュー以来「日本の美意識が通底する新しい服の創造」をコンセプトに服作りを行っている。本展では、matohuが2010年からコレクションにおいて展開している「日本の眼」をテーマに、「かさね」「無地の美」「映り」「やつし」など日本の美意識の再発見とその表現を、コレクションテーマに沿いながらも同じデザインで作り続けられている「長着(ながぎ)」を通して展示を行った。歴史の経糸を貫く感性が、現代の生活にどう生かされ、個々人の生活に気づきと豊かさをもたらすか提示することとなった。

(高橋律子)

#### 1-3. 展示風景

Photo: IKEDA Hiraku

教育普及  
Education Activities

# 2010-2012年度の教育普及事業

当館の教育普及事業のねらいは、第一には館の使命である「まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館」や「子どもたちとともに、成長する美術館」に基づいて、来館者が生き生きと過ごせることであり、さまざまなプログラムを通して鑑賞や表現、交流の機会を設けつつ「美術館の日常化」と「日常の美術館化」を目指すものである。美術館での経験を通じた新たな価値観の発見や考え方の転換、表現方法の獲得などのことは、人生観やライフスタイルそのものを形作ってゆくことでもあり、教育普及事業はすなわち自立した人格づくりの活動だともいえる。ただしその成果が目に見えてくるには時間のかかることでもある。各年度の事業は、継続的に行うものと、その年度ならではの活動を組み合わせて進めているが、ここでは主に継続的な活動の中から取り上げて紹介する。

## アートライブラリー・プログラム

### 「絵本を読もう」

#### ～幼児と大人が共に過ごす美術館

2007年より継続している、アートライブラリー担当のライブラリアンが展覧会担当キュレーターやエデュケーターと共同で行うプログラム。ライブラリアンによる絵本の読み聞かせやわらべうたなどの時間と、展覧会の作品鑑賞や美術館内散歩、造形活動などを組み合わせた内容で、幼児と保護者を主な対象に想定して30-40分間程度で完結するよう組み立てている。参加者たちはまず、読み聞かせを通じて絵本の世界そのものに浸る。そしてその余韻をふまえて作品に出会う。ここでは読み聞かせという美術館への入口を通じて、小さな子ども連れで来館することへの保護者の抵抗感を少なくし、幼年時代の子どもたちにとっても美術館が楽しい経験の場所となることを目的としている。

## キッズスタジオ・プログラム

### 「すくすくステーション」

#### ～はじめての「親子で美術館」

2010年度より継続している平日のプログラム。火曜・木曜午前のスタジオを開放し、乳幼児の散歩コースの中でも気軽に美術館に親しんで欲しいというねらいで運営している。近隣在住の親子の利用のほか、旅行や観光の家族連れによる利用もある。「ハンズオン・まるびい!」のプレイルームの運営の蓄積から、乳幼児が自分で遊べるブロックなどの遊具やちぎり絵などの簡単な造形の準備も整えており、家庭では避けられがちな大きな紙へのドローイングや、ハサミへの初挑戦など、平日のゆったりとした時間をそれぞれの思いで過ごしている。

## キッズスタジオ・プログラム

### 「ハンズオン・まるびい!」

#### ～見つける、感じる、作る場所

2007年度から継続しているキッズスタジオの休日プログラム。造形や鑑賞のプログラムを展覧会や季節に沿ったテーマで用意し、ワークショップとプレイルームの2つの運営形式がある。ワークショップでは日時と定員を決めて事前募集を行い、主題を絞り込んでじっくりと鑑賞や造形の活動を行う。プレイルームは午後1時～4時の間に自由に滞在でき、テーマを設けた造形コーナーや日用品を使ったユニット造形などを選んで過ごす。プレイルームは年齢制限は設けず、幼児から大人まで参加可能で、家族単位の利用を想定し、小学生低学年を中心とした子どもたちが自由に素材や用具を使って表現ができる一方で、大人も同様に自分なりの表現に取り組んでいる。参加者作品は積極的にスタジオに展示しており、何が心に残ったか、何を想像したかという思いの多様さを見ることが出来る。素材や用具は家庭でも実現できる

ものを取り入れ、作る大きさや展示の仕方ではスタジオの広さを活かしたり、特に共同制作のスタイルをとるなどし、美術館と家庭を繋いで「美術館の日常化」「日常の美術館化」となることを目指している。

## 「ミュージアム・クルーズ」

### ～小学4年生と地域の大人との鑑賞活動

2006年度より継続する小学校との連携活動で、市内の小学4年生を学校単位で招待し、コレクション展のグループ鑑賞を中心に過ごすもの。この事業の継続性には大きく2つの面があり、ひとつは小学4年生という時期に美術館で作品に出会い、見つけたことや想像したことを仲間と伝え合う体験を持った人たちが地域に生み続けていることである。参加児童に配布するガイドマップにはその年度中に展覧会を無料で観られる「もう一回券」が付いており、「美術館の日常化」へと誘うツールの意義もある。

もう一つは、このプログラムにより毎年地域の大人たちに向けて、子どもたちとともに作品と出会う場を開き続けていることだ。鑑賞ボランティア「クルーズ・クルー」のメンバーは数ヶ月の活動を通じて小学生とともに作品と出会う体験を繰り返す。これは地域の財産であるコレクション作品に何度も触れる経験を持った人たち、いくなれば作品の味方となる市民を増やしていく活動でもあり、その活動の様子はまさに「美術館の日常化」の光景といえる。

## 中学生まるびいアートスクール ～中学生の今と10年後のための時間

2011年度より継続している、中学生を対象とした学校連携プログラム。中学校と美術館が継続的に交わる場をなかなか持てない状況（特に授業時間を利用した来館が困難である）が課題となる中、課外活動の時間を活用して、美術館で中学生と教員とアーティストと共同でのワークショップを行うというスタイルで実現したのが「中学生まるびいアートスクール」である。金沢市中学校文化連盟の共催を得ることで毎年3校の推薦を得て、顧問教諭と相談の上で3校合同による5回のワークショップを行う。この講師には中学校教員の経験を持ち、現在は京都造形芸術大学で教鞭をとる現代美術家の椿昇に依頼した。椿は、中学生たちが自分の思いを表現できるようにと、パートナーとしてシロクマ姿の頭を持つ「シロくま先生」を指名した。彼は京都造形芸術大学で講座を持つワークショップのエキスパートであり、人でない姿の存在が中学生が心を開くために必要なだと椿が呼んだものだ。1年目の全5回のワークショップは「魔法のひきだし」と題し、中学生たちは道端に捨てられていたゴミと古着のTシャツ使って格好良いシャツを生み出すなど、活動は今後の身の回りのものの見方を問い直すような経験となり、それは「日常の美術館化」というにふさわしいものとなった。また2年目となる2012年度は「魔法の書道展」と題して、自分の思いを言葉にして、それをラップ音楽の歌詞や手作りの筆による書などの形で表した。そしてこのプログラムでは、自分の作品を仲間に発表するだけでなく展覧会を作ることで大勢の人に作品が観られる場も作った。それらの活動内容をまとめた記録集は、中学生たちが10年後にも読み返して人生を生き抜くヒントとなるべくまとめられ、参加者に贈ったほか、市内中学等に配布した。

## おわりに 今後に向けて

この2010-2012年度の間には、以前から継続している事業に加えて、それまで対応の少なかった年代に向けての事業を新たに行った。平日の乳幼児連れのファミリーに向けた「すすくステーション」や中学校と連携しての「中学生まるびいアートスクール」がそれに当たる。休日に継続している子どもとファミリーを対象に行う「ハンズオン・まるびい!」「絵本を読もう」、小学校との連携である「ミュージアム・クルーズ」も引き続き行っている。一般層に向けた活動では、30代までの年代に向けた「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」事業を継続し、シニア世代も含めたものでは「ミュージアム・クルーズ」のクルーズ・クルーや、「アートモール・スクール・プロジェクト」などで、来館者の作品体験を深める活動を行っている。









「美術館の日常化」につながるプログラムを様々な形式で行いつつも、不足しているのが高校生など10代後半の世代に向けた活動であろう。個人に向けても学校連携という形でも、なんらかの形で充実させたい。開館5年を過ぎてふり返ると、さまざまな形で美術館プログラムへの参加経験を重ねてきた人々もあり、そのような人々と新しく美術館を訪れる人々が共に心豊かにある場をどのように広げていくかが、まちとともに生きる美術館として次に必要な取り組みといえるだろう。

(木村 健 / エデュケーター)

# キッズスタジオ・プログラム






[2010年度] ハンズオン・まるびい!

## A. ワークショップ



事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数	
1 春休みプログラム 『つけたり・とったり』で遊ぼう	2010年4月3日[土]、 4日[日]13:00-16:00 (自由入場)	2	ブルーノ・ムナリーの絵作りゲーム「つけたり・とったり」で遊ぶと共に、参加者自身の自由な発想でシートを制作した。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 参加費:無料	185	
2 ミナ ベルホネン The future from the past 未来は過去から 子どものワークショップ	4月11日[日] 14:00-17:00	1	作家のデザインした様々な模様布を切り抜き、手提げバッグを制作した。 講師:皆川 明 対象:小学生~中学生 参加費:300円	17	
3 八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト 「まるびい飛行クラブ— 紙飛行機をとばそう」	5月1日[土]-5日[水祝] 13:00-16:00 (自由入場)	6	紙飛行機の様々な折り方や飛ばしかたを工夫して、キッズスタジオや広場で飛ばした。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 参加費:無料	634	
4 八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト 「ジャンプマスターの空のお話」	5月29日[土] 14:00-16:00	1	スカイダイビングとハンググライダーの専門家でありインストラクターの千田氏より、空と、そこを人が飛ぶことについてのトークを行った。また、広場でハンググライダーの飛行体験も行い、その様子をWebで生放送した。 会場:展示室13 講師:千田一博、八谷和彦 参加費:無料	30	
5 八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト OpenSkyプロジェクト 「トークショー— なぞなぞ宇宙講座in金沢」	6月19日[土] 18:00-20:00	1	宇宙開発の現役エンジニアである野田氏や特撮映画の女優である藤谷氏を招き、今考えられる小惑星への移住計画などの話を聞いた。その様子はWebで生放送した。 会場:レクチャーホール 講師:野田指令、藤谷文子、八谷和彦 参加費:1500円	40	
6 八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト まるびい飛行クラブ 「描こう!写そう!空の絵日記」	6月20日[土]、27日[土]、 7月17日[土]-19日[月]、 25日[日]、 8月13日[金]-15日[日] 13:00-16:00 (自由入場)	9	空を眺めて発見したことを絵に描いたり写真に撮ったりして日記を制作し壁面に飾った。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 参加費:無料	623	
7 八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト まるびい飛行クラブ 「ふわふわ飛行機を飛ばそう」	7月25日[日] 10:30-12:00 14:00-15:30	2	極薄の発泡スチロールペーパーを自由な形に切り抜いて、ふわふわと浮かぶように飛ぶ飛行機を作った。 対象:小学生~中学生 参加費:300円	30	
8 八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト まるびい飛行クラブ 「飛ぶふしぎ」 大人向けプログラム— マグナス効果って何?	8月6日[金] 18:30-20:00	1	飛行体が空を飛ぶしくみのひとつ「マグナス効果」を紹介し、それを利用した凧を制作した。 対象:中学生以上 参加費:500円 協力:金沢工業大学 企画運営:戸田拓海、畑邊昌也、石田裕子、桑原竜摩、木村健太郎、森下竜太(金沢工業大学工学部航空システム工学科)	11	

9	八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト まるびい飛行クラブ 「飛ぶふしぎ」 子ども向けプログラム～ こんな形が飛ぶの!?!+ プロペラの力!	2010年8月7日[土] 10:30-15:00	1	翼が空を飛ぶ力を生む様子を理解し、木の葉や円環など変わった翼の飛行機を作ったほか、プロペラの飛行力を利用したグライダーを制作した。 対象:小学4年生以上 参加費:500円 協力:金沢工業大学 企画運営:戸田拓海、畑邊昌也、石田裕子、桑原竜摩、木村健太郎、森下竜太(金沢工業大学工学部航空システム工学科)	3	
10	八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト まるびい飛行クラブ 「作って飛ばそう! 羽ばたき飛行機」	8月8日[日] 10:30-12:00 14:00-15:30	2	ゴム動力で翼を羽ばたかせて飛ぶ飛行機を制作した。 講師:高橋祐介(羽ばたき飛行機製作工房)、宗像俊龍(超小型飛行体研究所)、八谷和彦《OpenSky》プロジェクトアーティスト) 対象:小学生以上 参加費:1500円	30	
11	Alternative Humanities ～新たな精神のかたち: ヤン・ファープル×舟越桂 「変身バッジを作ろう!」	8月19日[木] 13:00-15:30	1	展示会の作品鑑賞を行った後、自分がどんな姿に変身したいかを考え、その姿をイメージしたバッジを制作する。 対象:小学生 参加費:200円+鑑賞券	8	
12	コレクション展 「目には見えない確かなこと」 「何を話しているのかな?」 《秘密の話》	9月18日[土]-20日 [月祝]、10月16日[土]、 11月13日[土]、 12月11日[土]、 1月22日[土] 13:00-16:00	7	菱山裕子作品《秘密の話》をキッズスタジオに展示した。表情や仕草からいろいろな物語を想像して、何を話しているのか、言葉を吹き出しに書いて展示していった。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 入場無料	358	
13	高嶺格: Good House, Nice Body ～いい家・よい体 「インクルーシブ・アーキテク チャーみんなで作る巨大 段ボール建築」	10月23日[土] 13:00-17:00 10月24日[日] 10:00-16:30 (2日間連続)	2	大人も子どもも、大勢と一緒に、巨大な段ボールの建築作りに挑戦した。段ボール素材のモジュールを組み合わせながら造形物を自由に形成し、美術館の広場を中心に様々な場所で移動・設置を繰り返していった。 講師:家成正勝、水野大二郎 対象:小学生は保護者同伴 参加費:無料	31	
14	コレクション展 「目には見えない確かなこと」 菱山裕子ワークショップ 「てくてくお散歩『秘密の話』を 見つけよう!」<子ども向け>	11月6日[土] 13:00-15:00	1	作家の菱山裕子と、菱山の制作した人物像作品2体と一緒に美術館の広場を散歩した。作品が置かれた様子を写真に撮り、そのプリントを画用紙に貼って眺めながら、いろいろな場面や会話を想像して台詞や絵を描き広げた。 対象:小学生～中学生 参加費:200円	4	
15	コレクション展 「目には見えない確かなこと」 菱山裕子ワークショップ 「夕暮れの街角で『秘密の話』を 見つけた。」<大人向け>	11月6日[土] 17:00-19:00	1	作家の菱山裕子と、菱山の制作した人物像2体と一緒に、夕暮れの美術館周辺を散歩した。路地に作品を置きながら、作品と風景の間で生まれるいろいろな会話や物語を想像してその様子を写真に撮った。 対象:高校生以上 参加費:300円+お茶代実費	17	




16	高嶺格: Good House, Nice Body ～いい家・よい体 子ども向け鑑賞プログラム 「わたしの“いい家”、 どんないえ？」	2010年12月18日[土] 10:00-15:30	1	作家(高嶺格、渡辺菊間)がプロジェクト・メンバーらとともに作った「家」を探検し、自分にとっての“いい家”を想像してスケッチや言葉で表現した。 対象:小学生 参加費:無料	7	
17	冬のワークショップ 「ばくの手・わたしの手 ～手のひらカードを作ろう」	2011年 1月8日[土]-10日[月] 15日[土]、16日[日] 13:00-16:00	5	小中学校合同展に会期を合わせた家族連れ向け造形プログラム。自分の手を画用紙に型取って切り抜き、指にポーズを付けてレリーフを作成した。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 入場無料	270	
18	コレクション展 「目には見えない確かなこと」 ワークショップ 「《秘密の話》を描こう!」	2月20日[日] 13:00-15:00	1	菱山裕子作品《秘密の話》の人物像を観察し、その表情やポーズから、どんな気持ちか、どんな場面なのかを想像した。作品の写真を撮ってそれを切り抜き、画用紙に貼って、人物像の周りの様子を絵に描いて発表した。 対象:小学生 参加費:100円	7	
19	コレクション展 「目には見えない確かなこと」 イブニング・ワークショップ 「目に見えるのは確かなこと?」	3月15日[火] 18:30-20:00	1	「目で見ていること、体で感じていること」の不思議を、錯視のカードを作るなどして体験し、自分の目が見ていることは「確かなこと」なのかについての意識を深めた。 協力:金沢工業大学 感動デザイン工学研究所 企画運営:川中麻耶、出蔵遼平、中村智美、丹羽花子、水口加菜、三上菜月(金沢工業大学情報学部心理情報学科) 対象:高校生以上 参加費:100円	12	
20	春休みプログラム 「くると・びりびり 紙で作ろう! 春のいきものたち」	3月25日[金]-27日[日] 13:00-16:00	3	色画用紙を丸めた筒からスタートして、破いたり、曲げたり、貼り付けたりしながら、自分のアイデアで様々な動物や植物などを作った。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 入場無料	154	

## B. プレイルーム

事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数
プレイルーム 「かたちで遊ぼう!」	Aのワークショップ 実施日以外の休日 (計80日間)  13:00-16:00 (自由入場)	80	親子で自由に滞在しながら、シンプルな幾何学積み木やビー球を転がすコース作りなどの形作り遊びを行った。想像しながら遊びかたを参加者自身でアレンジ出来るように、日用品や異種の遊具を組み合わせた見本も提示した。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 入場無料	4,619
				 

## すくすくステーション

事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数
すくすくステーション	2010年5月11日[火]-7月15日 [木]の間の火曜・木曜 10:00-13:00(自由入場) 2011年9月14日[火]-12月21 日[木]、1月13日[木]-3月17日 [木]の間の火曜・木曜 10:00-12:30(自由入場)	62	平日の乳幼児連れの保護者のため、美術館の情報コーナー及び休憩スペースとしてオープン 対象:未就学児と保護者 入場無料	781
				

[2011年度] ハンズオン・まるびい!

A. ワークショップ

事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数	
1 春休みプログラム 「くると・びりびり 紙で作ろう!春のいきものたち」	2011年4月2日[土] 4月3日[日] 13:00-16:00 (自由入場)	2	色画用紙を丸めた筒からスタートして、破いたり、曲げたり、貼り付けたりしながら、自分のアイデアで様々な動物や植物などを作った。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴)	131	
2 サイレント・エコー コレクション展I ワークショップ 『つたわる・ひろがる』を描こう	6月11日[土] 11:00-12:00	1	最初にジュゼッペ・ベノーネ作品《伝播》を鑑賞し、次に共同での絵画制作を行った。白い大きな画面に自分の指紋をスタンプし、そこから広がっていく輪を思い浮かぶままに描いた。 対象:小学生から大人まで	13	
3 サイレント・エコー コレクション展I 子どもギャラリートツアー 「ひびきを感じよう 伝えよう」	7月10日[日] 13:00-16:00 (自由入場)	2	子ども向けの鑑賞プログラムとして、コレクション展作品のグループ鑑賞と個人鑑賞を行い、発見したことを伝え合った。 対象:小学生~中学生	7	
4 イエッペ・ハイン 360° 子どもギャラリートツアー 「鏡の迷宮を探検しよう」	8月18日[木] 9:45-10:15 8月25日[木] 13:00-13:30	4	子ども向けの鑑賞プログラムとして、イエッペ・ハイン作品《回転する迷宮》の鑑賞を行った。 対象:小学生(保護者同伴可)	40	
5 Inner Voices—内なる声 ワークショップ 「身体を使って織る」	10月15日[土] 13:00-17:00	1	アーティストとともに過ごしながら、黄麻を素材として自分の身体を使ってシンプルな紐を織っていった。 講師:呉夏枝 対象:中学生以上 参加費:700円	11	
6 サイレント・エコー コレクション展II ワークショップ 「いろいろカラー Work 色を泳ごう」	2012年3月31日[日] 10:30-12:00/ 14:00-15:30	2	山崎つる子作品《WORK》を鑑賞した後、ブリキの板の表面に様々な色の染料を流して混ぜ合わせ、作品を制作した。 対象:小学生 参加費:500円	17	

## B. プレイルーム

事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数
ハンズオン・まるびい! プレイルーム 「かたちで遊ぼう!」	Aのワークショップ 実施日以外の休日 (計119日間)  13:00-16:00 (自由入場)	119	親子で自由に滞在しながら、シンプルな幾何学積み木やビー玉を転がすコース作りなどの形作り遊びを行った。想像しながら遊びかたを参加者自身でアレンジ出来るように、日用品や異種の遊具を組み合わせた見本も提示した。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 入場無料	6,108



## すくすくステーション

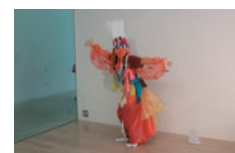
事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数
すくすくステーション	2011年4月12日-7月14日、 9月6日-12月22日、 2012年1月17日-3月22日 の間の火・木曜 (休日および 展覧会休場日を除く)  10:00-12:30 (自由入場)	73	平日の乳幼児連れの保護者のため、美術館の情報コーナー及び休憩スペースとして運営した。 対象:未就学児と保護者 入場無料	1,320



[2012年度] ハンズオン・まるびい!

A. ワークショップ

事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数
1 素材と遊ぶ 「石を彫ろう! ~新生物誕生」	2012年6月9日[土]、 16日[土]、23日[土]、 30日[土] 9:00-12:00 (全4回)	1	4日間の石彫体験を通して、石の素材感に触れた。様々な石の素材を観察した後、石川県で採掘された日華石を叩き、彫り、研磨してゴツゴツやツルツルにして、世界で1つの「石の生きもの」を作った。 講師:渡辺秀亮 会場:プロジェクト工房 対象:中学生~大人 料金:3,000円	6
2 素材と遊ぶ 「石で作ろう! ~新生物誕生~」	6月23日[土]、30日[土] 13:00-16:00 (自由入場) 8月9日[木] 15:30-17:00 23日[木] 10:00-12:00	4	大人向けプログラム「素材と遊ぶ『石を彫ろう!~新生物誕生~』」と関連して子ども向けの造形プログラムを行った。石ころを集めた中から一つ選び、形や模様から新しい生物をイメージして作り、名前とその特徴を考えた。 8月9日には金沢湯涌創作の森との共同事業「アートフル林間学校」プログラムとして、8月23日には小学校サマースクール対応プログラムとして実施した。 講師:渡辺秀亮 対象:子どもから大人まで 参加無料	199
3 素材と遊ぶ 「粘土→陶土→穴窯↑ ~陶土をつくろう~」	7月7日[土]、21日[土] 10:00-15:00 8月25日[土]、 10月6日[土] 13:00-16:00 (全4回)	1	陶土づくりを通して、土の手触りや色、匂いなどの素材感を味わった。前半では大地から粘土を掘り出し、乾かし、砕き、練り、焼きものの素材となる「陶土」を作った。後半では自作の陶土で器やオブジェなどを作り、12月に穴窯で焼き上げて完成させた。 講師:戸出雅彦 会場:プロジェクト工房、金沢卯辰山工芸工房、おしがほら工房 料金:3,000円	14
4 菱山裕子ワークショップ 「君も『フシギいきもの図鑑』 に登場しよう」	8月11日[土] 13:00-16:00 (自由入場)	1	「変身」をテーマに、想像上の生きものに自分が変身して写真を撮り、その名前や特徴を考えて「フシギいきもの」のカードを作成した。制作されたカードを集めて図鑑を完成させた。 講師:菱山裕子 参加費:無料	89
5 素材と遊ぶ 「粘土をつくろう」	9月8日[土] 13:00-16:00 (自由入場)	1	大人向けプログラム「素材と遊ぶ『粘土→陶土→穴窯↑~陶土をつくろう~』」と関連して子ども向けの造形プログラムを行った。粉末状の陶土に水を混ぜ、自分の手で粘土を作った。出来上がった粘土を使って自由に造形を行った。 講師:戸出雅彦 対象:子どもから大人まで 参加無料	25
6 ス・ドホ パーフェクト・ホーム 「マイ・パーフェクト・ルーム」	2013年3月2日[土] 13:00-15:00	1	「ス・ドホ パーフェクト・ホーム」展を鑑賞し、参加者自身の「マイ・パーフェクト・ホーム」を紙箱や色画用紙などを素材に制作した。 対象:小学生 参加費:500円	16



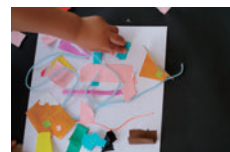
## B. プレイルーム

事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数
プレイルーム 「かたちで遊ぼう!」	Aのワークショップ 実施日以外の休日 (計101日間)  13:00-16:00 (自由入場)	101	親子で自由に滞在しながら、自由に造形表現を行った。今年度は、特に素材に触れることをテーマにした造形プログラムを展開した。大人向けの連続ワークショップ「素材と遊ぶ」シリーズとも関連して素材を選んだ。 4-6月「素材の引き出し 紙」 6-8月「石で作ろう!新生物」 9-10月「粘土を作ろう」 11月-12月「木で作ろう!新生物」「木で木を描こう」 2月「紙×折る×切る 雪の世界を作ろう」 3月「絵の具でかこう のび〜る線」 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 入場無料	6,493



## すくすくステーション

事業名等	実施日時	実施回数	内容	参加者数
すくすくステーション	2012年4月3日[日]-19日[火]、 9月4日[日]-11月29日[火]、 2013年1月22日[日]- 3月22日[木]の間の火・木曜 (休日および観覧会休場日を除く)	72	平日の乳幼児連れの保護者のため、美術館の情報コーナー及び休憩スペースとして運営した。 対象:未就学児と保護者 入場無料	1,280



# アートライブラリー・プログラム [2010年度]

「絵本を読もう」

読み手: 鍛冶裕子

事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
八谷和彦《OpenSky》 プロジェクト	① 2010年5月23日 [土] 11:00-11:30	● わらべうた「赤い袋になににいれよ」 「いっぴきちゅう」	授乳室前(●●)→ 展示室13	黒澤浩美 (キュレーター)	① 12 ② 13
	② 5月23日 [土] 14:00-14:30	● 『ごろごろにゃーん』 長新太 作・画(福音館書店、1984年) ● 『ぼくがとぶ』 ささきまき さく (福音館書店、1994年)			
	① 6月26日 [土] 11:00-11:30	● わらべうた ① 「ぼうずぼうずかわいときゃかわいけど」	授乳室前(●●)→ 展示室13	黒澤浩美 (キュレーター)	① 16 ② 16
	② 6月26日 [土] 14:00-14:30	② かぞえうた「いちにさんまのしっぽ」 ● 『うみちゃんのみど』 中川ひろたか ぶん/ 長新太 え(偕成社、1997年) ● 『ぼくがとぶ』 ささきまき さく (福音館書店、1994年)			
高嶺格: Good House, Nice Body ～いい家・よい体	6月19日 [土] 11:00-11:30	● 『とき』 谷川俊太郎 ぶん/ 太田大八 え(福音館書店、2008年) ● 『だいくのたこ8さん』 内田麟太郎 文/ 田中六次 絵(くもん出版、2009年)	授乳室前(●)→ 長期インスタ レーションルーム	吉岡恵美子 (キュレーター) 米田晴子 (キュレーター)	7
	6月19日 [土] 14:00-14:30	● わらべうた 「たんぼたんぼむこうやまへとんでけ」 ● 『だいくのたこ8さん』 内田麟太郎 文/ 田中六次 絵(くもん出版、2009年) ● 『よるのようちえん』 谷川俊太郎 ぶん/ 中辻悦子 え・しゃしん (福音館書店、1998年)	授乳室前(●●)→ 長期インスタ レーションルーム	吉岡恵美子 (キュレーター) 米田晴子 (キュレーター)	21
	7月10日 [土] 11:00-11:30	● わらべうた 「いなかのおじさんたんぼみちとおって」 ● 『とき』 谷川俊太郎 ぶん/太田大八 え (福音館書店、2008年) ● 『だいくのたこ8さん』 内田麟太郎 文/ 田中六次 絵(くもん出版、2009年)	授乳室前(●●)→ 長期インスタ レーションルーム	吉岡恵美子 (キュレーター) 米田晴子 (キュレーター)	7
	10月2日 [土] 11:00-11:30	● わらべうた「せんべせんべやけた」 ● 『あな』 谷川俊太郎 作/ 和田誠 画(福音館書店、1983年) ● 『ヘンリーいえをたてる』 D.B. ジョンソン 文 /今泉吉晴 訳(福音館書店、2004年)	プロジェクト 工房(●●)	吉岡恵美子 (キュレーター) 平林恵 (キュレーター)	14
	11月6日 [土] 14:00-14:30	● わらべうた「おてぶしてぶし」 「ひとつどんぐりひのかお」 「どっこやががいん」 ● 『ぼくのうちはゲル』 バーサンスレン・ポロルマー 絵・文/ 長野ヒデ子 訳(石風社、2006年)	プロジェクト 工房(●●)	吉備久美子 (エデュケーター) 米田晴子 (キュレーター)	16
	12月19日 [日] 11:00-11:30	● わらべうた「おてぶしてぶし」 ● 『ぼくのうちはゲル』 バーサンスレン・ポロルマー 絵・文/ 長野ヒデ子 訳(石風社、2006年)	プロジェクト 工房(●●)	吉岡恵美子 (キュレーター) 吉備久美子 (エデュケーター)	12



事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
高嶺格: Good House, Nice Body ～いい家・よい体	2011年1月15日[土] 11:00-11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『だれがすんでいるのかな』五味太郎 (偕成社、2001年)</li> <li>●『「イグルー」をつくる』ウーリ・ステルツァー 写真と文 / 千葉茂樹 訳 (あすなろ書房、1999年)</li> </ul>	プロジェクト 工房 (●●)	吉岡恵美子 (キュレーター) 吉備久美子 (エドキュレーター)	17
	2月12日[土] 11:00-11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『だれがすんでいるのかな』五味太郎 (偕成社、2001年)</li> <li>●『あな』谷川俊太郎 作 / 和田誠 画 (福音館書店、1983年)</li> </ul>	プロジェクト 工房 (●)	吉岡恵美子 (キュレーター) 吉備久美子 (エドキュレーター)	31
	3月19日[土] 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『よるのいえ』スーザン・マリー・スワンソン 文 / ベス・クロムス 絵 / 谷川俊太郎 訳 (岩波書店、2010年)</li> <li>●『よるのようちえん』谷川俊太郎 ぶん / 中辻悦子 え・しゃしん (福音館書店、1998年)</li> </ul>	プロジェクト 工房 (●)	吉岡恵美子 (キュレーター) 吉備久美子 (エドキュレーター)	30
Alternative Humanities ～新たなる精神のかたち: ヤン・ファープル×舟越桂	2010年7月24日[土] 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「なかなかほい」</li> <li>●『がいがこつ』谷川俊太郎 詩 / 和田誠 絵 (教育画劇、2005年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室6→ 展示室14	不動美里 (キュレーター) 村田大輔 (キュレーター)	14
	8月20日[土] 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「なかなかほい」</li> <li>●『がいがこつ』谷川俊太郎 詩 / 和田誠 絵 (教育画劇、2005年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室6→ 展示室14	不動美里 (キュレーター) 村田大輔 (キュレーター)	29
みかんぐみ 「みかんぐみのアイデア ワークショップ みんなのがっこう」	2010年8月17日[火] 10:00-11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「おやまがねあったとき」</li> <li>●『あっちゃんあがつく』みねよう げんあん / さいとうしのぶ さく (リーブル、2001年)</li> <li>●『うみちゃんのまど』中川ひろたか ぶん / 長新太 え (偕成社、1997年)</li> <li>かぞえうた「ひとつひとつより大きい頭」</li> <li>●『ドワーフじいさんのいえづくり』青山邦彦 作・絵 (フレーベル館、2003年)</li> </ul>	キッズスタジオ (●●) →デザインギャラリー →展示室13	黒澤浩美 (キュレーター) 木村健 (エドキュレーター)	16 (金城幼稚園 招待)
	8月25日[水] 10:00-11:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「おやまがねあったとき」</li> <li>●『うみちゃんのまど』中川ひろたか ぶん / 長新太 絵</li> <li>●へんなかぞえうた「一本と一本でどんな音」</li> <li>●『ドワーフじいさんのいえづくり』青山邦彦 作・絵 (フレーベル館、2003年)</li> </ul>	キッズスタジオ (●●) →デザインギャラリー →展示室13	黒澤浩美 (キュレーター) 木村健 (エドキュレーター)	26 (川上幼稚園 招待、 かさまい 保育園招待)





事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
コレクション展 「目には見えない 確かなこと」	2010年9月26日〔日〕 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた「ねこじやしねこじやし」</li> <li>「あかいふくろになにいれよ」</li> <li>「いっぴきちゅう」『ねずみくんのひみつ』</li> <li>なかえよしを 作／上野紀子 絵 (ポプラ社、1981年)</li> <li>● 『あたまのなかのそのなかは?』</li> <li>シスカ・フーミンネ 文／</li> <li>イヴォンヌ・ヤハテンベルフ 絵／</li> <li>野坂悦子 訳 (講談社、2008年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室4前→ 展示室13	黒澤浩美 (キュレーター)	20
	10月16日〔土〕 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた「おてぶしてぶし」</li> <li>● かぞえうた「ひとつどんぐりひとつのかお」</li> <li>● 『ねずみくんのひみつ』なかえよしを 作／上野紀子 絵 (ポプラ社、1981年)</li> <li>● わらべうた</li> <li>「おさらなたまごにはしかけほい」</li> <li>● 『うちゅうたまご』荒井良二 作・絵 (イースト・プレス、2009年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室13→ 展示室4前→ 展示室3	黒澤浩美 (キュレーター)	18
	12月11日〔土〕 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた「ひとやまこえて」</li> <li>● 『マドレンカ』ピーター・シス 作／ 松田素子 訳 (BL出版、2001年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室6	吉備久美子 (キュレーター)	12
	2011年1月29日〔土〕 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手遊び「はちべえさんとじゅうべえさん」</li> <li>● 『そうべえ まっくろけのけ』</li> <li>田島征彦 (童心社、1998年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室2→ カプーアの部屋	黒澤浩美 (キュレーター)	11
	2月27日〔土〕 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手遊び「はちべえさんとじゅうべえさん」</li> <li>● 『月夜のオーケストラ』イェンス・ラスムス 作／斎藤洋 訳 (小学館、1999年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室4	吉備久美子 (エデュケーター)	17
ベーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス	2010年11月3日〔水祝〕 14:00-14:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた「もどろもどろものはもどろ」</li> <li>● 秋のなぞなぞ1題</li> <li>● 詩「いろんなぎのこ」中川李枝子</li> <li>● 『そしたらそしたら』谷川俊太郎 ぶん／ 柚木沙弥郎 え (福音館書店、2000年)</li> </ul>	授乳室前→ 光庭2 (●●)	米田晴子 (キュレーター)	29
	12月4日〔土〕 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた</li> <li>「おてぶしてぶし」「ひとやまこえて」</li> <li>● 『そしたらそしたら』谷川俊太郎 ぶん／ 柚木沙弥郎 え (福音館書店、2000年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室10→光庭ま わり→光庭2	米田晴子 (キュレーター)	50
本当のデザインだけが リサイクルできる Only honest design can be recyclable. D&DEPARTMENT PROJECT	2010年11月13日〔土〕 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手遊び「おやまがねあったとき」</li> <li>● かぞえうた「ひとつどんぐり」</li> <li>● 『くずかごおばけ』せなけいこ (童心社、1975年)</li> <li>● わらべうた「いっぴきちゅう」</li> <li>● 『おじいさんならできる』</li> <li>フィービ・ギルマン 作・絵／芦田リ 訳 (福音館書店、1998年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ デザインギャラリー	黒澤浩美 (キュレーター)	11



事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー	2011年3月5日 [土] 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「はちべえさんとじゅうべえさんが」</li> <li>●『モモ、しゃしんをとる』ナジャ 作／ 伏見操 訳 (文化出版局、1999年)</li> <li>●『心にパシャッ』いわさきちひろ 絵／ ゆうきまさこ 構成・文 (小学館、2000年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ →展示室14	黒澤浩美 (キュレーター)	10

「朗読のひととき」  
読み手: 鍛冶裕子

事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
Alternative Humanities ～新たなる精神のかたち: ヤン・ファーブル×舟越桂	① 2010年7月3日 [土] 14:00-14:30 ② 7/24 [土] 16:00-16:30 ③ 8/20 [金] 16:00-16:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『ファーブルの昆虫記 上』ファーブル 著／ 大岡信 編訳 (岩波書店、2000年) より 「キンイロオサムシ」一部朗読</li> <li>●『あなたが想う本』舟越 桂 画／ 天童荒太 文 (講談社、2000年) 朗読</li> </ul>	展示室11前 (●)	不動美里 (キュレーター) 村田大輔 (キュレーター)	① 4 ② 15 ③ 15
ベーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス	2010年11月20日 [土] 14:00-14:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『子どもに語るグリムの昔話1』グリム 著 ／佐々梨代子、野村滋 訳 (こぐま社、1990 年) より「ルンベルシュティルツヘン」朗読</li> </ul>	展示室11 (●)	北出智恵子 (キュレーター)	24

# アートライブラリー・プログラム [2011年度]

「絵本を読もう」  
読み手: 鍛冶裕子

事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
コレクション展 「目には見えない 確かなこと」	2011年4月2日 [土] 14:00-14:30	● わらべうた「ひとやまこえて」 ● 『マドレンカ』ピーター・シス 作/ 松田素子 訳 (BL出版、2001年)	授乳室前 (●●)→ 展示室6	黒澤浩美 (キュレーター)	12
MADE IN JAPANの 置時計 1960年代を中心に	① 2011年4月23日 [土] 11:00-11:30 ② 5月21日 [土] 11:00-11:30	● わらべうた「ぼつつぼつあめがふる」 ● 『アストンの石』ロッタ・ゲッフェンブラド 作/菱木見子 訳 (小峰書店、2006年) ● 『ぼくのわたしのたからもの』稲田務 さく (福音館書店、1987年)	授乳室前 (●●)→ デザインギャラリー	高橋律子 (キュレーター)	① 4 ② 13
サイレント・エコー コレクション展I	① 2011年5月15日 [土] 11:00-11:30 ② 5月28日 [土] 14:00-14:30	● 手遊び「一本と一本でどんな音」 ● 詩「こだまでしょうか」金子みすゞ ● 『しー!ぼうやがおひるねしているの』 ミンフォン・ホ 作/ホリー・ミード 絵/ 安井清子 訳 (偕成社、1998年)	光庭2 (●●)→ 展示室7、8、9	村田大輔 (キュレーター)	① 25 ② 22
	6月5日 [土] 13:00-13:40	● 手遊び「一本と一本でどんな音」 ● 詩「こだまでしょうか」金子みすゞ ● 『しー!ぼうやがおひるねしているの』 ミンフォン・ホ 作/ホリー・ミード 絵/ 安井清子 訳 (偕成社、1998年) ● 『おばあちゃん ひとり せんそうごっこ』 谷川俊太郎 文/ 三輪滋 絵 (プラネットジアース、2006年)	展示室11 (●●)→ 展示室7、8、9	木村健 (エデュケーター)	27 (南砺市 「アートで 遊ぼう」 実行委員会)
サイレント・エコー コレクション展II	2012年2月11日 [土] 11:00-11:30	● 『もけらもけら』山下洋輔 ぶん/元永定正 え/中辻悦子 構成 (福音館書店、1990年) ● 『もりのなか』マリー・ホール・エッツ ぶん・え/まさきりこ やく (福音館書店、1963年)	授乳室前 (●●)→ 展示室4、6、3	村田大輔 (キュレーター)	17
イエッペ・ハイン360°	2011年6月18日 [土] 14:00-14:30	● わらべうた「なかなかほい」 ● 『まほうのコップ』藤田千枝 構成/ 川島敏生 写真/長谷川撰子 文 (福音館書店:月刊版、2008年) ● 『あけるな』谷川俊太郎 作/安野光雅 絵 (銀河社、1976年)	授乳室前 (●●)→ 展示室6、14	鷺田めろろ (キュレーター) 米田晴子 (キュレーター)	25
	7月9日 [土] 11:00-11:30	● わらべうた「なかなかほい」 ● 『こんにちは わたし』小長谷清美 ぶん/ 堀川理万子 え (福音館書店、2005年) ● 『あけるな』谷川俊太郎 作/安野光雅 絵 (銀河社、1976年)	授乳室前 (●●)→ 展示室6、14	鷺田めろろ (キュレーター) 米田晴子 (キュレーター)	29
ピーター・マクドナルド: 訪問者	① 2011年8月6日 [土] 14:00-14:30 ② 8月7日 [日] 11:00-11:30 ③ 9月19日 [月祝] 14:00-14:30 ④ 10月22日 [土] 11:00-11:30 ⑤ 2012年1月14日 [土] 14:00-14:30 ⑥ 3月20日 [火祝] 14:00-14:30	● かぞえうた 「ひとつとよりおおいあたま」 ● わらべうた 「ぼうずぼうずかわいときゃかわいけど」 「かたどんひじどん」、「さんといちに」 ● 『やまのディスコ』スズキコージ (架空社、1988年)	展示室13 (●●)	北出智恵子 (キュレーター) 川岸真由子 (キュレーター)	① 29 ② 25 ③ 67 ④ 30 ⑤ 46 ⑥ 50



事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
ピーター・マクドナルド: 訪問者	2011年11月26日〔土〕 11:00-11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「おちゃをのみにきてください」</li> <li>●かぞえうた「ひとつひとよりおおいあたま」</li> <li>●わらべうた「おてぶしてぶし」</li> <li>●『あおくときいろちゃん』レオ・レオーニ作/ 藤田圭雄 訳(至光社1984年)</li> <li>●『しずかてにぎやかなほん』 マーガレット・ワイズ・ブラウン さく/ レナード・ワイズガード え/ 谷川俊太郎 やく(童話館出版、1996年)</li> </ul>	長期インスタレー ションルーム(●●)	北出智恵子 (キュレーター) 川岸真由子 (キュレーター)	14
海みらい アートプロジェクト 「ピンクとエロ」	2011年8月11日〔木〕 14:00-15:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「おてぶしてぶし」</li> <li>●かぞえうた「へんなひとかぞえうた」</li> <li>●『だれかさんの目』マイケル・グレニエツ 絵・文/そまそのあやこ 訳 (セーラー出版、2000年)</li> <li>『びりびり』東君平 (ピリケン出版、2000年)</li> <li>●手遊び「いもにめがでてはがでてほい」</li> <li>●『はなおとこ』ヴィヴィアン・シュワルツ 作 ジョエル・スチュワート 絵/ ほむらひろし 訳(偕成社、2009年)</li> </ul>	金沢海みらい図書 館グループ学習室1 (●●)→交流ホール	村田大輔 (キュレーター)	39
	8月26日〔金〕 14:00-15:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「おさらにとまごにはしかけほい」</li> <li>●『ぞうのはな』矢崎節天 作 杉浦範茂 絵 (フレール館、2001年)</li> <li>『びりびり』東君平 (ピリケン出版、2000年)</li> <li>●かぞえうた「へんなひとかぞえうた」</li> <li>●手遊び「おさらにとまごにはしかけほい」</li> <li>●『ねむいねむいおはなし』 ユリ・シュルヴィッツ さく/ さくまゆみこ やく(あすなろ書房、2009年)</li> </ul>	金沢海みらい図書 館グループ学習室1 (●●)→交流ホール	吉岡恵美子 (キュレーター)	46
Inner Voices—内なる声	2011年8月27日〔土〕 13:00-13:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び 「にゅうめんそうめんひやそうめん」</li> <li>●『たこなんかじゃないよ』秋野和子 文/ 秋野玄左 絵(福音館書店、2005年)</li> <li>●『なにをたべたかわかる?』 長新太(絵本館、2003年)</li> </ul>	授乳室前(●●) →展示室10、12	黒澤浩美 (キュレーター)	7
	9月3日〔土〕 13:00-13:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び 「にゅうめんそうめんひやそうめん」 「おさらにとまごにはしかけほい」 『わたしのうみべ』 長新太(佼成出版社、2002年)</li> <li>『たこなんかじゃないよ』秋野和子 文/ 秋野玄左 絵(福音館書店、2005年)</li> </ul>	授乳室前(●●) →展示室10、12	黒澤浩美 (キュレーター)	9
	10月7日〔土〕 19:00-19:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「おらうちのどてかぼちゃ」</li> <li>●『わたし』谷川俊太郎 作/長新太 絵 (福音館書店、1981年)</li> <li>●『かきねのむこうはアフリカ』 バルト・ムイヤールト 文/ アンナ・ヘグルンド 絵/佐伯愛子 訳 (ほるぶ出版、2001年)</li> </ul>	展示室7(●●)	黒澤浩美 (キュレーター)	10



事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
モニック・フリードマン展	2012年2月17日〔土〕 11:00-11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた「あめこんこんふるなよ」</li> <li>● 『たいようオルガン』 荒井良二 (偕成社、2008年)</li> <li>● 『くも』新宮晋 (文化出版局、1979年)</li> </ul>	展示室14前 (●●)	吉岡恵美子 (キュレーター)	6
	1月7日〔土〕 11:00-11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた「いっぽんといっぽんで」</li> <li>● 『たいようオルガン』 荒井良二 (偕成社、2008年)</li> <li>● 『白い森のなかで』ロバート・フロスト ぶん／ スーザン・ジェファーズ え／おぎさきえこ やく (ほるぷ出版、1983年)</li> </ul>	展示室14 (●●)	吉岡恵美子 (キュレーター)	15
	3月3日〔土〕 11:00-11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた「たんぼぼたんぼぼ」</li> <li>● 『くうき』まど・みちお 詩／ ささやまゆきえ (理論社、2011年)</li> <li>● 手遊び「ぼつつんぼつぼつあめがふる」</li> <li>● 『空の絵本』長田弘 作／荒井良二 絵 (講談社、2011年)</li> </ul>	展示室11前 (●●)	吉岡恵美子 (キュレーター)	14
魔法のひきだし展	2012年1月15日〔日〕 11:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 手遊び「おもやのもちつき」</li> <li>● かぞえうた「おもちのかぞえうた」</li> <li>● 『ひみつのひきだしあけた?』 あまみきこ さく／やまわきゆりこ え (PHP研究所、新装版2008年)</li> <li>● 『やねうら』ハーウィン・オムラ／ きたむらさとし (評論社、1996年)</li> </ul>	授乳室前 (●●) →キッズスタジオ	黒澤浩美 (キュレーター)	25
押忍!手芸部と豊嶋秀樹 『自画大絶賛(仮)』	3月10日〔土〕 15:00-16:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>● わらべうた「なかなかほい」</li> <li>● 『てん』ピーター・レイノルズ作／ 谷川俊太郎 訳 (あすなろ書房、2004年)</li> <li>● 『ぞうのボタン』 うえのりこ さく (富士山房、1975年)</li> </ul>	光庭2 (●●) →展示室8	平林恵 (キュレーター)	22

「朗読のひととき」  
読み手:鍛冶裕子

事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
サイレントエコー コレクション展I	2012年6月25〔土〕 14:00-14:20	『心は孤独な狩人』 カーソン・マッカーラーズ 著／河野一郎 訳 (新潮文庫、復刊2001年) より一部朗読	展示室11前 (●)	村田大輔 (キュレーター)	7
モニック・フリードマン展	2月18〔土〕 16:00-16:30	詩・谷川俊太郎「みみをすます」 詩・中原中也「一つのメルヘン」「春宵感懐」	展示室11前 (●) →展示室11、 緑の橋、展示室14	吉岡恵美子 (キュレーター)	6

# アートライブラリー・プログラム [2012年度]

「絵本を読もう」  
読み手: 鍛冶裕子

事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
サイレント・エコー コレクション展II	2012年4月7日 [土] 11:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『もけらもけら』 山下洋輔 ぶん／元永定正 え／ 中辻悦子 構成 (福音館書店、1990年)</li> <li>●『あな』谷川俊太郎 作／ 和田誠 画 (福音館書店、1983年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ 展示室1、 カプーアの部屋、 タレルの部屋	村田大輔 (キュレーター)	16
キッズスタジオ・プログラム	2012年4月22日 [日] 14:00-14:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「たけのこめだした」</li> <li>●『あさになったのでまどをあけますよ』 荒井良二 (偕成社、2011年)</li> <li>●手遊び「いもにめがでて」</li> <li>●『きはなんにもいわないの』 片山健 (学習研究社、2005年)</li> <li>→ミニワークショップ「きはなんにもいわないの」</li> </ul>	キッズスタジオ (●●)	木村健 (エデュケーター)	13
	5月12日 [土] 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「いもにめがでて」</li> <li>●『ルラルさんのにわ』いとうひろし さく (ポプラ社、2001年)</li> <li>●『きはなんにもいわないの』片山健 (学習研究社、2005年)</li> <li>→ミニワークショップ「きはなんにもいわないの」</li> </ul>	授乳室前 (●●) →キッズスタジオ	木村健 (エデュケーター)	16
	① 5月27日 [日] 11:30-12:00 ② 6月9日 [土] 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「おすわりやすいすどっせ」</li> <li>●『きりんいす』岡井美穂 さく (福音館書店、2003年)</li> <li>→美術館いす探検</li> </ul>	授乳室前 (●●) →館内	吉備久美子 (エデュケーター)	① 16 ② 25
	8月11日 [土] 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「おてぶしてぶし」</li> <li>●『ミリーのすてきなぼうし』きたむらさとし (BL出版社、2009年)</li> <li>●わらべうた「きつねがねばけたとき」</li> <li>●『へんしんねこた』菅野由貴子 作・絵 (ポプラ社、2002年)</li> </ul>	授乳室前 (●●)→ アートライブラリー →キッズスタジオ	木村健 (エデュケーター)	19
	9月8日 [土] 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「もぐらどんのおやどかね」</li> <li>●『どろんどろんちゃん』いとうひろし (ポプラ社、2003年)</li> <li>●『みみずのオッサン』長新太 さく (童心社、2003年)</li> <li>→ワークショップ「ねんどをつくらう」</li> </ul>	キッズスタジオ (●●)	木村健 (エデュケーター)	25
	① 10月13日 [土] 13:30-14:00 ② 12月23日 [日] 11:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「おてぶしてぶし」</li> <li>●『ねえ、どれがいい?』 ジョン・バーニンガム さく／ まつかわまゆみ やく (評論社、2010年)</li> <li>→きよろきよろ探検ツアー</li> </ul>	授乳室前 (●●) →館内外探検	吉備久美子 (エデュケーター)	① 18 ② 19
	11月10日 [土] 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●かぞえうた「ひとつどんぐり」</li> <li>●『ざぼんじいさんのかきのき』 すとうあさえ 文／織茂恭子 絵 (岩崎書店、2000年)</li> <li>→お気に入りの木をさがしにいこう</li> </ul>	授乳室前 (●●) →館内外探検	木村健 (エデュケーター)	12



事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
キッズスタジオ・プログラム	2013年1月5日〔土〕 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「おもやのもちつき」</li> <li>●『おもちのきもち』かがくいひろし (講談社、2005年)</li> <li>●『せんをひく』砂岸あろ ことば / 大倉侍郎 せん (福音館書店、2010年) →書き初め</li> </ul>	授乳室前 (●●)	木村健 (エデュケーター)	16
	3月24日〔日〕 11:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「いもにめがでて」</li> <li>●『ふゆめがっしょうだん』富成忠夫、茂木透 写真 / 長新太 文 (福音館書店、1990年)</li> <li>●『じっちよりんのあるくみち』かとうあじゅ (文溪堂、2011年) →ふゆめさがし</li> </ul>	授乳室前 (●●) →館外探検	吉備久美子 (エデュケーター)	34
Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ× 関口和之	2012年6月24日〔土〕 11:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●童謡「ほたる」</li> <li>●わらべうた「ほたるこい」の重ね歌遊び</li> <li>●『The Conductor』Laetitia Devernay (Chronicle Books、2011年)</li> </ul>	展示室13 (●●) →光庭	村田大輔 (キュレーター) 川岸真由子 (キュレーター)	22
	9月29日〔土〕 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「やすべえじい」</li> <li>●『やまのかいしゃ』スズキコージ さく / かたやまけん え (架空社、1991年) →ウクレレ体験</li> </ul>	展示室13 (●●)	村田大輔 (キュレーター) 川岸真由子 (キュレーター)	23
	11月25日〔日〕 11:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「やすべえじい」</li> <li>●『バスにのって』荒井良二 (偕成社、1992年) →ウクレレ体験</li> </ul>	展示室13 (●●)	村田大輔 (キュレーター) 川岸真由子 (キュレーター)	28
	2013年1月27日〔土〕 11:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「ひとやまこえて」</li> <li>●『バスにのって』荒井良二 (偕成社、1992年) →ウクレレ体験</li> </ul>	展示室13 (●●)	川岸真由子 (キュレーター)	36
コレクション展 ソリエリュミエール —物質・移動・時間、 そして叡智	① 2012年7月14日〔土〕 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「おやゆびねむれ」</li> <li>●『よあけ』ユリー・シュルヴィッツ 作・画 / 瀬田貞二 訳 (福音館書店、1977年)</li> </ul>	光庭 →展示室11 (●●)	北出智恵子 (キュレーター)	① 29 ② 34
	② 7月22日〔日〕 11:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●手遊び「いもにめがでて」</li> <li>●『せんねんまんねん』まど・みちお 詩 / 柚木沙弥郎 絵 (理論社、2008年)</li> </ul>			
	10月28日〔日〕 11:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『ぼくはおこった』ハーウィン・オラム / きたむらさとし (評論社、1996年)</li> <li>●『まるのうた』A. ラマチャンドラン 作・絵 / 谷川俊太郎 訳 (福音館書店、1975年)</li> </ul>	展示室2、 展示室6 (●) →光庭3	北出智恵子 (キュレーター)	16
2013年2月9日〔土〕 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「えんどまごこめ」</li> <li>●『太陽へとぶ矢』ジェルラド・マクダーモット さく / じんぐうてるお やく (ほるぶ社、1975年)</li> </ul>	展示ゾーン (●●) (光庭3横)	北出智恵子 (キュレーター)	20	



事業名等	日時	内容	場所	鑑賞・体験担当	参加者数
ス・ドホ パーフェクト・ホーム	2012年12月1日[土] 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた 「やすべえじいがうんぼんぼん」</li> <li>●『たなかさんちのおひっこし』大島妙子 作 (あかね書房、1993年)</li> </ul>	授乳室前 (●●) →展示室11、14	吉備久美子 (エデュケーター)	7
	2013年2月24日[日] 11:30-12:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小さなおはなし「あおくときいろちゃん (ブラックさんとブラウンさん)」</li> <li>●『たなかさんちのおひっこし』大島妙子 作 (あかね書房、1993年)→作品鑑賞</li> </ul>	授乳室前 (●●) →展示室7、14	木村健 (エデュケーター)	13
	3月9日[土] 13:30-14:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>●わらべうた「ずくぼんじょ」</li> <li>●『たなかさんちのおひっこし』大島妙子 作 (あかね書房、1993年)</li> </ul>	授乳室前 (●●) →展示室11、9	黒澤浩美 (キュレーター)	20





収集保存・アーカイヴ  
Conservation, Registration, Archives

# 修復・貸出

## 修復

### 2010年度(3件)

- ◎ **ポヤン・シャルチェヴィッチ**《灌漑-肥沃化》  
状態：ペーターカムを調査研究用にデジタル化  
処置内容：DVD変換コピー
- ◎ **舟越桂**《DR1009 (double image)》  
状態：衝撃による皺  
処置内容：湿り気と圧力による皺伸ばし
- ◎ **LAR / フェルナンド・ロメロ**《ラッピング》  
状態：ステンレス網の破損  
処置内容：破損部分の再溶接作業

### 2011年度(21件)

- ◎ **角永和夫**作品《Wood No.5 C.J》  
状態：腐食による表面損傷  
処置内容：作家本人による表面切削加工および調整
- ◎ **久世健二**《土のかたち》  
状態：接触による破損  
処置内容：作家による修復
- ◎ **パトリック・トゥットフオコ**《バイサークル(シルヴィア)》  
状態：接触によるプラスチックケース破損  
処置内容：プラスチックケース部分取替
- ◎ **レandro・エルリッヒ**《スイミング・プール》  
状態：躯体の漏水による塗装皮膜破損  
処置内容：塗装皮膜の除去と再塗装
- ◎ **ビロロッチェ・リスト**《あなたは自分を再生する》  
状態：映像の歪み  
処置内容：作家指定エンジニアによるグリッド作成後の歪み調整
- ◎ **ビロロッチェ・リスト**《あなたは自分を再生する》  
状態：アクリルパーツ部分欠損  
処置内容：アクリルパーツ欠損部分再制作および再加工
- ◎ **LAR / フェルナンド・ロメロ**《ラッピング》  
状態：フィルム表面の経年の汚れ  
処置内容：表面クリーニング
- ◎ **レandro・エルリッヒ**《スイミング・プール》  
状態：ステンレス網の破損  
処置内容：破損部分の再溶接作業
- ◎ **パトリック・ブラン**《緑の橋》  
状態：散水栓の不具合  
処置内容：散水栓の交換
- ◎ **日比野克彦**《明後日の種》  
状態：保管用フレームの不具合  
処置内容：保管用フレーム撤去
- ◎ **ヤン・ファープル**《小さい闘士》  
状態：作品保管箱の不具合  
処置内容：保管箱再制作

- ◎ **モナ・ハトゥム**《地図》  
状態：ガラス球破損およびインスタレーション解体  
処置内容：破損パーツの取替およびインスタレーション修復
- ◎ **モニーク・フリードマン**《金色1、「輝き」シリーズより》  
《アブサント》  
状態：作品表面の汚損、破損  
処置内容：修復家による汚損除去および修復
- ◎ **ピーター・マクドナルド**《新たな神》  
状態：作品表面の汚損  
処置内容：修復家による汚損除去
- ◎ **マイケル・リン**《市民ギャラリー 2004.10.9-2005.3.21》  
状態：作品表面の汚損  
処置内容：修復家による汚損除去
- ◎ **ピーター・マクドナルド**《高砂スクロール(習作)》  
状態：接触による作品表面の折れ曲り  
処置内容：修復家による折れ曲り調整
- ◎ **グレイソン・ベリー**  
《2つの作品を制作するグレイソン・ベリーの  
タイム・ラプス・フィルム》  
状態：DVDの曇り  
処置内容：研磨
- ◎ **マグナス・ヴァリン**《リンボ》  
状態：DVDに付着物  
処置内容：付着物除去
- ◎ **イ・ブル**《サイボーグW8》  
状態：作品表面の損傷  
処置内容：作家スタジオスタッフによる修復
- ◎ **牛嶋均**《ころがるさきの玉 ころがる玉のさき》  
状態：展示中の塗装剥がれによる錆  
処置内容：作家指定業者による再塗装
- ◎ **フェデリコ・エレロ**《ペルマの仮面》、《崩れた顔》、  
《クリメント氏の葬送行進の様子》  
状態：表面の汚れ、ひび割れ、剥離、浮き上がり  
処置内容：修復家によるクリーニング、剥離の定着

### 2012年度(19件)

- ◎ **カールステン・ニコライ**《テレファンケン》  
状態：CDプレーヤーケースの不備  
処置内容：CDプレーヤーケース補充
- ◎ **田中信行**《触生の記憶》  
状態：表面のスクラッチ  
処置内容：作家によるスクラッチ研磨
- ◎ **ビロロッチェ・リスト**《わたしは自分を再生する》  
状態：防犯対応措置の調整  
処置内容：スタジオスタッフによる防犯対応措置の確認および調整
- ◎ **ラファエル・ロサノ=ヘメル**《パルス・ルーム》  
状態：DMX(照明調光制御装置)10台弱不具合、白熱電球消耗品不備  
処置内容：白熱電球備品補充、エンジニアによるDMXの調整、照明制御装置とのマップおよび修復対応マニュアル作成
- ◎ **草間彌生**《I'm Here, but Nothing》  
状態：遮光カーテンの不備、TVチューナーの不備  
処置内容：遮光カーテンおよびチューナー備品補充
- ◎ **ペーター・フィッシュリ** **ダヴィッド・ヴァイス**  
《音と光-緑の光線》  
状態：電圧制御の不具合  
処置内容：専門家による電気回路調整
- ◎ **粟津潔**  
《不詳(原画)》  
《赤い箸を持ったアースマン》  
《パフォーマンス・スコア》  
状態：表面の経年の汚れおよび浮き上がり  
処置内容：表面クリーニングおよび裏打ち補填、額装
- ◎ **奈良美智**《I will ROCK YOU! / Broken Heart Bench yngm: k version》  
状態：壁画表面にクラック  
処置内容：修復家によるクラックの補強および支持体のサポート
- ◎ **猪倉高志**《かげを纏うかたち2008-01》  
状態：作品固定用ミュージアムジェルによる汚損  
処置内容：再焼成および研磨
- ◎ **ポヤン・シャルチェヴィッチ**《灌漑-肥沃化》  
状態：ペーターカムSP  
処置内容：マスターテープのメディア変換(QuickTime非圧縮10bit) インスタレーション修復
- ◎ **曾根裕**《アミューズメント・ロマーナ》、《ハロー・バット》  
状態：ペーターカムSP  
処置内容：マスターテープのメディア変換(QuickTime非圧縮10bit)
- ◎ **シスレイ・ジャファ**《ストック・エクステンション》  
状態：ペーターカムSP  
処置内容：マスターテープのメディア変換(QuickTime非圧縮10bit)
- ◎ **ジュン・グエン=ハツシバ**《ハッピー・ニュー・イヤー：メモリアル・プロジェクト ヴェトナムII》  
状態：ミニDV  
処置内容：マスターテープのメディア変換(QuickTimeDV50)

- ◎ **ローリー・シモンズ**《悔恨のミュージック》  
状態：HDカム、ベーターカムSP  
処置内容：マスターテープのメディア変換  
(QuickTime ProRes422、非圧縮10bit)
- ◎ **マグナス・ヴァリン**《Exit》、《リンボ》  
状態：ベーターカムSP、DVカム  
処置内容：マスターテープのメディア変換  
(QuickTime非圧縮10bit)
- ◎ **トーチカ**《PIKA PIKA in Kanazawa 2008》  
状態：HDカム  
処置内容：マスターテープのメディア変換  
(QuickTime ProRes422)
- ◎ **角永和夫**《Glass No.4 H》(展示用付属ビデオ)  
状態：VHS  
処置内容：マスターテープのメディア変換  
(QuickTime非圧縮10bit)
- ◎ **ヤノベケンジ**  
《タンキング・マシーン》(展示用付属ビデオ)  
状態：VHS  
処置内容：マスターテープのメディア変換  
(QuickTime非圧縮10bit)
- ◎ **ピーター・マクドナルド**  
《Tomo Café (習作)》(「金沢ドローイング」より)  
状態：マットの窓枠際に残った鉛筆の鉛粉による作品表面  
の汚損  
処置内容：作家による修復

(立松由美子/コンサベーター)

貸出

2010年度(6件36点)

作家名	作品名
第1回金沢・世界工芸トリエンナーレ	金沢・世界工芸フォーラム開催委員会 2010.5.8-6.20
大樋長左衛門(年朗)	大樋灰釉加彩鳥紋丸壺
寺井直次	蒔絵水辺文盤 四君子蒔絵食籠 鶴文蒔絵菓子鉢 蒔絵箱 水辺 孔雀蒔絵箱 菊蒔絵香合 千鳥蒔絵香合 双鶴蒔絵香合 湖畔蒔絵香合 富貴草蒔絵平棗 鶴蒔絵中棗 鷺蒔絵平棗 梅林蒔絵平棗 清香蒔絵平棗
三代徳田八十吉	耀彩鉢・凝 耀彩鉢・凝 深厚耀彩線文壺 深厚耀彩壺 深厚耀彩九稜壺 深厚耀彩扁壺 深厚耀彩花器・揺籃
特別陳列 徳田八十吉三代展	石川県立美術館 2010.7.22-9.7
三代徳田八十吉	深厚耀彩壺 耀彩鉢・華文
東京アートミーティング トランスフォーメーション	東京都現代美術館 2010.10.29-2011.1.30
イ・ブル	セイレーン サイボーグW8
現代日本の音楽家と出会う 第5回山下洋輔の音楽 「フリー・ジャズと記譜音楽の狭間で」	トーキョーワンダーサイト 2010.12.20
粟津潔	ピアノ炎上
小谷元彦展 幽体の知覚	森美術館:2010.11.27-2011.2.27 静岡県立美術館:2011.5.28-7.10 高松市美術館:2011.7.22-9.4 熊本現代美術館:2011.9.17-11.27
小谷元彦	ダブル・エッジド・オヴ・ソウト(ドレス2) フィンガーシュパンナー
追悼 人間国宝 三代徳田八十吉展 煌めく色彩の世界	そごう美術館:2011.1.2-2.13 兵庫陶芸美術館:2011.3.12-5.29 高松市美術館:2011.6.4-7.10 MOA美術館:2011.7.16-9.19 茨城県陶芸美術館:2011.9.23-11.27 小松市立博物館:2011.12.3-2012.1.29
三代徳田八十吉	深厚耀彩扁壺 深厚耀彩花器・揺籃 深厚耀彩壺 深厚耀彩壺 深厚耀彩形文壺 深厚耀彩線文壺 深厚耀彩曲文壺

2011年度(8件58点)

作家名	作品名
田中敦子ーアート・オブ・コネクティング	アイコンギャラリー(バーミンガム、英国):2011.7.27-9.11 カステジョン現代美術センター(ハレンシア州、スペイン): 2011.10.7-12.31 東京都現代美術館:2012.2.4-5.6
田中敦子	work 無題(「ベル」の習作) 「電気服」に基づく素描
八谷和彦展—OpenSky in KIRISHIMA—	鹿児島県霧島アートの森 2011.7.15-9.25
八谷和彦	M-02 OpenSky テストフライト OpenSky テストフライト OpenSky テストフライト OpenSky テストフライト OpenSky テストフライト M-02)シュミレーター
海みらいアートプロジェクト ピンクとエッロ	金沢海みらい図書館 2011.8.4-8.30
トニー・アウスラー	ピンク エッロ
金沢市営発電事業90周年記念特別展 金沢・石川の伝統工芸	金沢市立中村記念美術館 2011.9.4-10.10
大樋長左衛門(年朗)	大樋釉飾壺「双鳥」 大樋灰釉加彩鳥紋丸壺
北出不二雄	彩釉刺繍 鳥たち 青釉カトリア文壺
三代徳田八十吉	耀彩鉢・華文
中川衛	象嵌銀花器「朝風海」
前史雄	沈金箱「いざよい」
中野孝一	蒔絵箱「仲秋」
大場松魚	平文花星座箱
City Net Asia 2011	ソウル美術館 2011.9.16-11.6
ヤノベケンジ	ビバリバプロジェクト—スタンダー—
メタボリズムの未来都市 戦後日本・今甦る復興の夢とビジョン	森美術館 2011.9.17-2012.1.15
粟津潔	メタボリズム 催眠・心霊・タナトロジー:超心理の渾求 『近代建築』1961年3月号原画 (不詳) 近代建築;第14巻第12号[表紙のみ] 近代建築;第15巻第2号[表紙のみ] 近代建築;第15巻第4号[表紙のみ] 近代建築;第16巻第1号[表紙のみ] 近代建築;第16巻第2号[表紙のみ] 近代建築;第16巻第3号[表紙のみ] 近代建築;第16巻第5号[表紙のみ] 近代建築;第16巻第9号[表紙のみ] 近代建築;第16巻第10号[表紙のみ] 近代建築;第16巻第12号[表紙のみ] 近代建築;第17巻第10号[表紙のみ] 近代建築;第17巻第11号[表紙のみ] 文明の変身 METABOLISM / メタボリズム・美術出版社 Japan Art Festival / union carbide building / japan art festival association, inc. 日宣美展 1950+10\1960 / 日本橋高島屋 / 日本宣伝美術会 第1回日本建築祭 国際スポーツ施設展 / 国立屋内総合競技場 / 日本建築家協会 第4回東京国際版画ビエンナーレ / 東京国立近代美術館 / 東京国立近代美術館・読売新聞社

貸出

粟津潔	現代都市と建築／川添登 現代美術の動向／京都国立近代美術館
ゼロ年代のベルリン	東京都現代美術館 2011.9.23-2012.1.9
イザ・ゲンツケン	ベルリンのための新建築 1 ベルリンのための新建築 2 ベルリンのための新建築 3 ベルリンのための新建築 4 ベルリンのための新建築 5 ベルリンのための新建築 6 ベルリンのための新建築 7 ベルリンのための新建築 8
イ・ブル	森美術館 2012.2.4-5.27
イ・ブル	モンスターローイング 出現 リヴ・フォーエヴァーII 私の偉大な物語：理念の肖像 サイボーグVW8

2012年度(16件51点)

作家名	作品名
橋昇展 "PREHISTORIC_PH"	鹿児島県霧島アートの森 2012.7.13-9.23
橋昇	エステティック・ポリューション
Art and Air ～空と飛行機をめぐる、芸術と科学の物語	青森県立美術館 2012.7.21-9.17
八谷和彦	OpenSky テストフライト OpenSky テストフライト OpenSky テストフライト OpenSky テストフライト OpenSky テストフライト M-02
海みらいアートプロジェクト「秘密の話」	金沢海みらい図書館 2012.8.2-8.28
菱山裕子	秘密の話
現代の座標 工芸をめぐる11の思考	東京国立近代美術館 工芸館 2012.9.15-12.2
田中信行	触生の記憶
日本の70年代 1968-1982	埼玉県立近代美術館 2012.9.15-11.11
粟津潔	季刊藝術 秋 原子爆弾と二十六聖人 建築文化30巻341号1975年3月 因果説話 すてたろう(9点) なにかいってくれ いまさがす／*ex.posed68／ 草月会館ホール／草月アートセンター・デザイン批評(風土社) フィルム・アート・フェスティバル／1969東京／草月会館ホール／ フィルム・アート・フェスティバル運営委員会 黒川紀章の作品／美術出版社 黒川紀章の作品 ユートピアズ&ヴィジョンズ UTOPIA／後楽園アイスパレス／ 粟津潔・福島輝人・一柳慧・内田裕也・木村英輝・中谷英二子・ ミッキー・カーチス カルチェ巴羅古／PARCO 小杉武久 マノ・ダルマ・コンサート／梅若能楽堂／ 株式会社トータルメディア開発研究所 ピアノ炎上
開館25周年記念展 舟越桂 2012	メナード美術館 2012.9.15-11.25
舟越桂	支えられた記憶

青い森の ちいさなちいさな おうち	十和田市現代美術館 2012.9.22-2013.1.14
奈良美智	Lonely Moon/Voyage of the Moon
西山美なこ	ザ・ピンくはうす
美術にぶるっ!ベストセレクション 日本近代美術の100年 第二部"実験場 1950s"	東京国立近代美術館 2012.10.16-2013.1.14
粟津潔	海を返せ
特別陳列 生誕100年記念 寺井直次の漆の美	石川県立美術館 2012.10.25-11.28
寺井直次	時絵水辺文盤 鼻漆絵額 富貴草時絵平棗 金胎時絵水指 紫苑 四君子時絵食籠 鶴文時絵菓子鉢 孔雀時絵箱 清香時絵平棗 双鶴時絵香合 双鶴時絵万年筆
桑山忠明 HAYAMA	神奈川県立近代美術館 葉山 2012.11.3-2013.1.14
桑山忠明	Untitled : 金沢21世紀美術館のためのプロジェクト
Tokyo: 1955-1970: A New Avant-Garde	ニューヨーク近代美術館 2012.11.18-2013.2.25
粟津潔	映画タイトル・デザイン集(編集:粟津デザイン室)
黒田辰秋・田中信行-漆という力	豊田市美術館 2013.1.12-4.7
田中信行	触生の記憶 Inner side -Outer side
Gutai: Splendid Playground	グッゲンハイム美術館 2013.2.15-5.12
田中敦子	無題(「ベル」の習作) 無題(「ベル」の習作) 「電気服」に基づく素描 「電気服」に基づく素描
Re: Quest -1970年代以降の日本現代美術	ソウル大学美術館 2013.3.5-4.14
野口里佳	フジヤマ#12 フジヤマ#13 フジヤマ#14 フジヤマ#15
照屋勇賢	儲キティークーヨー、手紙ヤトカラ、銭カラドサチドー 2008
小谷元彦	フィンガー・ジュバンナー
Hundertwasser, Japan and the Avantgarde	ベルヴェデーレ美術館 2013.3.6-6.30
田中敦子	work
LOVE展: アートにみる愛のかたち -シャガールから草間彌生、初音ミクまで	森美術館 2013.4.26-9.1
ダミアン・ハースト	無題

(村田大輔/レジスター)

当館では、「研究資料収集方針」<sup>1)</sup>に基づき、所蔵作家・作品、現代美術研究に関する主要な資料をはじめ、美術館活動（調査研究、収集保存、企画展示、教育普及）を推進する上で必要な資料・情報の収集を行っている。対象となる情報・資料は、館外の文献資料だけでなく、日々の活動によって館内で生み出される様々な出来事の記録であり、美術館活動の総体的なアーカイブ化に取り組むことが、当館のアーカイブ事業の目指すところである。

当館のアーカイブ事業の特徴は、前号<sup>2)</sup>で述べたとおりだが、以下の3点にある。

- ・館内の現場で生まれる情報を集積することが主要業務となっている点
- ・対象とする現代美術の多様性に応じてメディア形態が多様である点
- ・著作者の大半が現存作家であり、扱う資料、データのほぼ全てについて慎重な著作権管理が求められる点

美術館はコレクションをはじめとする、美術作品や表現行為自体をめぐる調査研究活動が日々実践されている活きた現場であり、当館では、キュレーターをはじめ、各種の専門スタッフが、各現場で生まれる重要な現象を取材し、残すべきドキュメントを吟味・整理する。そのうえで、館として記憶し、記録すべきドキュメントが各部門から研究資料室に集積され、アーカイブ担当者によって保管管理されるという流れが定着しつつある。各専門スタッフとアーカイブ担当者との協働体制なくして継続不可能である。

アーカイブの形成や、ドキュメントの保管利用庫としての研究資料室は、得てして過去の美術館活動の記録化の機能と見られがちだが、同時に未来のコレクション、未来の企画展覧会に向けての準備を行うための機能を持つことが必須である。そのためにも、集積、蓄積された資料・情報のアクセスを保証すること、資料・情報自体の整理やデータベース化はもとより、変化の著しいメディア形式を追い続けること、適正な著作権管理の徹底と維持が必須である。そして、秘匿性を伴わない情報・資料は極力公開発信できるよう、活用につなげるための努力が当面の課題であり使命であると考えている。

## 美術関連資料・情報の収集について

当館は、金沢美術工芸大学の附属館として、NACSIS-CATに加盟しており、MARCを活用しながら図書登録を行っている。<sup>3)</sup>

### 資料収集（整理）冊数

		2010年度	2011年度	2012年度
図書	研究資料室	107	472	284
	アートライブラリー	155	170	189
雑誌	研究資料室	556	191	166
	アートライブラリー	501	609	550
計	研究資料室	663	663	450
	アートライブラリー	656	779	739

\*1 金沢21世紀美術館は、現代美術やその動向に関する情報を提供し、今を生きる人々の活動及び都市の活性化に寄与するため、国内外の美術関連資料・情報を収集する。また、調査研究機関としての美術館の研究活動を支援するため機能充実を図り、美術館活動を記録し、保存管理する。  
[http://www.kanazawa21.jp/data\\_list.php?g=10&d=1](http://www.kanazawa21.jp/data_list.php?g=10&d=1)  
(最終閲覧日：2015年1月28日)

\*2 『Я (アール) : 金沢21世紀美術館研究紀要』第5号、2013年、p.110

\*3 当館の蔵書については、金沢美術工芸大学付属図書館OPACにて検索可能。  
<http://lib.kanazawa-bidai.ac.jp/mylimedio/search/search-input.do?mode=comp> (最終閲覧日：2015年1月28日)

## 研究資料の特別寄贈について

2010年、松本高明氏より同氏がブックデザインした美術書53件の寄贈があり、研究資料として受け入れた。寄贈書籍は蔵書として登録され、OPAC<sup>4</sup>にて検索可能である。

## 松本高明氏 寄贈資料一覧

	書名	著者名	出版者	出版年
1	Uzura : 関口隆史写真集	関口隆史	リプロポート	1986
2	Sugimoto : 杉本博司写真集	杉本博司	リプロポート	1988
3	Time exposed	Hiroshi Sugimoto	Kyoto Shoin	1991
4	Rebecca Horn	essays by Germano Celant ... [et al.]/interviews by Germano Celant, Stuart Morgan/texts by Rebecca Horn	Guggenheim Museum : Distributed by Rizzoli	c1993
5	Roy Lichtenstein	Diane Waldman	Guggenheim Museum/H.N. Abrams [distributor]	1993
6	Felix Gonzalez-Torres	Nancy Spector	Guggenheim Museum	c1995
7	Georg Baselitz	Diane Waldman	Guggenheim Museum	c1995
8	Christian Dior	Richard Martin and Harold Koda/photographs by Karin L. Willis	Metropolitan Museum of Art/Distributed by H.N. Abrams	c1996
9	Ellsworth Kelly : a retrospective	edited by Diane Waldman	Guggenheim Museum	c1996
10	Gianni Versace	Richard Martin/photographs by Karin L. Willis	Metropolitan Museum of Art/Distributed by H.N. Abrams	[1997]
11	Making it real	introduction by Luc Sante/essay by guest curator Vik Muniz	Independent Curators Inc.	c1997
12	Sea of Buddha	Hiroshi Sugimoto	Sonnabend Sundell Editions	c1997
13	Daniel Brush, gold without boundaries	Daniel Brush ; writings by Ralph Esmerian ... [et al.] ; afterword by Elizabeth Broun and Jeremy Adamson ; photographs by John Bigelow Taylor	Harry N. Abrams,	1998
14	Painting, object, film, concept : works from the Herbig collection	with contributions by Scott Burton ... [et al.]	Christie's	1998
15	Clemente		Guggenheim Museum	c1999
16	Ellsworth Kelly : the early drawings, 1948-1955	Yve-Alain Bois	Harvard University Art Museums/ Kunstmuseum Winterthur	1999
17	Alex Katz : small paintings	essays by Adam D. Weinberg, Dana Self, Shamim M. Momin/ with an introduction by Eric De Chassey	Kemper Museum of Contemporary Art	c2000
18	Face to face : Shiseido and the manufacture of beauty 1900-2000	edited by Lynn Gumpert/with contributions by Amelia Arenas ... [et al.]	Grey Art Gallery, New York University	c2000
19	Giorgio Armani	[organized by Germano Celant and Harold Koda/with Susan Cross and Karole Vail/exhibition designed by Robert Wilson]	Guggenheim Museum/Distributed by H.N. Abrams/Distributed in German-speaking countries by Hatje Cantz	c2000
20	Sugimoto : portraits	[photographs by Hiroshi Sugimoto/organized by Tracey Bashkoff and Nancy Spector]	Guggenheim Museum	2000
21	Theaters	Hiroshi Sugimoto	Sonnabend Sundell Editions	c2000
22	Extreme beauty : the body transformed	Harold Koda	Metropolitan Museum of Art/Yale University Press	c2001
23	George Nakashima and the modernist moment	curated by Steven Beyer	James A. Michener Art Museum	c2001
24	Ellsworth Kelly : red green blue : paintings and studies, 1958-1965	preface by Hugh M. Davies/essays by Toby Kamps ... [et al.]	Museum of Contemporary Art San Diego	c2002
25	New material as new media : the Fabric Workshop and Museum	Marion Boulton Stroud/edited by Kelly Mitchell	MIT Press	2002
26	Goddess : the classical mode	Harold Koda	Metropolitan Museum of Art/Yale University Press	2003
27	Large scale prints	Richard Serra	Addison Gallery of American Art, Phillips Academy	c2003
28	Shocking! : the art and fashion of Elsa Schiaparelli	Dilys E. Blum	Philadelphia Museum of Art	c2003
29	Sugimoto : architecture	exhibition curator, Francesco Bonami/essays, Francesco Bonami, Marco de Michelis, John Yau	Museum of Contemporary Art, Chicago	c2003

松本高明氏 寄贈資料一覧[つづき]

	書名	著者名	出版者	出版年
30	Robert Mapplethorpe and the classical tradition : photographs and mannerist prints	Germano Celant and Arkady Ippolitov, with Karole Vail	Deutsche Guggenheim/Guggenheim Museum	c2004
31	Wild : fashion untamed	Andrew Bolton, with contributions by Shannon Bell-Price and Elyssa Da Cruz	Yale University Press/The Metropolitan Museum of Art	2004
32	Chanel	Harold Koda and Andrew Bolton/with contributions by Rhonda Garelick ... [et al.]	Metropolitan Museum of Art/Yale University Press	c2005
33	Crossing boundaries : the ceramic sculpture of Mineo Mizuno		Long Beach Museum of Art	c2005
34	Hiroshi Sugimoto	Kerry Brougner and David Elliott	Hatje Cantz	2005
35	Jed Johnson : opulent restraint interiors	edited by Temo Callahan and Tom Cashin	Rizzoli	2005
36	AngloMania : tradition and transgression in British fashion	Andrew Bolton/with an introduction by Ian Buruma	Metropolitan Museum of Art/Yale University Press	c2006
37	Dangerous liaisons : fashion and furniture in the eighteenth century	Harold Koda and Andrew Bolton/with an introduction by Mimi Hellman	Metropolitan Museum of Art/Yale University Press	c2006
38	Jennifer Bartlett : early plate work	Brenda Richardson/with an introduction by Allison N. Kemmerer	Addison Gallery of American Art, Phillips Academy/Distributed by Yale University Press	c2006
39	Joe	photographs by Hiroshi Sugimoto/text by Jonathan Safran Foer/Designed by Takaaki Matsumoto	Pulitzer Foundation for the Arts/Distributed by Pestel	c2006
40	Poiret	Harold Koda and Andrew Bolton/with an introduction by Nancy J. Troy/and contributions by Mary E. Davis ... [et al.]	Metropolitan Museum of Art/Yale University Press	2007
41	The furniture of Poul Kjærholm : catalogue raisonne	Michael Sheridan/photography by Keld Helmer-Petersen/design by Takaaki Matsumoto/edited by Amy Wilkins	G.R. Miller in association with R Gallery and Sean Kelly Gallery	2007
42	Anish Kapoor : Memory		Deutsche Guggenheim	c2008
43	Color chart : reinventing color, 1950 to today	Ann Temkin	Museum of Modern Art	c2008
44	Ed Ruscha : industrial strength	curated by Paul Schimmel/essay by Thomas Crow/catalogue designed by Takaaki Matsumoto	Fabric Workshop and Museum	c2008
45	Three stories	Marcia Tucker/edited by Marion Boulton Stroud/Designed by Takaaki Matsumoto	Acadia Summer Arts Program	c2008
46	True north	Jennifer Blessing	Guggenheim Museum	c2008
47	William Wegman : dogs on rocks	edited by Marion Boulton Stroud/Designed by Takaaki Matsumoto	Acadia Summer Arts Program	c2008
48	Existed : Leonardo Drew	Claudia Schmuckli	Giles	2009
49	Luc Tuymans	edited by Madeleine Grynsztejn and Helen Molesworth/essays by Helen Molesworth ... [et al.]	San Francisco Museum of Modern Art/Wexner Center for the Arts	c2009
50	The model as muse : embodying fashion	Harold Koda and Kohle Yohannan	Metropolitan Museum of Art/Yale University Press	2009
51	The Pictures Generation, 1974-1984	Douglas Eklund	Metropolitan Museum of Art/Yale University Press	c2009
52	Design : Takaaki Matsumoto	introduction by Harold Koda/written by Amy Wilkins	Acadia Summer Arts Program	c2010
53	Robert Venturi, Denise Scott Brown and Steven Izenour at Acadia Summer Arts Program	Marion Boulton Stroud/essay by Kathryn Bloom Hiesinger/Designed by Takaaki Matsumoto	Acadia Summer Arts Program/available through D.A.P./Distributed Art Publishers	c2010



## 画像資料について

収蔵作品写真、展覧会展示風景写真、展覧会関連プログラム記録写真および映像、その他、調査研究画像を整理、保存、活用している。収蔵作品写真は、4×5カラーポジフィルムでの撮影を継続しつつ、デジタル撮影も導入している。また、撮影と並行して、写真家の監修のもとポジフィルムの高精細デジタル化を推進している。

展覧会関連プログラム記録は、美術館スタッフによる撮影が主となるが、そのなかでも、ワーク・イン・プログレスの長期プロジェクト「金沢若者夢チャレンジ・アートプログラム」\*においては、調査研究、企画展示、教育普及にまたがる各種の活動記録が作成され、写真、映像ともに膨大な点数、時間のドキュメントが、アーカイヴされた。「Aloha Amigo! フェデリコ・エロロ×関口和之」展(2012.5.3-2013.3.17)において、毎日展示室内で開催された「ウクレレフリーステージ!—誰でもウクレリアン—」では、毎回のウクレレ体験の記録動画をYouTubeにアップロードし、配信するという取り組みもプロジェクトの一環として行われ、配信された動画コンテンツは計97本に及んだ。<sup>4</sup> 日々のワークショップの取材、配信は展覧会担当キュレーターが行い、著作権処理についてはアーカイヴィストが行った。

2010-2012年度は、美術館活動をドキュメントとして残し、アーカイヴを構築することだけでなく、それらを公開と活用につなげていくことの、各専門スタッフとアーカイヴ担当との協働体制も生まれた。

### 2010-2012年度 収蔵作品の撮影 およびデジタル化点数内訳

<撮影> 収蔵作品	2010年度	2011年度	2012年度
ポジフィルム	93	60	110
デジタル	6	0	191
計	99	60	301

<デジタル化> 収蔵作品	2010年度	2011年度	2012年度
収蔵作品	—	130	119
展覧会展示風景	—	11	6
計	—	141	125

(石黒礼子/アーカイヴィスト)

\*4「ウクレレフリーステージ!—誰でもウクレリアン—」プロジェクト YouTubeチャンネル  
<https://www.youtube.com/user/alohaamigo2012>  
 (最終閲覧日:2015年1月28日)

資料  
Appendix

# 展覧会データ

## 2010-2012年度

### 特別展／コレクション展

Alternative Humanities ～新たなる精神のかたち：ヤン・ファープル×舟越桂

2010年4月29日[木]-2010年8月31日[火]

会場：展示室1-14、光庭、通路

観覧料：一般=1,500円／大学生・65歳以上=1,200円／

小中高校生=600円

入場者数：147,890人

主催：金沢21世紀美術館〔(財)金沢芸術創造財団〕

後援：フランス大使館、ベルギー大使館、

ベルギーフランドル交流センター、北國新聞社

協力：日本航空、日本通運、エルメス、

アイ・オー・データ機器、

坪田電機株式会社

ゲストキュレーター：

マリー＝ロール・ベルナダック（ルーブル美術館学芸員）

企画アドバイザー：

高階秀爾（美術史学者、大原美術館館長）、

古田亮（美術史学者、東京藝術大学大学美術館准教授）

プロジェクト・コーディネーター：

バルバラ・デ・コーニンク（アンゲロス）

出品作家：

ヤン・ファープル、舟越桂

カタログ：

『ヤン・ファープル×舟越桂 Alternative Humanities』

淡交社、2010年

24.6 x 19.5cm、168p. 2,476円+税

ISBN：978-4-473-03660-5

記録集・日本語版：

『ヤン・ファープル×舟越桂：Alternative Humanities

～新たなる精神のかたち：Exhibition Documents』

金沢21世紀美術館、2010年

24 x 19cm、68p. 1,500円\*

ISBN：978-4-903205-25-0

記録集・英語版：

『ヤン・ファープル×舟越桂：Alternative Humanities

～新たなる精神のかたち：Exhibition Texts』

金沢21世紀美術館、2010年

24 x 19cm、56p. 1,500円\*

ISBN 978-4-903205-26-7

\*日本語版・英語版の2冊組

巡回なし

キュレーション：不動美里、村田大輔

エキシビション・コーディネーション：北出智恵子

コンサベーション：立松由美子

展示設営：児玉賢三

アーカイブ：石黒礼子

広報：落合博晃

関連企画

◎ラウンド・テーブル「現代と人間像」：ヤン・ファープル、

舟越桂、マリー＝ロール・ベルナダック、高階秀爾

（2010年4月29日、シアター 21）

◎記念講演会：古田亮「近現代の観音イメージ」

（2010年6月27日、レクチャーホール）

◎ギャラリー・トーク：古田亮「狩野芳崖と悲母観音」

（2010年8月3日、レクチャーホール）

◎「変身バッジを作ろう！」

（2010年8月19日、キッズスタジオ）

◎朗読のひととき@展覧会ゾーン

（2010年7月3日、24日、8月20日）

◎絵本を読もう（2010年7月24日、8月20日）

◎夕暮れおしゃべりツアー（2010年6月25日）

八谷和彦 《OpenSky》プロジェクト

2010年4月29日[木]-2010年8月31日[火]  
会場：展示室13

観覧料：無料  
入場者数：記録なし

主催：金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]

出品作家：八谷和彦

カタログなし

巡回なし

キュレーション：黒澤浩美

関連企画

- ◎「絵本を読もう」  
(2010年5月23日、6月26日、授乳室前、展覧会場)
- ◎「ジャンプマスターの空のお話」  
(2010年5月29日、展示室13、広場)
- 出演：千田一博、八谷和彦
- ◎まるびい飛行クラブ「描こう!写そう!空の絵日記」  
(2010年6月20日、6月27日、7月17日-19日、8月13日-15日、キッズスタジオ)
- ◎まるびい飛行クラブ「ふわふわ飛行機を飛ばそう」  
(2010年7月25日、キッズスタジオ)
- ◎まるびい飛行クラブ「飛ぶふしぎ」  
大人向けプログラム～マグナス効果って何?  
(2010年8月6日、キッズスタジオ)
- ◎まるびい飛行クラブ「飛ぶふしぎ」  
子ども向けプログラム～こんな形が飛ぶの?+プロペラの力!  
(2010年8月7日、キッズスタジオ)
- ◎まるびい飛行クラブ「作って飛ばそう!羽ばたき飛行機」  
(2010年8月8日、キッズスタジオ)

ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス

2010年9月18日[土]-2010年12月25日[土]  
会場：展示室7-12、展示室14、光庭2、通路、無料ゾーン

観覧料：一般=1,000円/大学生・65歳以上=800円/  
小中高校生=400円  
入場者数：70,505人

主催：金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]  
共催：読売新聞東京本社北陸支社、美術館連絡協議会  
後援：スイス大使館

助成：スイス・プロ・ヘルヴェティア文化財団  
協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷  
協力：ルフトハンザ カーゴ AG、カトーレック株式会社、NEC  
ディスプレイソリューションズ、Ufer! Art Documentary

出品作家：ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス

カタログ：『ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス』  
フォイル、2011年  
214p. 2,400円+税  
ISBN：978-4-902943-61-0

巡回なし

キュレーション：北出智恵子  
制作：米田晴子  
展示設営：児玉賢三  
アーカイヴ：石黒礼子  
教育普及：鍛冶裕子、吉備久美子  
広報：落合博晃、黒田裕子、沢井美里

関連企画

- ◎ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス  
「アーティストに質問する」：  
ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス  
(2010年9月18日、レクチャーホール)
- ◎学芸員によるギャラリー・トーク  
(2010年10月22日、11月27日、12月23日、  
レクチャーホール、展覧会場)
- ◎近隣商店街の方向け、学芸員ギャラリー・ツアー  
(2010年10月23日、10月27日、展覧会場)
- ◎夕暮れおしゃべりツアー：  
北出智恵子(トーク・ツアー)、鍛冶裕子(読み聞かせ)  
(2010年10月29日、レクチャーホール、展覧会場)
- ◎絵本を読もう(2010年11月3日、12月4日、展示室11)
- ◎ギャラリーツアー&スペシャルランチ  
(2010年12月19日、展覧会場、Fusion21)

ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー

2011年1月8日[土]-2011年3月21日[月]  
会場：展示室7-9、展示室14

観覧料：一般=1,000円/大学生・65歳以上=800円/  
小中高校生=400円  
※「桑山忠明展 / Untitled: Tadaaki Kuwayama」との  
共通観覧券  
入場者数：39,809人  
※「桑山忠明展 / Untitled: Tadaaki Kuwayama」と共通

主催：金沢21世紀美術館 [(財)金沢芸術創造財団]、  
朝日新聞社  
協賛：株式会社 大伸社、妹島和世+西沢立衛 / SANAA  
協力：エプソン販売株式会社、ギャラリー 360°  
[社]企業メセナ協議会認定事業

出品作家：ホンマタカシ

カタログ：『ホンマタカシ：ニュー・ドキュメンタリー』  
朝日新聞社、2011年  
28 x 21.6cm、223p. 2,381円+税  
ISBN：978-4-900050-56-3

巡回展：

2011年4月9日-6月26日、東京オペラシティアートギャラリー  
2012年7月15日-9月23日、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

展覧会企画・構成：黒澤浩美、朝日新聞社

関連企画

- ◎オープニング・トーク：  
ホンマタカシ×榎木野衣(2011年1月8日、レクチャーホール)
- ◎ライブ「写真家と音楽家。写真と音楽。」  
(2011年2月11日、シアター21)
- 出演：阿部海太郎、吉田千佳子
- ◎ワークショップ：ホンマタカシ  
「ホンマタカシのたのしい写真」  
(2011年2月12日、2月25日、3月19日、  
レクチャーホール、会議室1)
- ◎学芸員によるギャラリー・トーク  
(2011年3月5日、展覧会場)

桑山忠明展／Untitled: Tadaaki Kuwayama

2011年1月8日[土]-2011年3月21日[月]  
会場：展示室10-12、光庭

観覧料：一般=1,000円／大学生・65歳以上=800円／  
小中高校生=400円  
※「ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー」との共通観覧券  
入場者数：39,809人  
※「ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー」と共通

主催：金沢21世紀美術館〔(財)金沢芸術創造財団〕  
協力：ギャラリーヤマグチ、(株)日本電気化学工業所、  
(株)国誉アルミ製作所

出品作家：桑山忠明

カタログ：『Untitled: Tadaaki Kuwayama』  
金沢21世紀美術館、2011年  
21 x 21cm、40p、1,239円+税  
ISBN：978-4-903205-28-1

巡回なし

キュレーション：平林恵  
展示設営：児玉賢三  
アーカイヴ：石黒礼子  
広報：落合博晃、沢井美里

関連企画

- ◎アーティスト・トーク：桑山忠明  
(2011年1月8日、レクチャーホール)
- ◎講演会：市川政憲「桑山忠明のめざす『空間』について」  
(2011年3月12日、レクチャーホール)
- ◎学芸員によるギャラリートーク  
(2011年1月15日、2月11日、3月4日、展覧会場)
- ◎夕暮れおしゃべりツアー (2011年3月5日、展覧会場)

コレクション展  
「目には見えない確かなこと」

2010年9月11日[土]-2011年4月10日[日]  
会場：展示室1-6、13

観覧料：一般=350円／大学生・65歳以上=280円／  
小中高生=無料  
入場者数：74,202人

主催：金沢21世紀美術館〔(財)金沢芸術創造財団〕  
協力：株式会社 細川造園

出品作家：  
八田豊、アニッシュ・カプア、ヴィック・ムニーズ、大場松魚、  
丸山直文、ジェームズ・タレル、椿昇、曾根裕、モナ・ハトゥム、  
菱山裕子

カタログなし

巡回なし

キュレーション：黒澤浩美

関連企画

- ◎アーティスト・トーク：椿昇  
(2010年9月11日、展示室13)
- ◎絵本を読もう  
(2010年9月26日、10月16日、12月11日、2011年1月29日、  
2月27日、4月2日、授乳室前、展覧会場)
- ◎学芸員によるギャラリートーク  
(2010年10月16日、11月13日、12月11日、2011年1月29日、  
2月27日、4月2日、展覧会場)
- ◎子ども向けワークショップ：  
菱山裕子「てくてくお散歩『秘密の話』を見つけよう!」  
(2010年11月6日、キッズスタジオ)
- ◎大人向けワークショップ：  
菱山裕子「夕暮れの街角で『秘密の話』を見つけた。」  
(2010年11月6日、キッズスタジオ)
- ◎キッズスタジオプログラム  
ワークショップ「『秘密の話』を描こう」  
(2011年2月20日、キッズスタジオ)
- ◎イブニング・ワークショップ「目に見えるのは確かなこと?」  
(2011年3月15日、キッズスタジオ)

イエッペ・ハイン 360°

2011年4月29日[金]-2011年8月31日[水]  
会場：展示室1-6、14

観覧料：一般=1,000円／大学生・65歳以上=800円／  
小中高生=400円  
入場者数：138,704人

主催：金沢21世紀美術館〔(公財)金沢芸術創造財団〕  
後援：デンマーク王国大使館、北國新聞社

出品作家：イエッペ・ハイン

カタログ：『イエッペ・ハイン 360°』  
金沢21世紀美術館、2011年  
20 x 20cm、120p、2,477円(+税)  
ISBN：978-4-903205-29-8

巡回なし

キュレーション：鷲田めるろ、米田晴子  
展示設営：児玉賢三  
アーカイヴ：石黒礼子  
教育普及：木村健、鍛冶裕子  
広報：落合博晃、黒田裕子、沢井美里

関連企画：

- ◎担当キュレーターによる作品解説  
(2011年7月16日、レクチャーホール)
- ◎絵本を読もう  
(2011年6月18日、7月9日、授乳室前、展示室)
- ◎キュレーターによるギャラリートーク  
(2011年4月30日、7月2日、7月22日、8月20日)
- ◎子どもギャラリートーク「鏡の迷宮を探検しよう」  
(2011年8月18日、8月25日)

## サイレント・エコー コレクション展I

2011年4月29日[金]–2011年7月18日[月]  
会場：展示室1-6、通路

観覧料：一般=350円／大学生・65歳以上=280円／  
小中高生=無料  
入場者数：83,094人

主催：金沢21世紀美術館〔(公財)金沢芸術創造財団〕

出品作家：

マシュー・バーニー、藤井一範、アニッシュ・カプーア、  
ヴィック・ムニエズ、中川幸夫、ジュゼッペ・ペノーネ、  
マーティン・スマイス、杉本博司、田中信行、ツェ・スーメイ、  
アン・ウィルソン

カタログなし

巡回なし

キュレーション：村田大輔

展示設営：児玉賢三

教育普及：木村健、吉備久美子、鍛冶裕子

関連企画

◎絵本を読もう(2011年5月15日、5月28日)

◎ワークショップ「つたわる・ひろがる」を描こう

(2011年6月11日、キッズスタジオ)

◎朗読のひととき(2011年6月25日)

◎子どもギャラリートゥアー「ひびきを感じよう 伝えよう」

(2011年7月10日、キッズスタジオ)

◎講演会：亀田和子

「デジタル画像で可視化する日本近世絵画の

『サイレント・エコー』」

(2011年7月17日、レクチャーホール)

◎学芸員によるギャラリートーク

(2011年5月15日、6月11日、7月9日)

## Inner Voices—内なる声

2011年7月30日[土]–2011年11月6日[日]  
会場：展示室7-12、14

観覧料：一般=1,000円／大学生・65歳以上=800円／  
小中高生=400円  
入場者数：96,251人

主催：金沢21世紀美術館〔(公財)金沢芸術創造財団〕

協賛：株式会社 資生堂、アーツ・クイーンズランド

協力：株式会社 プロジェクトケー

金沢エクセルホテル東急、a.k.a.

出品作家：

イー・イラン、塩田千春、ジェマイマ・ワイマン、呉夏枝、  
キム・ソラ、藤原由葵、シルバ・グプタ、ワー・ヌ、メリッサ・ラモス

カタログ：『Inner Voices—内なる声』

ACCESS, 2011年

19.4 x 15.2cm、199p. 2000円+税

ISBN：978-4-905448-01-3

巡回なし

キュレーション：黒澤浩美

レジストレーション：村田大輔

展示設営：児玉賢三

関連企画

◎連続アーティスト・トーク「私を探す」

(2011年7月30日、レクチャーホール)

出演：塩田千春、ワー・ヌ、キム・ソラ、ジェマイマ・ワイマン、

メリッサ・ラモス、イー・イラン、呉夏枝

◎「ギャラリートゥアー withキュレーター」

(2011年8月5日、9月3日、9月16日、10月1日、11月5日、

展示会場)

◎対談：藤原由葵、山下裕二

(2011年10月8日、レクチャーホール)

◎ワークショップ：呉夏枝「身体を使って織る」

(2011年10月15日、キッズスタジオ)

◎絵本を読もう

(2011年8月27日、9月3日、10月7日、授乳室、展示会場)

◎キム・ソラ「『Time Eat Time』を食す会」

(2011年11月5日、a.k.a.

(金沢市片町2-1042 RENNビル1F)

## 押忍!手芸部 と 豊嶋秀樹

『自画大絶賛(仮)』

2011年11月23日[水]–2012年3月20日[火]  
会場：展示室7-10、光庭

観覧料：一般=1,000円／大学生・65歳以上=800円／  
小中高生=400円

※「モニック・フリードマン展」との共通観覧券

入場者数：63,245人

※「モニック・フリードマン展」と共通

主催：金沢21世紀美術館〔(公財)金沢芸術創造財団〕

協力：有限会社ウルトラタマ、gm projects

出品作家：石澤彰一(押忍!手芸部 部長)、豊嶋秀樹

出品協力(押忍!手芸部 部員)：

川村寛蔵、重延直人、島田正、長嶋智之、古川誠二、  
吉田正康、渡邊裕二、宮田麻貴子、有村渚、大田垣晴子、  
小倉若葉、川村尚子、佐藤隆俊、大道公二、土肥直徒、  
成川秀一、原岡るりこ、三橋美保子、盛田匠子

カタログ：『押忍!手芸大図鑑』

青幻舎、2012年

21 x 13.5cm、128p. 1,800円+税

ISBN：978-4-86152-338-0

巡回なし

キュレーション：平林恵

展示設営：児玉賢三

設営：小西康正(gm projects)

設営協力：ザ自画大絶賛ズ

アーカイヴ：石黒礼子

ライブラリアン：鍛冶裕子

制作スタッフ：割出祐子、齋藤雅宏

広報：黒田裕子、沢井美里

## モニーク・フリードマン

### 関連企画

- ◎豊嶋秀樹によるギャラリートツアー  
(2011年11月23日、レクチャーホール、展覧会場)
- ◎「押忍!手芸部」部長によるエレキシン・ライブ  
(2011年11月23日、展示室7)
- ◎ワークショップ:「部活:3日間連続ワークショップ」  
シーズン1『て・ぶく郎』『タベル』『巻きぐるみ』  
(2011年12月16日-18日、展示室10)
- ◎ワークショップ:「部活:3日間連続ワークショップ」  
シーズン2『ウッキーマース』『大将』『なにわのリリヤん』  
(2011年12月23日-25日、展示室10)
- ◎ワークショップ:「部活:3日間連続ワークショップ」  
シーズン3『クライマー』『アルク』  
『自画大絶賛(最新……)』になって』  
(2012年3月16日-18日、展示室10)
- ◎ワークショップ:「部活:ロボぐるみ」  
(2012年2月19日、展示室10、交流ゾーン)
- ◎アーティスト・トーク、ワークショップ:  
「豊嶋秀樹の集中講義(カリー)」  
(2012年2月25日、26日、会議室1、プロジェクト工房)
- ◎「絵本を読もう+部活」(2012年3月10日、光庭、展示室8)
- ◎ワークショップ:「部活」(2012年3月11日、展示室10)
- ◎押忍!手芸部「茶会」(2012年3月18日、茶室「松涛庵」)
- ◎クロージング・イベント「押忍!手芸部と豊嶋秀樹」  
(2012年3月20日、レクチャーホール)
- ◎パフォーマンス:《風船のフーテンのふうさん》展示  
(会期中随時、光庭)
- ◎学芸員によるギャラリートーク(2012年1月7日、2月18日)
- ◎夕暮れおしゃべりツアー  
(2012年3月9日、レクチャーホール、展覧会場)

2011年11月23日[水]-2012年3月20日[火]  
会場:展示室11、12、14、光庭

観覧料:一般=1,000円/大学生・65歳以上=800円/  
小中高生=400円  
※「押忍!手芸部」と豊嶋秀樹『自画大絶賛(仮)』との  
共通観覧券  
入場者数:63,245人  
※「押忍!手芸部」と豊嶋秀樹『自画大絶賛(仮)』と共通

主催:金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]  
共催:読売新聞社、美術館連絡協議会  
助成:INSTITUT FRANÇAIS  
協賛:フランス大使館、ライオン、清水建設、大日本印刷、  
損保ジャパン  
協力:JCDecaux、GLACE CONTROLE、ボージェナ・ギャルリ  
コーディネーター:ボージェナ・ジドロル

出品作家:モニーク・フリードマン

カタログ:『モニーク・フリードマン』赤々舎、2012年  
20 x 20cm、96p. 2,381円+税  
ISBN:978-4-903545-78-3

巡回なし

キュレーション:吉岡恵美子  
展示設営:児玉賢三  
コンサベーション:  
山嶺まり、川村朋子(山嶺絵画修復工房)、立松由美子  
ライブラリアン:鍛冶裕子  
アーカイヴ:石黒礼子  
広報:黒田裕子、沢井美里  
制作アシスタント:エマ・ヌスバウム、割出祐子、川岸真由子

### 関連企画:

- ◎オープン記念 アーティスト・トーク  
(2011年11月23日、レクチャーホール)
- ◎詩の朗読(2012年2月18日、展示室11前)
- ◎宮沢賢治『雪渡り』の朗読 読み手:細川律子  
(2012年2月26日、展示室11前)
- ◎絵本を読もう(2011年12月17日、2012年1月7日、3月3日)
- ◎キュレーターによるギャラリートツアー  
(2011年12月17日、2012年1月7日、2月18日、3月3日)

## サイレント・エコー コレクション展II

2011年9月17日[土]-2012年4月8日[日]  
会場:展示室7-12、通路

観覧料:一般=350円/大学生・65歳以上=280円/  
小中高生=無料  
入場者数:75,445人

主催:金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]  
協力:JAにいがた岩船、朝日村まゆの花の会、  
金沢市立小立野小学校

出品作家:  
粟津潔、角永和夫、アニッシュ・カプーア、久世建二、  
ツェ・スーメイ、山崎つる子

カタログなし

巡回なし

キュレーション:村田大輔  
展示設営:児玉賢三  
教育普及:木村健、吉備久美子、鍛冶裕子

### 関連企画:

- ◎学芸員レクチャー「山崎つる子の“連鎖する旋律”から  
“ライヴ・ペインティング”まで」  
(2011年10月22日、レクチャーホール)
- ◎ギャラリートーク(2011年10月14日、11月3日、12月10日、  
2012年2月11日、3月10日)
- ◎絵本を読もう(2012年2月11日、2012年4月7日)
- ◎ワークショップ「いろいろカラー Work ~色を泳ごう」  
(2012年3月31日、キッズスタジオ)
- ◎展覧会クロージングイベント  
朗読のひとつ(2012年4月8日)  
朗読:サラ・フォーブス、村田大輔

## 工芸未来派

2012年4月28日[土]-2012年8月31日[金]

会場：展示室1-6、通路

観覧料：一般=1,000円/大学生・65歳以上=800円/  
小中高生=400円  
入場者数：114,222人

主催：金沢21世紀美術館〔公財〕金沢芸術創造財団]

後援：NHK金沢放送局、北國新聞社

協力：EPA

出品作家：

青木克世、猪倉高志、「雲龍庵」北村辰夫、大樋年雄、  
桑田卓郎、竹村友里、中村康平、中村信喬、野口春美、  
葉山有樹、見附正康、山村慎哉

カタログ：『工芸未来派』梧桐書院、2012年

25 x 21cm、136p、2,500円+税

ISBN：978-4-340-02718-7

巡回なし

キュレーション：秋元雄史

コーディネーション：米田晴子

コンサベーション：立松由美子

展示設営：児玉賢三

アーカイヴ：石黒礼子

展覧会アシスタント：小寺香織、加世多美怜

広報：落合博晃、沢井美里

関連企画

◎連続アーティスト・トーク：

秋元雄史、青木克世、猪倉高志、中村信喬、葉山有樹、  
大樋年雄、野口晴美、見附正康、竹村友里、桑田卓郎、  
中村康平、山村慎哉  
(2012年4月28日、29日、レクチャーホール)

◎キュレーターによるレクチャー：

秋元雄史「工芸未来派を語る」

(2012年5月19日、レクチャーホール)

◎アーティスト・トーク：「雲龍庵」北村辰夫

(2012年6月10日、レクチャーホール)

## コレクション展

### ソリエリュミエール—物質・移動・時間

2012年4月28日[土]-2012年11月4日[日]

会場：展示室7-12、展示室14、光庭2、光庭3、通路、  
長期インスタレーションルーム(8月31日まで)

観覧料：一般=350円/大学生・65歳以上=280円/  
小中高生=無料  
入場者数：261,515人

主催：金沢21世紀美術館〔公財〕金沢芸術創造財団]

出品作家：

秋山陽、粟津潔、ヤン・ファーブル、ベーター・フィッシュリ、  
ダヴィッド・ヴァイス、木村太陽、岸本清子、草間彌生、  
ゴードン・マッタ=クラーク、カールステン・ニコライ、  
ゲルハルト・リヒター、サイトウ・マコト、田嶋悦子、  
マグナス・ヴァリン、アンディ・ウォーホル、パトリック・ブラン、  
日比野克彦

カタログ：

『ソリエリュミエール：物質・移動・時間、そして観智』

フォイル、2013年

159p、2,800円+税

ISBN：978-4-902943-79-5

巡回なし

キュレーション：北出智恵子

展示設営：児玉賢三

コンサベーション：立松由美子

アーカイヴ：石黒礼子

ライブラリアン：鍛冶裕子

広報：沢井美里、落合博晃、酒井利佳(友の会)

関連企画

◎絵本を読もう

(2012年7月14日、7月22日、展覧会場)

◎夕暮れおしゃべりツアー

(2012年10月5日、レクチャーホール、展覧会場)



2012年9月15日[土]–2013年3月17日[日]

会場：展示室1–6\*、12、光庭3、休憩コーナー4、通路、  
長期インсталレーションルーム

\*展示室6は11月4日まで

観覧料：一般=1,000円／大学生・65歳以上=800円／  
小中高生=400円

入場者数：119,467人

主催：金沢21世紀美術館 [(公財) 金沢芸術創造財団]

後援：スイス大使館

出品作家：

Chim ↑ Pom、フランススコ・デ・ゴヤ、木村太陽、鈴木ヒラク、  
ペーター・フィッシュリ、ダヴィッド・ヴィイス、  
ジェイク&ディノス・チャップマン、奈良美智、  
ラファエル・ロサノ=ヘメル、梅田哲也、村上隆、草間彌生、  
ピピロッチェ・リスト、パトリック・ブラン、日比野克彦

カタログ：

『ソンエリュミエール：物質・移動・時間、そして叡智』

フォイル、2013年

159p、2,800円+税

ISBN：978-4-902943-79-5

巡回なし

キュレーション：北出智恵子

展示設営：児玉賢三

コンサベーション：立松由美子

アーカイヴ：石黒礼子

ライブラリアン：鍛冶裕子

広報：沢井美里、落合博晃、酒井利佳(友の会)

関連企画

◎アーティスト・トーク：

サイトウ・マコト、木村太陽、Chim ↑ Pom、田嶋悦子、  
秋山陽

コメンテーター：松村忠記

(大湊神社宮司、元福井市美術館館長、出品作品所蔵者)  
(2012年9月15日、レクチャーホール)

◎梅田哲也パフォーマンス(2012年9月15日、展示室6)

◎「サンセット～サンライズ・アーク」

光庭プロジェクト 特別講演会：

パトリック・ブラン、日比野克彦

(2012年9月30日、レクチャーホール)

◎絵本を読もう

(2012年10月28日、2013年2月9日、展覧会場)

◎夕暮れおしゃべりツアー

(2012年12月1日、レクチャーホール、展覧会場)

◎「サンセット～サンライズ・アーク：NEWS PAPER TIMES」

NEWS PAPER 製紙公開制作：日比野克彦

(2013年1月4日–6日、光庭3)

◎ライヴ・ドローイング：

鈴木ヒラク、植野隆司(テニスコート)

(2013年1月26日、展覧会場)

◎アーティスト・トーク：

奈良美智(2013年2月17日、シアター 21)

◎特別上映会 ピピロッチェ・リスト監督

映画《ペパーミンタ》

(2013年3月16日、17日、シアター 21)

2012年11月23日[金]–2013年3月17日[日]

会場：展示室6–11

観覧料：一般=1,000円／大学生・65歳以上=800円／  
小中高生=400円

入場者数：58,793人

主催：金沢21世紀美術館 [(公財) 金沢芸術創造財団]

助成：芸術文化振興基金

協賛：株式会社大韓航空、大和ハウス工業株式会社

NECディスプレイソリューションズ

協力：LEHMANN MAUPIN、眞露株式会社

出品作家：ス・ドホ

カタログ：『ス・ドホ：パーフェクト・ホーム』

金沢21世紀美術館、2013年

31.2 x 24.6cm、182p、4,800円+税

ISBN：978-4-903205-40-3

巡回なし

キュレーション：黒澤浩美

展示設営：児玉賢三

コンサベーション：立松由美子

関連企画

◎キュレーターによるギャラリー・ツアー

(2012年12月1日、2013年3月9日、展覧会場)

◎絵本を読もう(2012年12月1日、2013年2月24日、  
3月9日、授乳室、展覧会場)

◎レクチャー 1：朝倉敏夫「韓国の生活文化と色」

(2013年2月3日、レクチャーホール)

◎アーティスト・トーク：ス・ドホ

(2013年2月8日、レクチャーホール)

◎レクチャー 2：

中谷礼仁「家のかたちのもつ意味

—今和次郎『日本の民家』再訪を終えて」

(2013年2月10日、レクチャーホール)

◎ワークショップ「マイ・パーフェクト・ホーム」

(2013年3月2日、キッズスタジオ)

高嶺 格：

Good House, Nice Body ～いい家・よい体

2010年4月29日[木]～2011年3月21日[月]

会場：長期インスタレーションルーム、プロジェクト工房  
(※プロジェクト工房は、2010年8月28日～2011年3月21日まで)

観覧料：無料

主催：金沢21世紀美術館 [(公財)金沢芸術創造財団]

助成：芸術文化振興基金

協力：橋本建築造園設計、クリーンリサイクル株式会社、

IAMAS (情報科学芸術大学院大学)、

高知工科大学 渡辺菊真研究室、ミツカワ株式会社

出品作家：高嶺 格

関連企画：

◎松本祐一「アンケート・アート」

(2010年7月31日、プロジェクト工房)

◎アーティストトーク：高嶺格

(2010年8月28日、レクチャーホール)

◎アーティストトーク：渡辺菊真「土嚢のいえと住処の夢」

(2010年9月23日、レクチャーホール、プロジェクト工房)

◎2日間連続ワークショップ

「インクルーシブ・アーキテクチャー

みんなで作る巨大段ボール建築」(2010年10月23～24日、

キッズスタジオ、長期インスタレーションルーム、プロジェクト

工房、交流ゾーン、広場)

◎アーティストトーク「Our Home」:

ビシットボン・シラピスト

(2010年11月21日、レクチャーホール)

◎子ども向け鑑賞プログラム

「わたしの“いい家”、どないえ？」

(2010年12月18日、キッズスタジオ、プロジェクト工房、

長期インスタレーションルーム)

◎卯辰山・古家ツアー (2011年1月16日、

古家3棟 [金沢市内]、橋本建築造園設計事務所)

◎高嶺格「スペシャル・トーク+映像作品上映会」

(2011年2月26日、レクチャーホール)

◎絵本を読もう

(2010年6月19日、7月10日、10月2日、11月6日、12月19日、

2011年1月15日、2月12日、3月19日)

◎キュレーターによるギャラリー・トーク

(2010年6月5日、10月2日、2011年1月15日、3月19日)

◎エデュケーターによるギャラリー・トーク

(2010年11月6日、12月19日、2011年2月12日)

ドキュメント：

『高嶺 格：Good House, Nice Body ～いい家・よい体』

金沢21世紀美術館 2011年

29.7 x 17cm、56p. 1,810円+税

ISBN：978-4-903205-27-4

キュレーション：吉岡恵美子

教育普及：吉備久美子

制作スタッフ：齋藤雅宏

ライブラリアン：鍛冶裕子

展示設営：児玉賢三

アーカイヴ：石黒礼子

広報：落合博晃、黒田裕子、沢井美里

ピーター・マクドナルド：

訪問者

2011年4月16日[土]～2012年3月20日[火]

会場：長期インスタレーションルーム、展示室13、  
金沢能楽美術館ほか館外

観覧料：

長期インスタレーションルーム：無料

展示室13：2011年9月16日まで無料。9月17日以降より当日  
の特別展またはコレクション展観覧券必要。

主催：金沢21世紀美術館 [(公財)金沢芸術創造財団]

共催：ブリティッシュ・カウンシル

助成：財団法人地域創造、大和日英基金

協力：パニーコルアート株式会社

※本展は金沢21世紀美術館の美術館教育活動「金沢若者夢  
チャレンジ・アートプログラム：美術館はメディアエーター」として  
(財)地域創造の助成により実施された。

出品作家：ピーター・マクドナルド

『ピーター・マクドナルド：訪問者 BOOK 1』

フォイル、2011年

A4変型、79p. 2,500円+税、ISBN：978-4-902943-70-2

『ピーター・マクドナルド：訪問者 BOOK 2』(記録集)

フォイル、2012年、A4変型、136p. 2,500円+税

ISBN：978-4-902943-72-6

巡回なし

キュレーション：北出智恵子

キュレーション補助：川岸真由子

制作スタッフ：割出祐子、犬丸のり子、大場さやか

展示設営：児玉賢三

ライブラリアン：鍛冶裕子

広報：黒田裕子、沢井美里

グラフィック：

åbåke & Peter McDonald (アートディレクション)

市川敦子 (デザイン)

展覧会ドキュメント：

写真／池田ひらく、喜多直人、竹之内祐幸、渡邊修、

映像／小田一生

アーカイヴ編集・制作／中川陽介

関連企画

◎ディスコ：

壁画制作：ピーター・マクドナルド、プロジェクト・メンバー、  
壁画制作サポート：石川結介、アシスタント：石川綾介  
(2011年4月20日-6月15日、展示室13)

◎Shipping Salon (2011年4月30日-2012年3月20日、  
長期インスタレーションルームほか)

◎プレ・ディスコ (2011年6月3日、4日、5日、7日、11日、16日、  
18日、展示室13)

◎プロジェクト・メンバーの集い (2011年6月5日、展示室13)

◎絵本を読もう—ピーター・マクドナルド：ディスコとともに  
(2011年8月5日、6日、9月19日、10月22日、  
2012年1月14日、3月20日、展示室13)

◎「ほかのあたまほかのからだ—Session 01」

ゲスト：渡邊茂人、高橋憲正、荻克徳 (能楽師)、  
参加：ピーター・マクドナルド、プロジェクト・メンバー  
(2011年8月19日、20日、展示室13)

◎「ほかのあたまほかのからだ

—Home Room / Home Work」

(2011年9月1日-2012年3月16日の間に82回実施、  
展示室13、プロジェクト工房、学芸・交流スタッフ室)

◎アウトリーチ／館外展示プロジェクト

「Cigarette Box in Town」

(2011年9月15日-2012年3月20日)

参加／設置先：Café & Cake TOMO, bar shirasagi,  
everyday records、魚焼いたる、オヨヨ書林 せせらぎ通り店、  
古美術 兵部、プラザ樹、ELLE mieux、グループ遊美  
(杉山生け花教室)、ルバン in おやま、

ギャラリー小立野大地 生、SKLO, maki (FLANGER)、  
シュガー吉永 (Buffalo Daughter)、大野由美子

(Buffalo Daughter)、山本ムグ (Buffalo Daguther)、  
松下敦、JO HOUSE石引、カラオケ喫茶和院

◎「Home Disco」

(2011年9月17日、18日、23日、24日、25日、10月8日、9日、  
15日、16日、22日、23日、29日、30日、11月6日、13日、20日、  
27日、12月4日、11日、18日、25日、

2012年1月8日、15日、22日、29日、2月5日、12日、19日、  
26日、3月4日、11日、18日、展示室13)

ディレクション：堂井裕之、

出演：Yoshimitsu (S.E.L / CLOSER)、PPTV (Lomanchi)、  
アスバラ (Lomanchi)、yukifool around with the genius、  
シモア、U-1、ANADUB、emirio、tanaka scat (Technocrat)、  
Rec (Technocrat)、モカ、ポプ、DARUMA CLUB  
(waxmob)、MF Cokaine (waxmob)、

KYOSHO (ハンサム泥棒)、YASTAK (ハンサム泥棒)、  
BONZRUM (S.E.L / CLOSER)、SHAFT a.k.a. MEDIATE、  
Funky Remonade、wakato、Takahiro Nishio、Dannyhaze、

今越宏明 (Old Mellow Days)、DJ Wataru Takano  
(House Grow)、92 (E.D.A.)、kazuki (E.D.A.)、matsueda  
(E.D.A.)、徳田和紀 (JAZZPRESSO)、Sorihashi

(CLOSER)、etsu、ytooo (CLOSER)、DJ hajime (Bang!

Bang!)、italow (Bang! Bang!)、s.mas (11pm Disco)、大  
根田厚 (11pm Disco)、COMBO (Radical Disko)、

カズ (3SHINE)、タマ (3SHINE)、Toru a.k.a. Mr.

Mellow、Masayoshi Enjoh、ミヤニシタカシ、MASARU

FUKUSHIMA、greenman、fantaschicken、Masayoshi

Mitsuyama (Casa, Fukui)、Charles (Journal)、キャレック、

dj hideki、DJ TACHIBANA (House Grow)

◎ライブ：Buffalo Daughter

(シュガー吉永、大野由美子、山本ムグ+松下敦)

(2011年9月18日、展示室13)

◎「ほかのあたまほかのからだ—Session 02」

(2011年9月27日、28日、展示室13)

講師：中西優子 (舞踊家)

参加：プロジェクト・メンバー

◎アウトリーチ／館外展示プロジェクト

「スクロール・ストーリー」

(2011年10月1日-2012年3月20日、金沢能楽美術館)

◎「ほかのあたまほかのからだ—Session 03」

(2011年10月14日、展示室13)

ゲスト：砂山由希子 (ヨガ・インストラクター)

参加：プロジェクト・メンバー

◎絵本を読もう—ピーター・マクドナルド：サロンとともに  
(2011年11月26日、長期インスタレーションルーム)

◎「ほかのあたまほかのからだ—Session 04」

ゲスト：高橋憲正 (能楽師)、中西優子 (舞踊家)、

砂山由希子 (ヨガ・インストラクター)、ピーター・マクドナルド、

参加：プロジェクト・メンバー (2011年11月29日、展示室13)

◎アウトリーチ／館外展示プロジェクト

「金沢能楽美術館の窓」(2011年11月30日-2012年3月20日、  
金沢能楽美術館南側の窓4か所)

◎ほかのあたまほかのからだ—ワークショップ

「ほかのあたまをつくろう！」

企画：金田愛加里 (プロジェクト・メンバー)、

制作・運営：プロジェクト・メンバー

(2011年12月10日、18日、2012年2月25日、展示室13)

◎アウトリーチ／館外展示プロジェクト「サイクリング」

(2012年1月23日-2012年3月20日、MODEL-T屋外看板)

◎アウトリーチ／館外展示プロジェクト「カフェ」

(2012年1月28日-2012年3月20日、Café & Cake TOMO)

◎金沢ドローイング

(2012年1月31日-2012年3月20日、展示室13)

◎パフォーマンス「Circulation - 巡回する風景」:

中西優子、KCS中西優子ダンススペース、

小川卓朗 (サクセス奏者)、

映像：ピーター・マクドナルド《Visitor》《Takasago Scroll》

(アニメーション制作：数馬亮平)

(2012年2月19日、シアター21)

◎ほかのあたまほかのからだ—ワークショップ

「Studio Disco—ディスコで描いてディスコと繋がる

パノラマ・ペインティング」

(2012年2月26日、展示室13)

企画：横山久美子 (プロジェクト・メンバー)

◎ほかのあたまほかのからだ—ワークショップ

「Studio Disco—オープン・スタジオ」

(2012年2月26日、28日、29日、3月1日、2日、展示室13)

企画：横山久美子 (プロジェクト・メンバー)

制作・運営：横山久美子、奥村知子、

長野雅子 (プロジェクト・メンバー)

◎ほかのあたまほかのからだ—ワークショップ

「マスキング・ペインティング

—かくれる線とあらわれるかたち」

(2012年3月3日、展示室13)

企画：奥祐司 (プロジェクト・メンバー)

制作・運営：プロジェクト・メンバー

◎アウトリーチ／館外展示プロジェクト「てまり」:

ピーター・マクドナルド

(展示／3月7日-20日、訪問／3月9日、12日、

健生クリニック 通所リハビリテーションセンター「てまり」、

特別養護老人ホーム「なんぶやすらぎホーム」)

◎「Spiral—アミット・ロイ インド古典音楽ライブ」

(2012年3月11日、展示室13)

出演：アミット・ロイ (シタール奏者)、

小室武史 (タブラ奏者)、中村佳代 (タンプーラ奏者)

◎ほかのあたまほかのからだ—ワークショップ

「懐中電灯ディスコ」

(2012年3月17日、展示室13)

企画：南知子 (プロジェクト・メンバー)

制作・運営：プロジェクト・メンバー

◎フィナーレ!

(2012年3月20日、展示室13)

ANADUB、emirio、堂井裕之、キャレック、モカ、

今越宏明 (Old Mellow Days)、dj hideki (Home Disco)、

鍛冶裕子 (ライブライアン)、「ほかのあたまをつくろう」

参加者、プロジェクト・メンバー 10名、ピーター・マクドナルド

## Aloha Amigo!

フェデリコ・エレロ×関口和之

2012年5月3日[木]~2013年3月17日[日]

会場：展示室13

観覧料：2012年11月22日まで無料。

2012年11月23日より「ソニエリュミエール、そして叡智」との  
共通観覧券：一般=1,000円/大学生・65歳以上=800円/  
小中高校生=400円

主催：金沢21世紀美術館〔(公財)金沢芸術創造財団〕

助成：財団法人地域創造

協力：(株)キワヤ商会、パニーコルアート株式会社

※本展は金沢21世紀美術館の美術館教育活動「金沢若者夢  
チャレンジ・アートプログラム：美術館はメディアーター」として  
(財)地域創造の助成により実施された。

出品作家：フェデリコ・エレロ、関口和之

ドキュメント：『Aloha Amigo! フェデリコ・エレロ×関口和之』

金沢21世紀美術館、2013年

18 x 18cm、96p、1,500円+税

ISBN：978-4-903205-38-0

巡回なし

キュレーション：村田大輔

キュレーション補助：川岸真由子

展覧会コーディネーション：平林恵

展示設営：児玉賢三

プロジェクトリーダー：藤本美和

アーカイヴ：石黒礼子

ライブラリアン：鍛冶裕子

音響：坂東渉、澤田陽子

広報：落合博晃、沢井美里

関連企画

◎オープニング記念トーク

対談：フェデリコ・エレロ×関口和之

(2012年5月3日、レクチャーホール)

◎アーティストトーク：フェデリコ・エレロ

(2012年5月3日、レクチャーホール)

◎対談：関口和之×Gen(2012年5月3日、レクチャーホール)

◎「ウクレレフリーステージ!—誰でもウクレレアン—」

(2012年5月8日~2013年3月17日、展示室13)

◎「サタデー・ウクレレ・ワークショップ」プロジェクト

「キッズ・ウクレレ No.1」(2012年6月23日、展示室13)

講師：Gen、井上浩

「キッズ・ウクレレ No.2」(2012年9月15日、展示室13)

講師：Gen、井上浩

(2012年9月15日、展示室13)

「シニア・ウクレレ」(2012年11月24日、展示室13)

講師：Gen、井上浩

◎ワークショップ：きはらようすけ

「あみぐるみでウクレレのミュージックビデオをつくろう」

(2013年2月2日、展示室13、レクチャーホール)

◎絵本を読もう(2013年6月24日、9月29日、11月25日、

2013年1月27日、展示室13)

◎Aloha Amigoメンバー・ウクレレステージ

vol.1(2012年6月30日、湯涌温泉観光協会 野外ステージ)

vol.2-5、7-Final(2012年6月30日、7月22日、8月5日、

9月15日、11月17日、11月24日、

2013年1月19日、2月3日、3月2日、3月17日、展示室13)

vol.6(2012年11月4日、金沢海みらい図書館 交流ホール)

◎「Aloha Amigo! ウクレレサミット」

(2012年8月26日、展示室13、広場)

出演：ウクレレ隊、クロスビंक ウクレレ部、

ウクレレアンサンブル~ALOHA!~、

ジュニア・ウクレレ・オーケストラ、Hula Studio Ka Liko、

Puddle ウクレレ部、Gen & Smiley's、フログススリーブ、

ラ・ティアレ、JazzoomCafe、福井ウクレレクラスタ楽音、

U900、金沢ウクレレオーケストラ、Aloha Ukulele、

岡田央 Na Lei Pualani Hula Studio, andmore、

関口和之バンド

◎メンバー館外活動

出張ウクレレ演奏会&体験会

(2012年8月29日、介護老人保健施設 内灘温泉保養館)

出張ウクレレ演奏会&体験会

(2012年11月8日、金沢市立額小学校)

「ウクレレクリスマス vol.3」出演

(2012年12月16日、金沢市民芸術村)

「ちびっこクリスマス」出演

(2012年12月17日、金沢市近江町交流プラザ)

◎ハワイバシフィック・レクチャー

「なぜ人は物にこだわるの?—ハワイと日本美術の場合」

講師：亀田和子(ハワイバシフィック大学講師)

(2012年9月9日、レクチャーホール)

◎メンバー活動「まるびい de パーティー」出演

(2012年10月6日、広場)

◎ワークショップ：岡田央「歌とウクレレ」

(2012年10月27日、会議室1)

◎講演会：広瀬光治

(2012年11月18日、展示室13)

◎「ウクレレ世界音楽めぐり」

出演：キヨシ小林(2013年1月26日、展示室13)

◎展覧会ファイナルイベント「ウクレレがいっぱい」

出演：関口和之、つじあやの、プロジェクト・メンバー、

地元ウクレレバンド

(2013年3月9日、交流ゾーン、展示室13、シアター 21)

◎ワークショップ&講演会 講師：ロイ・サクマ

(2013年3月14日、展示室13、レクチャーホール)

◎メンバー自主活動

「ウクレレ練習会」(2012年4月20日、22日、26日、28日、

7月18日、22日、8月1日、5日、19日、25日、9月13日、

10月6日、30日、12月4日、9日、14日、

2013年1月19日、2月3日、19日、26日、3月5日、8日、9日、

12日、16日、17日、

展示室13、会議室1、シアター 21、サポートスタッフ室)

「合宿」(2012年6月29日~30日、11月16日~17日、

金沢湯涌創作の森)

「メンバー研修会」講師：真木喜規(声楽家)

(2012年11月13日、展示室13)

ミナ ベルホネン The future from the past 未来は過去から  
2010年1月16日[土]-5月30日[日]

観覧料：無料  
入場者数：106,579人

主催：金沢21世紀美術館〔(財)金沢芸術創造財団〕  
協力：袴田京太郎／イイノナホ

出品作家：ミナ ベルホネン

ドキュメント：  
『ミナ ベルホネン The future from the past 未来は過去から  
EXHIBITION DOCUMENT』(pdf版)  
金沢21世紀美術館、2011年  
http://www.kanazawa21.jp/files/exhibition/mina\_fix2.pdf

巡回なし

キュレーション：立松由美子、平林恵  
展示設営：児玉賢三  
教育普及：平林恵、木村健  
広報デザイン：南知子/stompdesign

関連企画

◎アーティスト・トーク：皆川明「描かれないデザイン」  
(2010年4月10日、シアター21)  
◎大人のワークショップ：  
「『ざわ ざわ かな、かなざわ』図案を描こう！」  
(2010年4月10日、11日、会議室1)  
◎子どものワークショップ(2010年4月11日、キッズスタジオ)

みかんぐみ

「みかんぐみのアイデアワークショップ—みんなのがっこう」  
2010年6月12日[土]-2010年9月26日[日]

観覧料：無料  
入場者数：記録なし

主催：金沢21世紀美術館〔(財)金沢芸術創造財団〕  
協賛：大和ハウス工業株式会社  
協力：株式会社アイ・オー・データ機器、金沢市立新野町小学校

出品作家：みかんぐみ

カタログなし

巡回なし

キュレーション：黒澤浩美

関連企画

◎対談：小野田泰明(東北大学教授)×  
マニエール・タルディッツ(みかんぐみ)  
(2010年7月24日、デザインギャラリー)  
◎トークイベント：  
加茂紀和子(みかんぐみ)×岸裕司(秋津コミュニティ)  
「地球が包み込む学校」(2010年9月8日、レクチャーホール)  
◎トークイベント「自主ゼミナール：地域から見た学校」  
(2010年9月16日、レクチャーホール)  
◎トークイベント「みんなのがっこう発表会」  
(2010年9月20日、レクチャーホール)

Only honest design can be recyclable.  
D&DEPARTMENT PROJECT  
2010年10月9日[土]-2011年1月30日[日]

観覧料：無料  
入場者数：21,857人(12-1月)※10-11月記録なし

主催：金沢21世紀美術館〔(財)金沢芸術創造財団〕

出品作家：D&DEPARTMENT PROJECT

カタログなし

巡回なし

キュレーション：黒澤浩美

関連企画

◎絵本を読もう(2010年11月13日、授乳室、観覧会場)  
◎トークイベント：ナガオカケンメイ×秋元雄史  
「ニッポンのロングライフデザイン」  
(2010年12月11日、レクチャーホール)  
◎ショートフィルム上映会「RE: サイクル」  
(2011年1月22日、23日、レクチャーホール)

MADE IN JAPANの置時計 1960年代を中心に  
2011年2月5日[土]-5月29日[日]

観覧料：無料  
入場者数：104,236人

主催：金沢21世紀美術館〔(財)金沢芸術創造財団〕  
監修：本谷文雄(石川県立歴史博物館学芸主幹)  
協力：山田訓

出品作家：なし

カタログ：『MADE IN JAPANの置時計 1960年代を中心に』  
金沢21世紀美術館、2011年、18.6 x 18.6cm、20p. 非売。

巡回なし

キュレーション：高橋律子  
展示設営：児玉賢三  
アーカイヴ：石黒礼子  
広報：黒田裕子、沢井美里

関連企画

◎レクチャー：  
平野拓夫「グッドデザインの創生目的と将来の展望」  
(2011年5月14日、レクチャーホール)  
◎絵本を読もう(2011年5月21日)  
◎トーク：本谷文雄、山田訓「コレクションの楽しみ」  
(2011年3月18日、観覧会場)

art-ZINE：冊子型アート・コミュニケーション  
2011年6月11日[土]-9月25日[日]

観覧料：無料  
入場者数：67,481人

主催：金沢21世紀美術館〔(公財)金沢芸術創造財団〕  
協力：藤田製本印刷株式会社

出品作家なし

ドキュメント：『art-ZINE：冊子型アート・コミュニケーション』  
金沢21世紀美術館、2012年、14 x 21.5cm、64p. 500円+税  
ISBN：978-4-903205-33-5

巡回なし

キュレーション：高橋律子  
展示設営：児玉賢三  
アーカイヴ：石黒礼子  
広報：黒田裕子、沢井美里

関連企画

◎ワークショップ：「ZINEを作ろう」  
(2011年7月24日、8月20日、会議室1)  
講師：宮永英治、内原誉志正(藤田製本印刷)、  
内田裕規、杉本ふみ(株式会社ヒュージ)  
◎ワークショップ：「ハジメテンによるart-ZINE workshop」  
(2011年9月4日、会議室1)  
◎シンポジウム：「ZINEの未来形 FANZINE・ZINE・art-ZINE」  
(2011年9月25日、レクチャーホール)  
パネリスト=江口宏志(ZINE'S MATE / UTRECHT)、  
野中モモ(Lilmag)、  
福田淳(ソニー・デジタルエンタテインメント)

ベトナム絹絵画家グエン・ファン・チャン  
 絵画修復プロジェクト展  
 2011年10月22日[土]–2012年2月12日[日]

観覧料：無料  
 入場者数：32,155人

主催：金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]  
 後援：ベトナム社会主義共和国大使館、  
 日本ベトナム友好協会石川県支部、NHK金沢放送局  
 協力：三谷産業株式会社、株式会社クリエイティブ・  
 ポジション・コア、シーシーエス株式会社

出品作家：グエン・ファン・チャン

カタログなし

巡回なし

キュレーション：高橋律子  
 展示設営：児玉賢三  
 アーカイヴ：石黒礼子  
 広報：黒田裕子、沢井美里

関連企画：なし

Olive 1982–2003 雑誌『オリブ』のクリエイティビティ  
 2012年2月25日[土]–7月1日[日]

観覧料：無料  
 入場者数：38,717人

主催：金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]

出品作家なし

ドキュメント：  
 『Olive 1982–2003 雑誌『オリブ』のクリエイティビティ』  
 金沢21世紀美術館、2012年、18 x 27.5cm、80p、800円+税、  
 ISBN：978-4-903205-34-2

巡回なし

キュレーション：高橋律子  
 展示設営：児玉賢三  
 アーカイヴ：石黒礼子  
 広報：黒田裕子、沢井美里  
 アートディレクション：新谷雅弘

関連企画

◎トーク：嶽本野ばら『『ひまわり』から『オリブ』まで』  
 (2012年3月24日、レクチャーホール)  
 ◎ワークショップ：新谷雅弘  
 『『オリブ』流雑誌デザイン・ワークショップ』  
 (2012年4月14日、15日、会議室1)  
 ◎トーク：遠山こずえ、岡戸綱枝(元『オリブ』編集長)  
 (2012年6月3日、レクチャーホール)  
 ◎トーク：淀川美代子(元『オリブ』編集長)  
 (2012年6月9日、レクチャーホール)  
 ◎トーク：大森仔佑子(スタイリスト)  
 (2012年6月23日、レクチャーホール)

matohu 日本の眼 日常にひそむ美を見つける  
 2012年7月21日[土]–11月25日[日]

観覧料：無料  
 入場者数：68,910人

主催：金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]  
 協力：株式会社アイ・オー・データ機器、宇仁織維株式会社、  
 若益哉隆龍 RYU-RYU、SOMA DESIGN、畑中正人

出品作家：matohu

カタログなし

巡回なし

キュレーション：高橋律子  
 展示設営：児玉賢三  
 アーカイヴ：石黒礼子  
 広報：中山なち

関連企画

◎ワークショップ：matohu「身近な『無地の美』を見つける」  
 (2012年8月4日、松涛庵)  
 ◎アーティスト・トーク：  
 matohu「日常にひそむ美を見つける」  
 (2012年8月5日、レクチャーホール)

2010年度

日時：2010年11月29日[月]–12月3日[金]9:30–17:00  
 受入人数：15名  
 講義内容：  
 「コレクションと保存管理について」「展覧会企画について」  
 「教育普及活動について」「アーカイヴについて」「著作権の  
 取り組みについて」等  
 実習内容：  
 「作品取扱」「調書作成」「ワークシート作成」等

2011年度

日時：2011年12月5日[月]–9日[金]9:30–17:00  
 受入人数：11名  
 講義内容：  
 「コレクションと保存管理について」「展覧会企画について」  
 「教育普及活動について」「アーカイヴについて」  
 「著作権の取り組みについて」等  
 実習内容：  
 「作品取扱」「調書作成」「ワークシート作成」等

2012年度

日時：2012年10月29日[月]–11月2日[金]9:30–17:00  
 受入人数：12名  
 講義内容：  
 「コレクションと保存管理について」「展覧会企画について」  
 「教育普及活動について」「アーカイヴについて」  
 「著作権の取り組みについて」等  
 実習内容：  
 「作品取扱」「調書作成」「ワークシート作成」等

# 新規収蔵作品・資料 (2010-2012年度)

## New Acquisitions 2010-2012

凡例：作品は収集年度ごとに作家の姓のアルファベット順に記載した。

作品データは、作品名、制作年、素材、サイズ [H=高さ(縦) x W=幅(横) x D=(奥行き)cm] もしくは上映時間の順に記載した。

Note: Works are listed alphabetically by artist's surname for each fiscal year of acquisition.

The data of works are listed in order of title, production year, material and dimensions [height x width x depth cm], or duration.

### 2010年度

#### 購入作品

作家名(日)	作家名(英)	作品名(日)	作品名(英)	制作年	素材(日)	素材(英)	サイズ(日)	サイズ(英)
オラファー・エリアソン	Olafur ELIASSON	水の彩るあなたの水平線	Your watercolour horizon	2009	ステンレス、銅、木、ゴム、水、プリズムガラス、HMI ランプ	stainless steel, steel, wood, rubber, water, glass prism, HMI lamp	可変	dimensions variable
ヤン・ファブル	Jan FABRE	小さい闘士	The Little Street Fighter	1978/2006	木、ポリエステル、画鋲、釘、角砂糖	wood, polyester, thumbnails, nails, sugar cube	140 x 60 x 60cm	140 x 60 x 60cm
八谷和彦	HACHIYA Kazuhiko	M-02シミュレータ	M-02 Simulator	2006	ミクスト・メディア	mixed media	95 x 85 x 200cm	95 x 85 x 200cm
上出長右衛門楽+丸若屋	KAMIDE Choemon-gama + MARUWAKA-YA	髷 菓子壺 花詰	"The Skull" Candy Jar with Design of Flowers	2009	磁器	porcelain	16 x 14 x 21cm	16 x 14 x 21cm
上出恵悟	KAMIDE Keigo	甘蔗 房 色絵梅文	Pile of Bananas with Design of Apricot	2009	磁器	porcelain	13 x 16 x 11cm	13 x 16 x 11cm
木村太陽	KIMURA Taiyo	Life's An Ocean/Dead Finks Don't Talk	Life's An Ocean/Dead Finks Don't Talk	2007	ジッパー、布地、マネキン	zipper, cloth, mannequin	可変 (マネキン: 191 x 74 x 60cm)	dimensions variable (mannequin: 191 x 74 x 60cm)
		プラス・マイナス・ビーブル	plus minus people	1997-2007	磁石、紙粘土	magnet, paper clay	可変 (オブジェ: 6 x 2 x 2cm、箱: 33 x 30 x 30cm)	dimensions variable (paper clay: 6 x 2 x 2cm, box: 33 x 30 x 30cm)
桑山忠明	KUWAYAMA Tadaaki	Untitled: 金沢21世紀美術館のためのプロジェクト	Untitled: Project for 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa	2011	アノダイズド・アルミニウム	anodized aluminum	可変 (構成要素のサイズ: 各H23.5 x φ31.5cm、16点)	dimensions variable (H23.5 x φ31.5cm each, 16pieces)
見附正康	MITSUKE Masayasu	無題	Untitled	2005	磁土、赤絵、丸谷焼	porcelain, Akae(red-enameled), Kutani ware	10cm x φ47cm	10cm x φ47cm
中村卓夫 C-unit 佐藤卓	NAKAMURA Takuo C-unit SATO Taku	茶箱プロジェクト: 素材による形状と比率に於ける選択と用途の検証	Chabako Project: Verification of Choice and Uses in Shape and Proportion	2010	錫、竹、陶、漆、木、ガラス	tin, bamboo, pottery, lacquer ware, wood, glass	*別途記載	
中島晴美	NAKASHIMA Harumi	反転しながら増殖する形態 -0811	From-0811: Twisting Back, Multiplying	2008	磁器	porcelain	69 x 67 x 39cm	69 x 67 x 39cm
高嶺格	TAKAMINE Tadasu	Good House, Nice Body: 私を建て、そして通り過ぎていった者たち	Good House, Nice Body: Those who built me and passed me by	2010	プロジェクター、コンピューター、スピーカー、ファウンド・オブジェクト	projector, computer, speaker, found objects	可変	dimensions variable
田中信行	TANAKA Nobuyuki	Inner side-Outer side	Inner side-Outer side	2005	漆、麻布(乾漆)	lacquer, hemp cloth (kanshitsu)	220 x 158 x 85cm	220 x 158 x 85cm
山村慎哉	YAMAMURA Shinya	卵殻塔形重香合	Three-drawer tower shaped incense case, rankaku	2009	松、色漆、卵殻、金粉	Japanese cypress, green lacquer, egg-shell, gold-powder	8.7 x φ5.3cm	8.7 x φ5.3cm
横尾忠則	YOKOO Tadanori	What's yours is mine. What's mine is mine.	What's yours is mine. What's mine is mine.	2009	油彩/カンヴァス	oil on canvas	194.0 x 194.0cm	194.0 x 194.0cm

\*中村卓夫 C-unit 佐藤卓《茶箱プロジェクト: 素材による形状と比率に於ける選択と用途の検証》サイズ

青木有理子(錫) XL: H0.3 x φ18cm L: H0.3 x φ16cm M: H0.3 x φ12cm S: H0.3 x φ10cm XS: H0.3 x φ8cm

本江和美(竹) XL: H18 x W20 x D28cm L: H14 x W15 x D22cm M: H11 x W12 x D17cm S: H9 x W10 x D13cm XS: H7.5 x W8 x D10.5cm

中村卓夫(陶) XL: H13 x W17 x D14cm L: H10 x W13 x D11cm M: H9 x W12 x D11cm S: H8 x W8 x D7cm XS: H7 x W7 x D5cm

大村修一(漆) XL: H15 x φ17cm L: H12 x φ13.5cm M: H9.5 x φ10cm S: H7.5 x φ8cm XS: H5.5 x φ6cm

酒井忍(木) XL: H19.5 x W20.5 x D29.5cm L: H16 x W6.5 x D23.5cm M: H13 x W13 x D18.5cm S: H10.5 x W10 x D14.5cm XS: H8 x W8 x D11cm

竹村有里(陶) XL: H9 x φ11cm L: H7 x φ9cm M: H6.5 x φ8.5cm S: H4 x φ6cm XS: H3 x φ4cm

吉田安喜(ガラス) XL: H12.5 x φ12.5cm L: H11 x φ10cm M: H8.5 x φ7.5cm S: H7.5 x φ6.5cm XS: H6 x φ5cm

寄贈作品

作家名(日)	作家名(英)	作品名(日)	作品名(英)	制作年	素材(日)	素材(英)	サイズ(日)	サイズ(英)	寄贈者(日英)
蓮田修吾郎	HASUDA Shugoro	朱銅壺 よしの道	Yoshinomichi, Vase, Bronze	1965	朱銅	bronze	21 x 15 x 15cm	21 x 15 x 15cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		朱銅 方壺	Square Vase, Bronze	c.1995	朱銅	bronze	14.5 x 15.9 x 15.7cm	14.5 x 15.9 x 15.7cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		(不詳)	title under research	c.2000	青銅	bronze	30.5 x 29.4 x 29.6cm	30.5 x 29.4 x 29.6cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		朱銅 一輪生	Flower Vase, Bronze	2009	朱銅	bronze	24.3 x 4.0 x 4.8cm	24.3 x 4.0 x 4.8cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		青銅壺 山の辺	Yamanobe, Vase, Bronze	2009	青銅	bronze	34.5 x 9.3 x 5.4cm	34.5 x 9.3 x 5.4cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		鑲銀壺 山かけ	Yamakage, Vase, Silver and Copper	2009	鑲銀	silver and copper	32.0 x 7.5 x 11.0cm	32.0 x 7.5 x 11.0cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		朱銅壺 佇立	Choritsu, Vase, Bronze	2009	朱銅	bronze	35.5 x 12.5 x 6.7cm	35.5 x 12.5 x 6.7cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		白銅 壺	Vase, Cupronickel	2010	白銅	cupronickel	24.5 x 4.5 x 4.7cm	24.5 x 4.5 x 4.7cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		朱銅壺 一輪生	Flower Vase, Bronze	(不詳)	朱銅	bronze	14.0 x 14.0 x 14.0cm	14.0 x 14.0 x 14.0cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue
		(不詳)	title under research	(不詳)	青銅	bronze	36.5 x 29.0 x 30.0cm	36.5 x 29.0 x 30.0cm	蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue

寄贈資料

作家名(日)	作家名(英)	作品名(日)	作品名(英)	制作年	素材(日)	素材(英)	サイズ(日)	サイズ(英)	寄贈者(日英)
蓮田修吾郎	HASUDA Shugoro	方壺原型117点	117 square vase prototypes		石膏 (一部塗装)、 金型	plaster, metal			蓮田すゑ氏 gift of HASUDA Sue



2011年度

購入作品

作家名(日)	作家名(英)	作品名(日)	作品名(英)	制作年	素材(日)	素材(英)	サイズ(日)	サイズ(英)
ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス	Peter FISCHLI David WEISS	音と光一線の光線	Son et Lumière - Le rayon vert	1990	フラッシュライト、回転台、プラスチック製コップ、テープ	flashlight, turntable, plastic cup, adhesive tape	25×40×16cm	25 x 40 x 16cm
		無題(コンクリート・ランドスケープ)	Untitled (Concrete Landscape)	2010	コンクリート、石、台	concrete and stone, pedestal	約12 x 100 x 200cm	about 12 x 100 x 200cm
モニック・フリードマン	Monique FRYDMAN	アマランス色、「輝き」シリーズより	Amarante, from series Les Éclats	2004	顔料、バステル、バインダー／麻布	pigments, pastels and binder on linen	250 x 250cm	250 x 250cm
		灰色、「輝き」シリーズより	Gris, from series Les Éclats	2004	顔料、バステル、バインダー／麻布	pigments, pastels and binder on linen	250 x 250 cm	250 x 250cm
		金色1、「輝き」シリーズより	Or 1, from series Les Éclats	2005	顔料、バステル、バインダー／麻布	pigments, pastels and binder on linen	250 x 250cm	250 x 250cm
シルバ・グプタ	Shilpa GUPTA	無題(ここに境界はない)	Untitled (There is No Border Here)	2005-2006 /2011	プラスチックテープ	plastic tape	可変	dimensions variable
イェッペ・ハイン	Jeppe HEIN	回転するピラミッドII	Rotating Pyramid II	2007	鏡、動力装置	mirror, technical apparatus	200 x 200 x 110cm	200 x 200 x 110cm
森村 泰昌	MORIMURA Yasumasa	なにかへのレクイエム／人間は悲しいくらいむなしい 1920.5.5-2007.3.2	A Requiem: Humanity is sadly futile 1920.5.5-2007.3.2	2007	HDTV (一部16mmフィルムをHDTVへ変換)	HDTV (partly transferred from 16 mm to HDTV)	8分15秒	8 min. 15 sec.
サイトウ・マコト	SAITO Makoto	マイセルフ・ポートレート01	Myself Portrait 01	2006	アクリル、オイルインク／カンヴァス	acrylic and oil ink on canvas	196 x 155.8cm	196 x 155.8cm
ツェ・スーメイ	TSE Su-Mei	エコー	L'echo	2003	ビデオ・プロジェクション、音	video projection, sound	4分54秒ループ	4 min. 54 sec. looped
		ヤドリギ楽譜	Mistelpartition (Mistle Score)	2006	ビデオ・プロジェクション、音	video projection, sound	6分49秒ループ	6 min. 49 sec. looped
ジェマイマ・ワイマン	Jemima WYMAN	戦闘のための変装	Combat Drag	2008	DVD	DVD	8分(作家の意向によりキャプションには表記しない)	8min(print nothing in caption)
山崎つる子	YAMAZAKI Tsuruko	サファイア	Sapphire	2003	ビー玉、釘、ブリキ、木、スチール	marbles, nail, tin, wood, steel	15.5 x 172 x 100.5cm	15.5 x 172 x 100.5cm
イー・イラン	YEE I-Lann	オラン・ブサル・シリーズ カイン・パンジャンと寄生するケバラ	The Orang Besar Series— Kain Panjang with Parasitic Kepala	2010	酸性染料によるダイレクト・デジタル・ミマキ・インクジェット捺染、含金属型反応染料レマゾールを用いたチャンチンによるパティック、100%絹綾織布	Direct digital mimaki inkjet print with acide dye, batik canting Remazol Fast Salt dyes on 100% silk twill	106.7 x 234cm	106.7 x 234cm
		オラン・ブサル・シリーズ カイン・パンジャンと肉食性のケバラ	The Orang Besar Series— Kain Panjang with Carnivorous Kepala	2010	酸性染料によるダイレクト・デジタル・ミマキ・インクジェット捺染、含金属型反応染料レマゾールを用いたチャンチンによるパティック、100%絹綾織布	Direct digital mimaki inkjet print with acide dye, batik canting Remazol Fast Salt dyes on 100% silk twill	106.7 x 234cm	106.7 x 234cm
		オラン・ブサル・シリーズ カイン・パンジャンと不機嫌なケバラ	The Orang Besar Series— Kain Panjang with Petulant Kepala	2010	酸性染料によるダイレクト・デジタル・ミマキ・インクジェット捺染、含金属型反応染料レマゾールを用いたチャンチンによるパティック、100%絹綾織布	Direct digital mimaki inkjet print with acide dye, batik canting Remazol Fast Salt dyes on 100% silk twill	106.7 x 234cm	106.7 x 234cm
		オラン・ブサル・シリーズ 私掠船の帝国と彼らの勇ましい冒険	The Orang Besar Series— Empires of Privateers and Their Glorious Ventures	2010	酸性染料によるダイレクト・デジタル・ミマキ・インクジェット捺染、含金属型反応染料レマゾールを用いたパティック型押(チャップ)、100%絹綾織布	Direct digital mimaki inkjet print with acid dye, batik chop Remazol Fast Salt dyes on 100% silk twill	132 x 400cm	132 x 400cm

寄贈作品

作家名(日)	作家名(英)	作品名(日)	作品名(英)	制作年	素材(日)	素材(英)	サイズ(日)	サイズ(英)	寄贈者(日英)
ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス	Peter FISCHLI David WEISS	クリン クロン	Kling Klöng	2010	サウンド	sound	※表記しない	※表記しない	ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス gift of Peter FISCHLI David WEISS
サイトウ・マコト	SAITO Makoto	マイセルフ・ポートレート02	Myself Portrait 02	2006	アクリル、オイルインク／カンヴァス	acrylic and oil ink on canvas	196×155.8cm	196 x 155.8cm	サイトウ・マコト氏 gift of SAITO Makoto

寄贈資料

作家名(日)	作家名(英)	作品名(日)	作品名(英)	制作年	素材(日)	素材(英)	サイズ(日)	サイズ(英)	寄贈者(日英)
奈良美智	NARA Yoshitomo	「奈良美智展：Moonlight Serenade 一月夜曲」のためのドローイング一式 (22点)	A set of Drawings made for "Yoshitomo Nara: Moonlight Serenade" (22 works)	2005-2006	色鉛筆／紙(1点)、ペン／紙(21点)	color pencil on paper (1 piece), pen on paper (21 pieces)	24 x 31.7cm (1点)、21 x 29.7 cm (2点)、25.6 x 36.3cm (17点)、29.7 x 42cm (2点)	24 x 31.7cm (1 piece), 21 x 29.7 cm (2 pieces), 25.6 x 36.3cm (17 pieces), 29.7 x 42cm (2 pieces)	奈良美智氏 gift of NARA Yoshitomo

2012年度

購入作品

作家名(日)	作家名(英)	作品名(日)	作品名(英)	制作年	素材(日)	素材(英)	サイズ(日)	サイズ(英)
青木克世	AOKI Katsuyo	予知夢XXXII	Predictive Dream XXXII	2012	磁土	porcelain	22.1 x 17 x 20cm	22.1 x 17 x 20cm
Chim ↑ Pom	Chim ↑ Pom	SUPER RAT (Showcase)	SUPER RAT (Showcase)	2011-2012	ビデオ3点、ミクストメディア	3 videos, mixed media	可変 (映像3点各：2分22秒 / 2分28秒 / 3分)	dimensions variable (video: 2min. 22sec, 2min.28sec, 3min.each)
ペーター・フィッシュリ ダヴィッド・ヴァイス	Peter FISCHLI David WEISS	クリン クロン ロック	Kling Klong Rock	2010-2012	ポリウレタン、布、彩色、MP3プレイヤー、スピーカー	polyurethane, cloth, paint, MP3 player, loud speaker	36.0 x 53.0 x 45.0 cm	36.0 x 53.0 x 45.0 cm
葉山有樹	HAYAMA Yuki	龍孫皇帝図鉢	Large Bowl with Emperor Long Sun	2006-2007	磁土	porcelain	17.5 x φ56.9cm	17.5 x φ56.9cm
		四神・青龍鉢	Large Bowl with Four Guardian Gods: Blue Dragon	2005	磁土	porcelain	11 x φ46.3cm	11 x φ46.3cm
		四神・朱雀鉢	Large Bowl with Four Guardian Gods: Vermillion Bird	2005	磁土	porcelain	10.4 x φ46.2cm	10.4 x φ46.2cm
		四神・白虎鉢	Large Bowl with Four Guardian Gods: White Tiger	2005	磁土	porcelain	11.2 x φ46.3cm	11.2 x φ46.3cm
		四神・玄武鉢	Large Bowl with Four Guardian Gods: Black Warrior	2006	磁土	porcelain	11 x φ46.1cm	11 x φ46.1cm
フェデリコ・エレロ	Federico HERRERO	サイコロピカル・ランドスケープ	Psycho-Tropical Landscape	2012	ミクストメディア	mixed media	90 x φ760 cm	90 x φ760 cm
ホンマタカシ	HOMMA Takashi	東京郊外 (湘南国際村、神奈川) / 湘南国際村、神奈川 / 幕張ベイタウン、千葉 / 少年-1、京王多摩センター、東京 / 少年-2、東京ジョイポリス、東京 / 少年-4、相模大野、神奈川 / 長峰地区、多摩ニュータウン、東京 / 幕張ベイタウン、千葉 / 少年-7、新浦安、千葉 / 少女-1、湘南国際村、神奈川 / レインボーブリッジ、お台場、東京 / ラブホテル、幕張、千葉 / 浦安マリーナ イースト 21、千葉 / 駐車場、所沢、埼玉 / 新浦安、千葉)	TOKYO SUBURBIA	1995-1998	タイプCプリント	type C print	100 x 125cm (13点) 125 x 100cm (2点)	100 x 125cm (13 pieces), 125 x 100cm (2 pieces)
猪倉高志	IKURA Takashi	かげを纏うかたち 2011-01	Where Shadow Meets Form 2011-01	2011	半磁器	semi-porcelain	21 x 21.4 x 20.9cm	21 x 21.4 x 20.9cm
		かげを纏うかたち 2011-03	Where Shadow Meets Form 2011-03	2011	半磁器	semi-porcelain	27.0 x 17.2 x 16.6cm	27.0 x 17.2 x 16.6cm
		かげを纏うかたち 2012-01	Where Shadow Meets Form 2012-01	2012	半磁器	semi-porcelain	29.6 x 15.3 x 14.5cm	29.6 x 15.3 x 14.5cm
		かげを纏うかたち 2012-02	Where Shadow Meets Form 2012-02	2012	半磁器	semi-porcelain	19.4 x 19.4 x 19.7cm	19.4 x 19.4 x 19.7cm

桑田卓郎	KUWATA Takuro	桃色化粧金彩梅華皮志野焼	Pink-slipped gold Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、金	porcelain, glaze, gold	36.4 x 39.3 x 37.7cm	36.4 x 39.3 x 37.7cm
		空色化粧白金彩梅華皮志野焼	Sky blue-slipped platinum Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、白金	porcelain, glaze, platinum	38 x φ41cm	38 x φ41cm
		黄色化粧白金彩梅華皮志野焼	Yellow-slipped platinum Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、白金	porcelain, glaze, platinum	43 x 34 x 30.7cm	43 x 34 x 30.7cm
		赤色化粧白金彩梅華皮志野焼	Red-slipped platinum Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、白金	porcelain, glaze, platinum	40 x 29.7 x 27.5cm	40 x 29.7 x 27.5cm
		黄緑化粧白金彩梅華皮志野焼	Yellow green-slipped platinum Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、白金	porcelain, glaze, platinum	40 x 29.6 x 28cm	40 x 29.6 x 28cm
		青色化粧金彩梅華皮志野焼	Blue-slipped gold Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、金	porcelain, glaze, gold	36.8 x φ33cm	36.8 x φ33cm
		橙化粧白金彩梅華皮志野焼	Orange-slipped platinum Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、白金	porcelain, glaze, platinum	34.5 x 44 x 35.3cm	34.5 x 44 x 35.3cm
		青色化粧白金彩梅華皮志野焼	Blue-slipped platinum Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、白金	porcelain, glaze, platinum	31 x 36 x 33.2cm	31 x 36 x 33.2cm
		赤空化粧梅華皮志野焼	Red sky blue-slipped Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬	porcelain, glaze	32 x 47.5 x 41cm	32 x 47.5 x 41cm
		黒化粧梅華皮志野焼	Black-slipped Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬	porcelain, glaze	35 x 43.5 x 40.5cm	35 x 43.5 x 40.5cm
		空桃化粧梅華皮志野焼	Sky blue pink-slipped Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬	porcelain, glaze	26 x 38.5 x 35cm	26 x 38.5 x 35cm
		黒化粧金彩梅華皮志野焼	Black-slipped gold Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬	porcelain, glaze	46.5 x φ35cm	46.5 x φ35cm
		桃色化粧白金彩梅華皮志野焼	Pink-slipped platinum Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、白金	porcelain, glaze, platinum	34 x φ39cm	34 x φ39cm
		黄緑化粧金彩梅華皮志野焼	Yellow green-slipped gold Kairagi Shino bowl	2012	磁土、釉薬、金	porcelain, glaze, gold	33.5 x 39.5 x 37m	33.5 x 39.5 x 37m
		見附正康	MITSUKE Masayasu	無題	Untitled	2009	磁土、赤絵、九谷焼	porcelain, Akae(red-enameled), Kutani ware
無題	Untitled			2012	磁土、赤絵、九谷焼	porcelain, Akae(red-enameled), Kutani ware	11.3 x φ47.3cm	11.3 x φ47.3cm
無題	Untitled			2012	磁土、赤絵、九谷焼	porcelain, Akae(red-enameled), Kutani ware	10.8 x φ47.7cm	10.8 x φ47.7cm
無題	Untitled			2012	磁土、赤絵、九谷焼	porcelain, Akae(red-enameled), Kutani ware	11.6 x φ46.2cm	11.6 x φ46.2cm
村上隆	MURAKAMI Takashi	シーブリーズ アナザーディメンション 2012版	Sea Breeze: Another Dimension, 2012 Version	1992 (デジタルプリント/degital print: 2012)	鉄、ステンレス、シャッター水銀灯、キャスター、車輪換気扇、点滅灯、デジタルプリント	iron, stainless, steel, shutter, mercury lamp, caster, wheels, ventilator, flashing lamps, digital print	350 x 380 x 250cm (デジタルプリント: 展示空間により異なる)	350 x 380 x 250cm (digital print: determined by space)
中村康平	NAKAMURA Kohei	支配の様式	Style of Dominance	2012	磁土、木製額	porcelain, wooden frame	206 x 298 x 9.5cm	206 x 298 x 9.5cm
中村信喬	NAKAMURA Shinkyō	輝く海	Shining sea	2010	陶土	ceramic	35 x 16 x 12cm	35 x 16 x 12cm
		大聖堂	Cathedral	2012	木	wood	65 x 28 x 20cm	65 x 28 x 20cm
野口春美	NOGUCHI Harumi	風	Wind	2012	陶土	ceramic	46 x 63.8 x 16.6cm (本体:33.4 x 63.8 x 16.6cm)	46 x 63.816.6cm (body:33.4 x 63.8 x 16.6cm)
大樋年雄	OHI Toshio	白染茶碗 コロラドの土	White Raku Tea Bowl "Colorado Raku Clay"	2005	陶、コロラド薬土に白釉を施し楽焼焼成	Ceramic Raku, Colorado White Raku Clay, White Raku Glaze	7.3 x 15.5 x 15cm	7.3 x 15.5 x 15cm
竹村友里	TAKEMURA Yuri	盆「実り」	Bowl "Ripening"	2011	磁土	porcelain	8.3 x φ10.8cm	8.3 x φ10.8cm
		盆「雫」	Bowl "Drop"	2011	陶土	ceramic	8.3 x φ12cm	8.3 x φ12cm
		盆「瞑想」	Bowl "Meditation"	2012	磁土	porcelain	10 x φ12.4cm	10 x φ12.4cm
		盆「添う」	Bowl "Snuggled Close"	2012	陶土	ceramic	9.7 x φ12.5cm	9.7 x φ12.5cm
		盆「遁化」	Bowl "Clownery"	2012	陶土	ceramic	10.7 x φ12.5cm	10.7 x φ12.5cm
照屋勇賢	TERUYA Yuken	自分でできることをする：声(ニューヨークタイムズ 2011年3月14日)	Minding My Own Business: Voices (New York Times 3/14/11)	2012	新聞紙、ワイヤー、糊	newspaper, wire, glue	20.5 x 34 x 30cm	20.5 x 34 x 30cm
		告知一森：アスター・プレイス、NYC	Notice-Forest: Astor Place, NYC	2011	紙、糊	paper, glue	18 x 29 x 12cm、 18 x 29 x 12cm、 17.5 x 27.5 x 12cm	18 x 29 x 12cm、 18 x 29 x 12cm、 17.5 x 27.5 x 12cm
「雲龍庵」北村辰夫	Unryuan, KITAMURA Tatsuo	更紗蒔絵十字架	Cross, sarasa design, maki-e	2007	木、漆、金、貝	wood, lacquer, gold, shell	13 x 9.5 x 4.2cm	13 x 9.5 x 4.2cm

ジェマイマ・ワイマン	Jemima WYMAN	カモフラージュ: ニュージーランド 4	Camouflaged: New Zealand Four	2011	アクリル/カンヴァス	acrylic on canvas	213 x 168cm	213 x 168cm
山村慎哉	YAMAMURA Shinya	渦巻文銀犀皮四方葎	Cubic tea caddy, spiral design, silver saihi	2012	桧、銀線、銀粉、金粉	Japanese cypress, silver line, silver powder, gold powder	7.9 x 7.2 x 7.2cm	7.9 x 7.2 x 7.2cm
		霜月彩漆山景香合	Mountain shaped incense case, autumn color, colored lacquer	2010	桧、色漆、金粉	Japanese cypress, dry lacquer powder, colored lacquer, gold powder	5 x 9.6 x 7.2cm	5 x 9.6 x 7.2cm
		菊文金蒔絵変香合	Incense case, chrysanthemum design, maki-e	2012	桧、象牙、切金、金粉	Japanese cypress, ivory, gold plate, gold powder	6.2 x 9.1 x 6.3cm	6.2 x 9.1 x 6.3cm
山崎つる子	YAMAZAKI Tsuruko	ブリキのたく(ら)み	Plot of Tin	2011	染料、クリアラッカー、ビニールシンナー、ブリキ	dye, lacquer, vinyl thinner, tin	可変 (各93.2 x 93.2cm, 10点)	dimensions variable (93.2 x 93.2cm each, 10 pieces)

寄贈作品

作家名(日)	作家名(英)	作品名(日)	作品名(英)	制作年	素材(日)	素材(英)	サイズ(日)	サイズ(英)	寄贈者(日英)
ホンマタカシ	HOMMA Takashi	Trails	Trails	2009	Cプリント	type C print	各58.4 x 41.4cm (全30点)	58.4 x 41.4cm each, 30 pieces	ホンマタカシ氏 gift of HOMMA Takashi
ピーター・マクドナルド	Peter MCDONALD	高砂スクロール	Takasago Scroll	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	19.4 x 300.1cm/ 19.4 x 239.7cm/ 19.4 x 434.9cm/ 19.4 x 134.6cm (4枚組)	19.4 x 300.1cm/ 19.4 x 239.7cm/ 19.4 x 434.9cm/ 19.4 x 134.6cm, set of 4	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		港の恋人	Harbour Couple	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	18.2 x 25.7cm	18.2 x 25.7cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		Home Discoの DJたち	Home Disco D.J.'s	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	22 x 32.7cm	22 x 32.7cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		金沢能楽美術館 3階の窓 (a)	Kanazawa Noh Museum Window, 3rd Floor (a)	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	25.5 x 25.5cm	25.5 x 25.5cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		金沢能楽美術館 3階の窓 (b)	Kanazawa Noh Museum Window, 3rd Floor (b)	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	25.4 x 25.5cm	25.4 x 25.5cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		スクロール・ ペインティング	Scroll Painting	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21.1 x 25.7cm	21.1 x 25.7cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		美術館監視員	Museum Guard	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21.1 x 4.2cm	21.1 x 4.2cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		抽象画	Abstract Painting	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21 x 29.8cm	21 x 29.8cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		太陽	Sun	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	29.8 x 21cm	29.8 x 21cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		歯科医術	Dentistry	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21 x 29.8cm	21 x 29.8cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		生け花をする花屋	Ikebana Florist	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21 x 29.7cm	21 x 29.7cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		モダン・ダンスの動き	Modern Dance Moves	2011	アクリル・ グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	25.7 x 18.3cm	25.7 x 18.3cm	ピーター・ マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD

ピーター・マクドナルド	Peter MCDONALD	リヒター・トーク	Richter Talk	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21 x 30cm	21 x 30cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		「ほかのあたまをつくろう!」ワークショップ 2	Hokano Atama Making Workshop 2	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21 x 29.6cm	21 x 29.6cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		Old Mellow Days	Old Mellow Days	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	18.2 x 25.6cm	18.2 x 25.6cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		月見	Moon Viewing	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	30.5 x 28cm	30.5 x 28cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		父と息子	Father and Son	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	27.6 x 30cm	27.6 x 30cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		彫刻	Sculpture	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	29.8 x 32.1cm	29.8 x 32.1cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		手作りのビスケット	Home Made Biscuits	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	29.7 x 21cm	29.7 x 21cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		大きな字	Big Character	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	29.8 x 21.1cm	29.8 x 21.1cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of the Peter MCDONALD
		昼にいい寿司を食べる	Good Sushi Lunch	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21.1 x 29.6cm	21.1 x 29.6cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
		雪景色	Snow Scene	2012	アクリル・グワッシュ/紙	acrylic gouache on paper	21 x 29.7cm	21 x 29.7cm	ピーター・マクドナルド氏 gift of Peter MCDONALD
中村信喬	NAKAMURA Shinkyō	羅馬聖光	Roman saint looking at holy light	2011	陶土	ceramic	42 x 18 x 15cm	42 x 18 x 15cm	中村信喬 gift of the NAKAMURA Shinkyō
		辺月	Far Country Moon	2011	陶土	ceramic	39 x 16 x 17cm	39 x 16 x 17cm	中村信喬 gift of the NAKAMURA Shinkyō
		聖堂	Church	2011	陶土	ceramic	41 x 17 x 15cm	41 x 17 x 15cm	中村信喬氏 gift of NAKAMURA Shinkyō
野口春美	NOGUCHI Harumi	猪	Boar	2012	陶土	ceramic	18.7 x 37 x 15cm	18.7 x 37 x 15cm	野口春美氏 gift of NOGUCHI Harumi
		八侯のおろち	Yamata no Orochi	2012	陶土、木	ceramic, wood	54.9 x 73 x 29cm	54.9 x 73 x 29cm	銀座一穂堂 gift of Ginza Ippodo gallery
「雲龍庵」北村辰夫	Unryuan, KITAMURA Tatsuo	蛸蒔絵聖卵	Sacred egg casket, firefly design, maki-e	2010	漆、麻布、金、銀、貝、イエローゴールド、ホワイトゴールド	lacquer, linen, gold, silver, shell, yellow gold, white gold	7.5 x 8.8 x 6.7cm (本体: 6.8 x 8.7 x 6.8cm)	7.5 x 8.8 x 6.7cm (body: 6.8 x 8.7 x 6.8cm)	表記しない
		花蒔絵伽羅箱	Box for incense wood, floral design, maki-e	2011	漆、麻布、金、銀、貝	lacquer, linen, gold, silver, shell	5.4 x 8 x 8cm	5.4 x 8 x 8cm	表記しない
		華蒔絵聖卵	Sacred egg casket, floral design, maki-e	2012	漆、麻布、金、銀、貝、四分一	lacquer, linen, gold, silver, shell, shibuichi	15.8 x 6.8 x 6.8cm (本体: 8.5 x φ6.8cm)	15.8 x 6.8 x 6.8cm (body: 8.5 x φ6.8cm)	表記しない

(米田晴子/キュレーター)

金沢21世紀美術館学芸課 事業報告2010-2012年度

Curatorial Section, 21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa  
Annual Report for the Year 2010-2013

編集統括：金沢21世紀美術館学芸課  
デザイン：塩谷啓悟、岸本倫子、南 琢也

Editorial Supervision by Curatorial Section,  
21st Century Museum of Contemporary Art, Kanazawa  
Designer: Keigo Shiotani, Rinko Kishimoto, MINAMI Takuya

発行：金沢21世紀美術館  
石川県金沢市広坂1-2-1  
tel 076-220-2801 | fax 076-220-2806  
<http://www.kanazawa21.jp>

Published by 21st Century Museum of Contemporary Art,  
Kanazawa  
1-2-1 Hirosaka Kanazawa, Ishikawa 920-8509 Japan  
tel. +81-76-220-2801 fax +81-76-220-2806  
<http://www.kanazawa21.jp>

発行日：2016年3月31日

published on March 31, 2016

©2016 金沢21世紀美術館および著作者  
(禁無断転載)

©2016 21st Century Museum of Contemporary Art,  
Kanazawa and the authors

ISBN:978-4-903205-52-6

No part of this publication may be reproduced in  
any form or by any means.  
All rights reserved